

飯能市郷土館館報

郷土館のプロフィール

Profile 2016

実績報告書

第14号

平成28年度



飯能市郷土館

あいさつ

飯能市郷土館館報(活動報告書)「郷土館のプロフィール」は、その年度の実績報告書として、当館の活動の総体を市民のみなさまに知ってもらうとともに、飯能市が博物館を直営で運営する意義や存在価値を理解してもらうことを目的として発行しています。

ご承知のように、平成2年4月20日に開館いたしました当館は、27年目にあたる平成28年度から常設展示改装事業に着手し、この年度に展示設計を行い、さらに今年度は6月1日から休館し、常設展示改装工事を実施いたしました。新たに当館が所在する飯能河原・天覧山周辺の自然のビジターセンター的機能を追加し、歴史博物館としての役割を強化するための展示改装となります。そして平成30年4月1日、名称を「飯能市立博物館」と変更しリニューアルオープンいたします。したがって、平成28年度事業を対象としたこの第14号は、常設展示改装に至る経緯と、展示設計業務の内容が盛り込まれている点が例年と異なり、同時に飯能市郷土館が発行する最後の館報ということになります。

さて、当館では展示、学習会をはじめとして、収集・保存、調査・研究といった分野で様々な活動を展開しておりますが、それぞれの事業が終了するたびに、担当者が自己評価を加え、次年度のさらなる充実を図っております。それから年度が変わり、少し時間をおいて作成するこの「実績報告書」は、改めてその事業の意義、効果などを検証するよい機会となっています。特に当館の利用に関わる活動については、その実績をより明確にするため、前年度はもちろん、長いスパンだと10年分の活動の状況などとの比較も行いますので、当該年度の状況を受け止め、今後目指すべき方向性も意識することとなるのです。

4月からは飯能市立博物館としての活動が始まります。この第14号編集過程でのふり返りが新たな博物館活動への基礎となることはもちろん、さらには当館の事業データ総体が博物館学の発展に貢献できることを期待しています。今後ともみなさまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年3月

飯能市郷土館
館長 尾崎泰弘

目 次

あいさつ	1
目 次	2
沿 革	3

第1章 施設

建物平面図	6
面積表・施設等修繕	7
常設展示・名栗くらしの展示室	8

第2章 事業

平成28年度の事業	10
平成28年度教育行政重点施策とその評価	11
展示	
（収蔵品展・特別展）	12
（その他の展示）	20
講座・学習会	23
交流	27
博学連携	34
資料・施設の利用	38
レファレンスの対応	40
講師派遣	41
収集	42
整理・保存	44
調査・研究	46
情報発信	48
事業支援	49
郷土館協議会	50
博物館実習	51

第3章 常設展示改装

常設展示改装に至る経緯	54
常設展示改装に関する計画	55

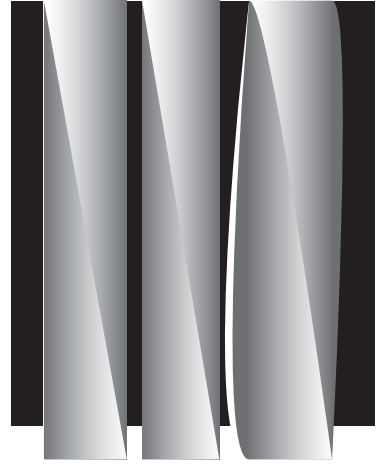
第4章 各種データ

利用者数	68
歳出予算・決算	69
図書資料寄贈機関	70
飯能市郷土館条例・施行規則	72
職員	75
利用案内	76

沿 革

年月日	できごと
昭和46(1971)年3月	「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店より寄附された1千200万円が予算化される。
昭和61(1986)年3月	(株)丸広百貨店より寄附された観光施設整備基金約2億1千万円を郷土館建設基金に繰り入れる。
昭和61(1986)年6月	飯能市文化財保護審議委員会へ、郷土館建設基本構想・基本計画策定について諮問する。
昭和62(1987)年3月	飯能市文化財保護審議委員会から郷土館建設基本構想・基本計画が答申される。
昭和62(1987)年7月	(株)平安設計による建築設計を開始する。
昭和62(1987)年10月	(株)タイムアートデザインによる展示基本設計を開始する。
昭和63(1988)年6月	市川・前久保建設共同企業体による建築工事に着工する。
平成元(1989)年4月	社会教育課内に郷土館準備係(係長1・係員1)が配置される。
平成元(1989)年6月	(株)タイムアートデザインによる展示工事に着手する。
平成元(1989)年12月	飯能市郷土館条例が制定される。
平成2(1990)年4月	飯能市郷土館友の会が結成される。
平成2(1990)年4月	飯能市郷土館が開館する。 (常勤職員は館長、学芸員1、主事補1)
平成2(1990)年4月	開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」・「わたしの宝物ー思い出に残る品々ー」開催。
平成2(1990)年8月	夏休み子ども歴史教室開催。(以後、毎年実施)
平成2(1990)年11月	古文書講座「むかしの飯能を知ろう」開催。この講座の受講生を中心に「古文書同好会」が結成され、現在も自主活動を続ける。
平成3(1991)年4月	特別展「能仁寺と黒田氏」開催。(10月にも特別展を開催し、以後平成10年秋まで春・秋の年2回特別展開催となる)
平成3(1991)年7月	郷土館友の会主催による郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」開催。
平成4(1992)年8月	埋蔵文化財出土品展「掘り起こせ!古代からのメッセージI」を開催。(生涯学習課と共催で平成6年までは毎年、その後は隔年で開催)
平成4(1992)年10月	特別展「絵図からの伝言」開催。この特別展より企画委員会を組織し、展示構成を検討することとなる。(平成14年秋の「うちおり」展まで)
平成5(1993)年1月	郷土館友の会主催による「まゆ玉づくり」開催、以後平成22年1月まで毎年実施。(それ以後は館主催事業)
平成5(1993)年6月	開館以来の入館者数が10万人を突破。
平成6(1994)年3月	『飯能の昭和史年表』発行。
平成6(1994)年4月	開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催。この展示で初めて特別展の図録をつくる。
平成6(1994)年10月	特別展「ジャパン・マイセンー瀬戸の磁器人形ー」開催。この展示で、1日平均入館者数最多の205.6人を記録する。(開館記念特別展を除く)
平成7(1995)年7月	常勤職員が4人(館長、学芸員2、主事補1)となる。
平成8(1996)年5月	開館以来の入館者数が20万人を突破。
平成8(1996)年8月	常設展示等企画委員会が発足し、当館の改善すべき点をまとめる。(任期は平成10年3月まで)
平成8(1996)年10月	特別展「飯能の刀匠ー小沢正壽を中心としてー」開催。会期中に展示図録が完売する。
平成9(1997)年3月	『館報』第1号発行。
平成10(1998)年9月	「中学校社会科研究展」開催。(以後毎年実施)

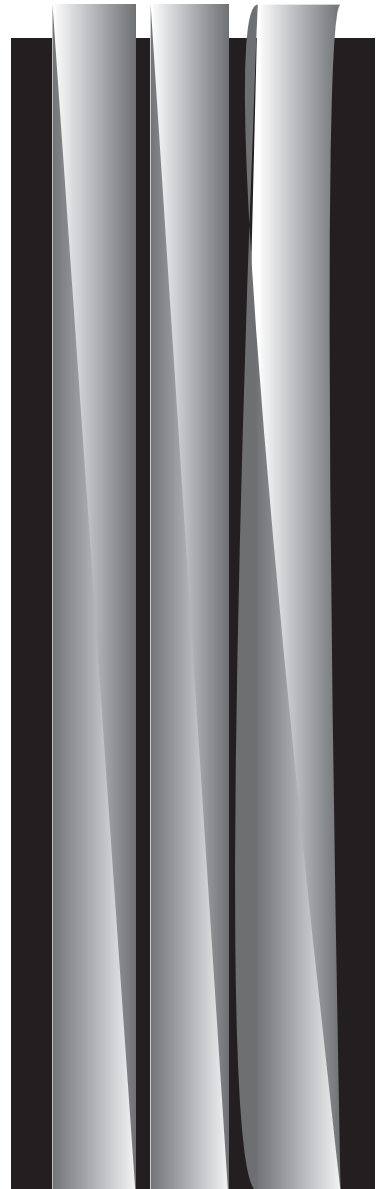
年月日	できごと
平成10(1998)年11月	市民との交流事業「定点撮影プロジェクト」開始。
平成11(1999)年3月	収藏品展開催。(これ以降、毎年春に収藏品展、秋に特別展という枠組みになる)
平成11(1999)年12月	開館以来の入館者数が30万人を突破。
平成12(2000)年1月	第Ⅰ期市民学芸員養成講座開始。
平成12(2000)年3月	博物館法に基づく登録博物館となる。
平成13(2001)年2月	第Ⅱ期市民学芸員養成講座を実施。
平成13(2001)年3月	『研究紀要』第1号発行。
平成13(2001)年9月	これまでの「中学校社会科研究展」に小学生も対象に加え、「小中学校社会科研究展」として開催。
平成13(2001)年10月	特別展「黎明のとき 一飯能焼・原窯からの発信一」開催。この特別展より夜間開館を実施する。
平成14(2002)年10月	当館ホームページをインターネット上で公開し始める。
平成15(2003)年3月	『収蔵資料目録1 写真資料目録その1』発行。
平成15(2003)年7月	市制施行50周年記念特別事業として特別展「写真でたどる飯能市の50年」開催。
平成15(2003)年8月	開館以来の入館者数が40万人を突破。
平成16(2004)年2月	第Ⅲ期市民学芸員養成講座実施。
平成16(2004)年10月	入間川4市1村合同企画展「筏師が見た入間川 一その流域の今昔一」開催。
平成17(2005)年1月	名栗村との合併にともない、名栗村史編さん事業を当館が引き継ぐ。
平成19(2007)年3月	当館所蔵の「飯能の西川材関係用具」が埼玉県有形民俗文化財に指定される。
平成19(2007)年4月	開館以来の入館者数が50万人を突破する。
平成19(2007)年4月	第Ⅳ期市民学芸員養成講座実施。
平成19(2007)年6月	市民のコレクションを展示する第1回「マイ・コレ。」(マイ・コレクション展)を開催する。(以後、平成23年まで7回実施)
平成22(2010)年3月	『名栗の歴史(下)』を刊行し、名栗村史編さん事業が終了する。
平成22(2010)年5月	第Ⅴ期・Ⅵ期市民学芸員養成講座実施。
平成22(2010)年10月	飯能市埋蔵文化財保護行政30周年記念特別展「大地に刻まれた飯能の歴史 一30年の発掘調査成果から一」開催。
平成23(2011)年4月	飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会を設置し、旧名栗村で収集した民俗資料の保存・活用について検討を始める。(平成25年3月まで)
平成23(2011)年10月	特別展飯能戦争「飯能炎上 一明治維新・激動の6日間一」開催。会期中に展示図録が完売し、300部増刷する。(当館発行の刊行物増刷は初めて)
平成24(2012)年4月	当館館長に初めて学芸員有資格者が就任する。
平成24(2012)年6月	史料集活用講座「地域を学ぶ・調べる・歩く」実施。(全3回)
平成25(2013)年10月	収蔵絵画のうち216点を精明小学校内絵画保管室に移す。(計342点を同室で保管)
平成26(2014)年5月	開館以来の入館者数が70万人を突破する。
平成26(2014)年5月	第Ⅶ期・Ⅷ期市民学芸員養成講座実施。
平成26(2014)年6月	名栗くらしの展示室を開設する。
平成27(2015)年5月	収藏品展「おふだ大集合！」と歴史講座をセットで開催する。
平成28(2016)年8月	「飯能市郷土館常設展示改装に関する計画」策定、郷土館協議会で承認される。
平成28(2016)年9月	(株)ムラヤマによる常設展示改装展示設計業務を開始する。(平成29年2月完成)



第 1 章

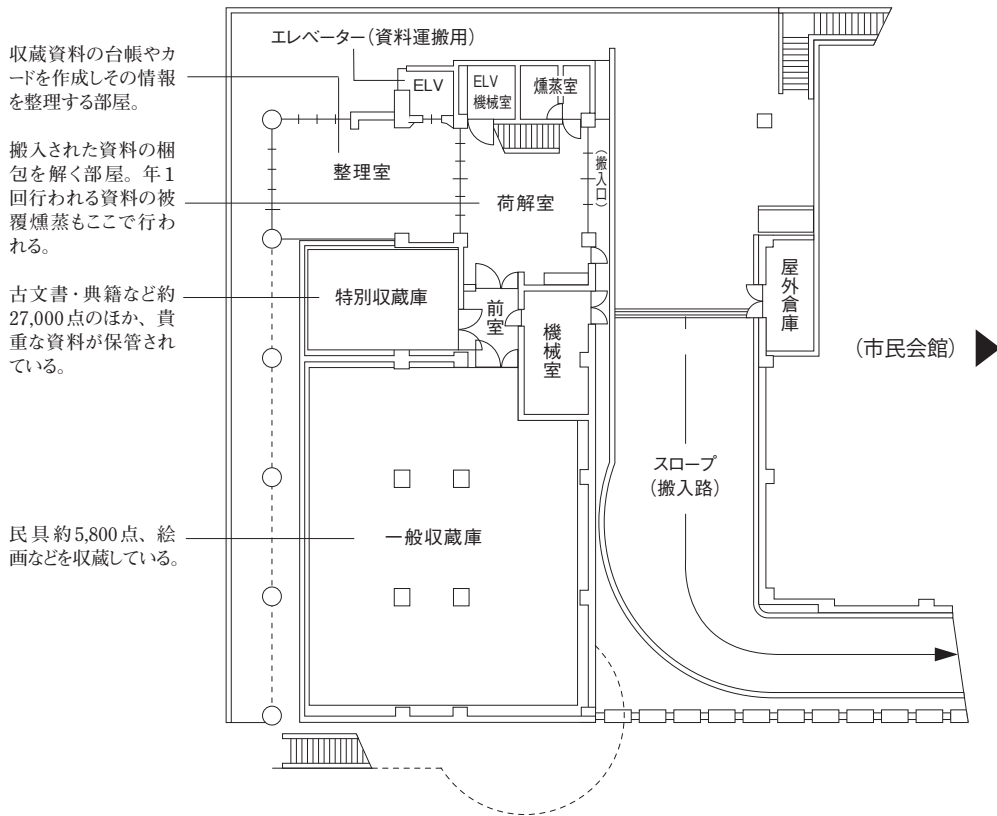
..... Chapter 1

【 施 設 】

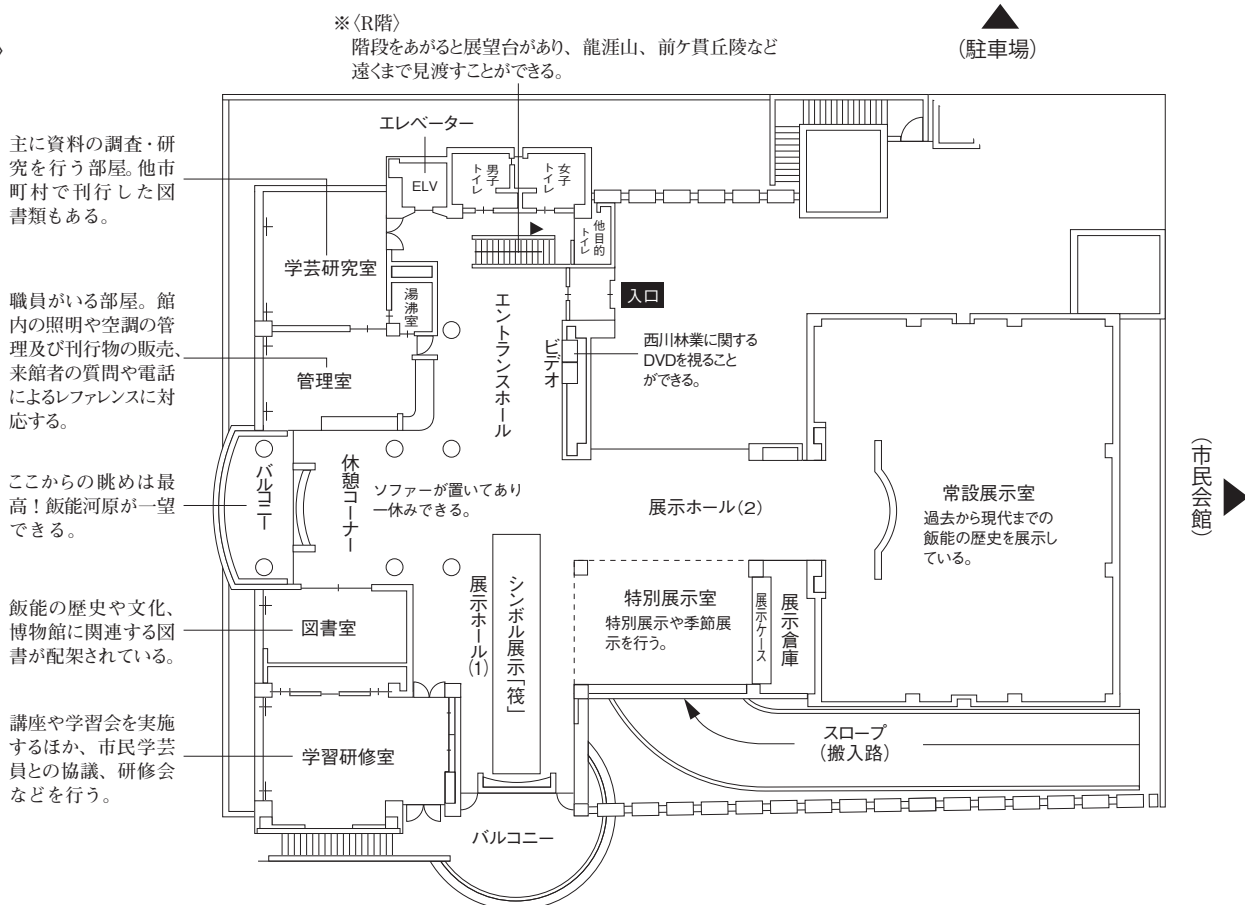


建物平面図

< 1階 >



< 2階 >



面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積
1 階	497.458	休憩コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	多目的トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
		エレベーター	7.500
2 階	959.774	R階	40.040
常設展示室	273.965	階段	15.846
特別展示室	59.850	階段ホール	15.944
展示倉庫	20.675	エレベーター	8.250
展示ホール (1)	139.750		
展示ホール (2)	88.128		
エントランスホール	103.131		
		合計	1,497.272

〈用途別面積一覧表〉

用途	内 訳	面積 (㎡)	割合 (%)
教育普及	展示 (常設展示室・特別展示室・展示ホール)	561.693	37.5
	その他 (学習研修室)	62.779	4.2
収集・保存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調査・研究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管 理	(管理室)	38.558	2.6
そ の 他		377.720	25.2

敷地面積 3,626.12㎡ 建築面積 1,165.999㎡

施設等修繕

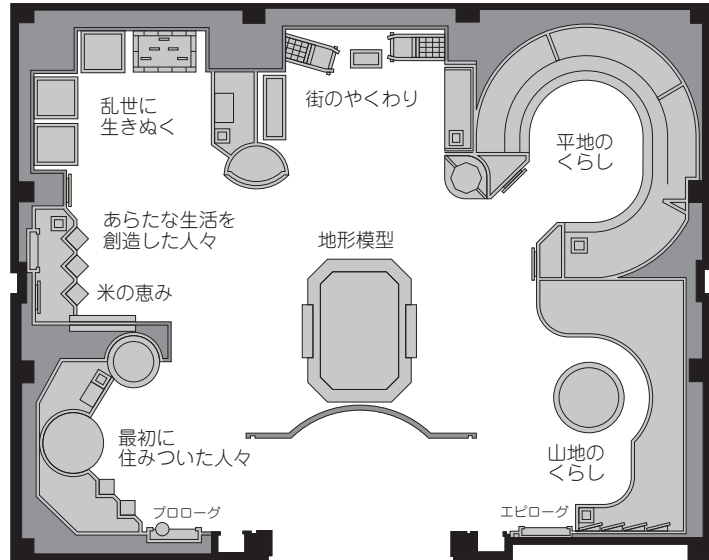
- ・休憩コーナー天井埋込換気扇交換(4月)
- ・学習研修室移動テーブル修繕(4月)
- ・管理室、学芸研究室網戸修繕(6月)
- ・休憩コーナー照明器具修繕(9月)
- ・展示ホール照明器具修繕(2月)
- ・エントランスホール、常設展示入口前非常口誘導灯取替(3月)

常設展示・名栗くらしの展示室

● 常設展示室

平成2年4月の開館以来、26年が経過した当館の常設展示は、クロス汚れ、展示台やコルトン(内側から蛍光灯で照らしたパネル)の褪色、縄文人の皮膚の剥落、地形模型の表面のひび割れなどの劣化が目につくようになってきた。そして平成28年度、いよいよ改装に向けての設計業務を行うこととなった。詳しい経緯は、第3章をご覧ください。

対象は、休憩コーナー、展示ホール(1)に位置するシンボル展示「筏」及び常設展示室で、455㎡である。



当館常設展示室平面図



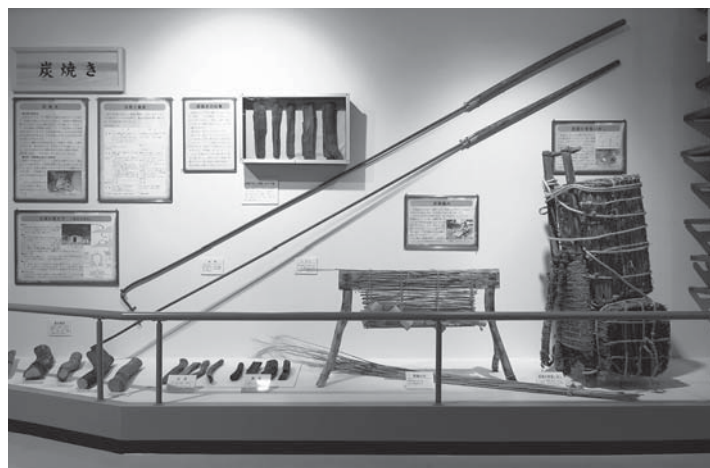
常設展示室 地形模型・山地のくらし



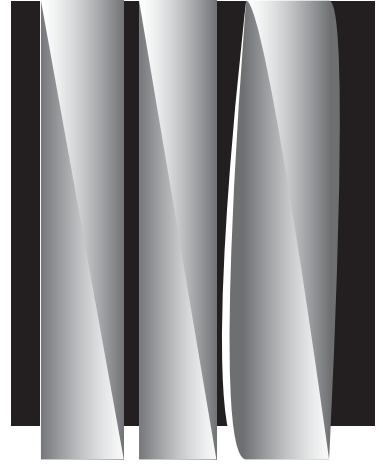
常設展示室 地形模型・街のやくわり・乱世をいきぬく

● 名栗くらしの展示室

名栗くらしの展示室は、飯能市と名栗村の合併10周年記念事業として設置された。名栗村時代より収集されてきた民具の活用と、平成21年度に完結した名栗村史編さん事業の成果を展示することを目的としたものであるが、名栗地域の歴史が反映されていない当館の常設展示室を補完する機能も有している。



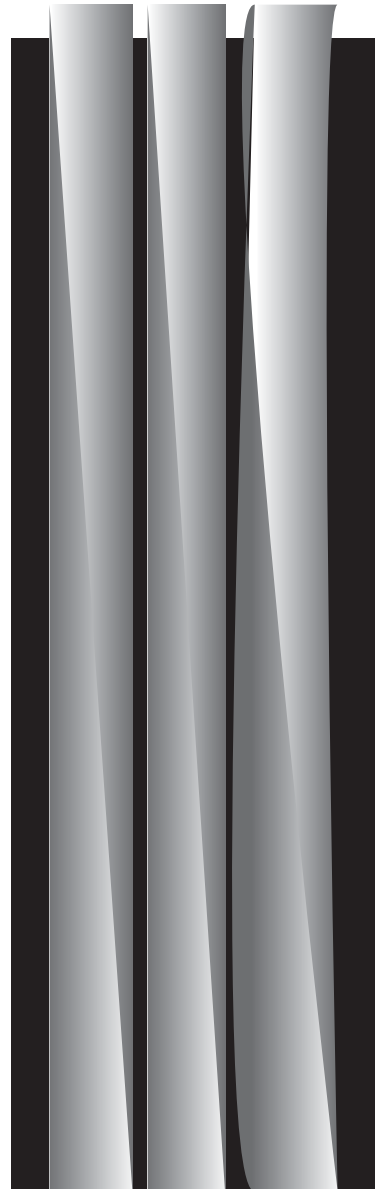
名栗くらしの展示室「炭焼き」のコーナー



第 2 章

…… Chapter 2 ……

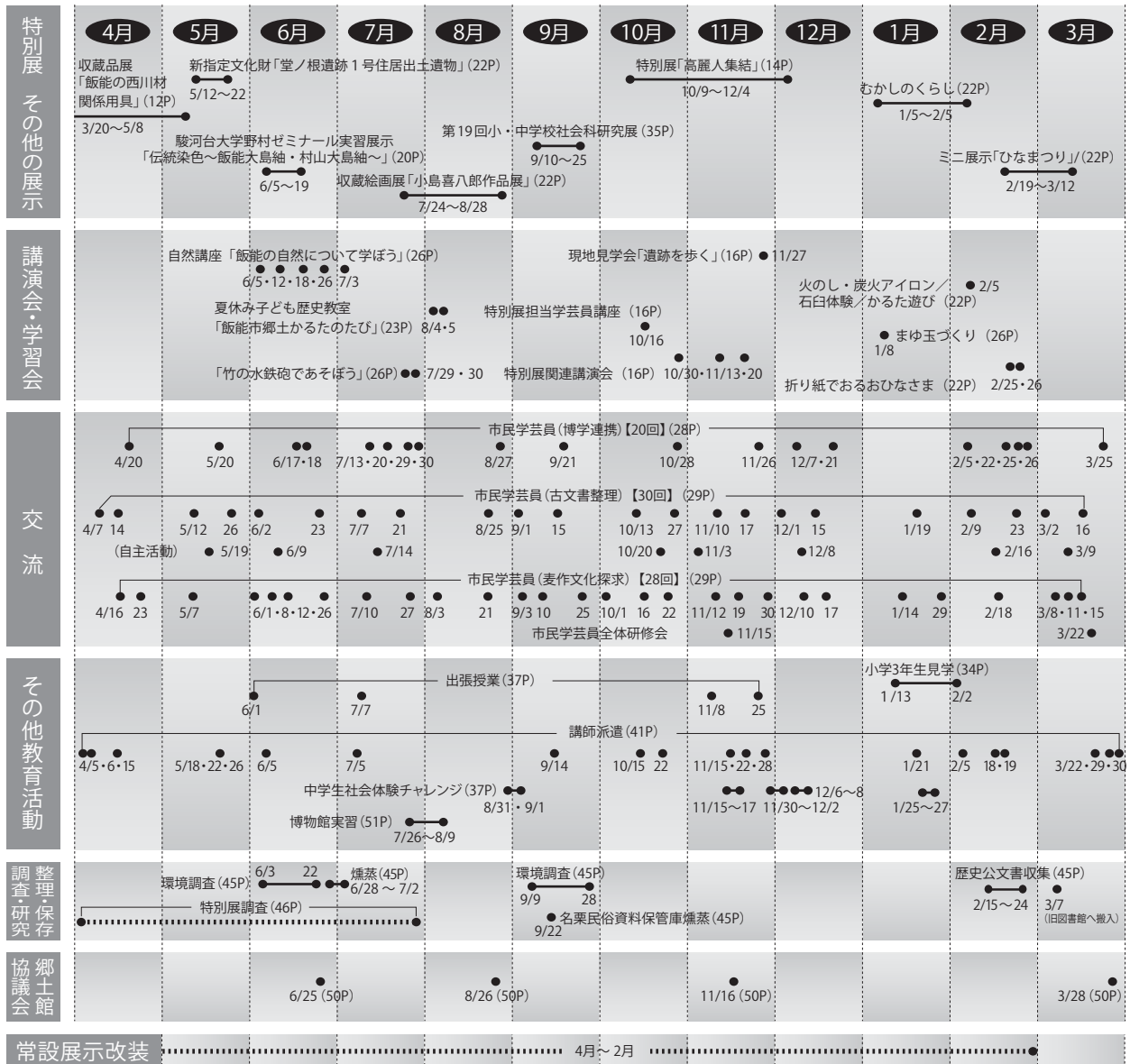
【 事 業 】



平成28年度の事業

平成28(2016)年度は、霊亀2(716)年に高麗郡が建郡されてからちょうど1300年目の年にあたるため、秋に特別展「高麗人集結」を開催した。ただし、高麗神社や聖天院の存在、あるいは遺跡の分布や出土遺物などから古代高麗郡の中心は現在の日高市域であり、また既に21世紀に入った頃から高麗神社を中心にそれに向けての取り組みが始まっていた。その点では、本市域は歴史的にも事業の展開からいっても周縁にあたっていただけであるが、一方で、その多くが古代の高麗郡に属すると思われる日高市、鶴ヶ島市、飯能市の中にあつて、博物館を設置しているのは本市だけであり、その中で存在感はある程度アピールできたように思われる。

また当該年度は常設展示改装工事の設計委託事業を9月から翌年2月にかけて行ったが、本格的な準備は年度当初から開始していた。現在の常設展示の課題を整理し、新たな常設展示のあり方に関するコンセプトをまとめ、それを具体的な展示の内容へと落とし込んでいく作業を、通常の運営と並行して進めていくことは、時間的にも厳しく、また膨大な作業量を伴った。ここで詰め切れなかった点については結局、次年度において取り組むこととした。



○平成28年度 飯能市教育委員会・教育行政重点施策とその評価

No.	重点施策名	目標	目指す達成点・到達点 (何ほどのようにどこまでやるか)	達成指標と目標値 (達成状況を示す指標)	達成報告 (結果とその成果)	達成率	評価	今後の課題と指示事項
1	教育振興 基本計画 に基づく 施策の体 系	新規 取組年数 (年)	地域の魅力や特性を 究明することを目的と し、収蔵資料から地域 の情報を引き出し、そ れを多くの人々が利用 できるようにするた め、収蔵資料の整理 を推進する。	古文書、民具、古写真 の整理をすすめる、資料 カード作成と台帳登録を 行う。	収蔵資料の整理をすすめる、 民具50点以上、古文書300 点以上、古写真100点以上 のカードを作成し台帳に登 録する。	100%	A	資料の整理は、地域の 魅力や特性を究明する ためや多くの人が利用 できるようにするために 不可欠であり、博物館活 動の根本的な業務であ るため、引き続き計画的 に進める必要がある。
	事業名 収蔵資料の整理	継続 取組年数 (1/5年)						
2	教育振興 基本計画 に基づく 施策の体 系	新規 取組年数 (2年)	来訪者に天覧山・飯 能河原周辺の自然を 含めた魅力を伝える とともに、街や山間地 域の魅力を発信する ことを目的とし、常設 展示を時代に合った 内容に改装する。	・展示方針を設定後、展 示構想を決定し、設計 業者を選定して基本設 計、実施設計を行う。 ・設計にあたっては関係 する市民や団体の意向 を聞くとともに、必要に 応じて郷土館協議会に 報告して了承を得る。	2月までに設計業者と12回の打合せを行った。 郷土館側の考え方を理解してもらい、要望を取 り入れてもらえるよう資料作成、連絡調整に工 夫、配慮した。また、専門的な展示知識も習得し ながら、職員全員で協議した上で対応した。こ の結果、常設展示改装の設計を終了した。 設計途中の段階で、郷土館協議会に報告、 確認をするとともに、庁内関係各課との調整は 行ったが、関係する市民や団体の意向を聞く ことはできなかった。	90%	B	今回の設計をもとに次 年度工事を実施するこ とになるため、設計段階 で意図したことを反映で きるように、配慮すること が必要である。
	事業名 常設展示の改装	継続 取組年数 (/)						
3	教育振興 基本計画 に基づく 施策の体 系	新規 取組年数 ()	地域情報の積極的な 発信の一つとして、高 麗郡建郡1300年記念 をテーマとした特別展 を開催し、内容の充実 を図り、高麗郡建郡の 意義を伝える。	・高麗郡建郡が飯能市域 に対して大きな意義があ ったことを伝える内容の 特別展とする。 ・関連する日高市や高麗 郡建郡1300年記念事業 委員会などと連携して事 業をすすめる。	特別展の1日平均入館者数133.3人、満足 度82%と、目標を上回った。 3回の関連講座とも参加者は40人以上で盛 況だった。 高麗郡の建郡が飯能市にとって重要な歴 史の一環であることを多くの人に伝えること ができた。	100%	A	特別展は地域の魅力を 発見し、発信するために 大きな役割を担ってい る。今後この趣旨に合 致するような特別展を企 画し、多くの方に見ても らえるように配慮する。
	事業名 特別展の充実	継続 取組年数 (1/5年)						
4	教育振興 基本計画 に基づく 施策の体 系	新規 取組年数 (5年)	天覧山・飯能河原周 辺の魅力を発信する ために、自然に関する 写真データを収集す る。	・天覧山・飯能河原周 辺の自然保護や活用を 行っている団体や個人 に、この地域の自然に関 する写真の提供を呼び かける。 ・収集する写真は、今後 郷土館での展示や事業 に利用できるものとする。	天覧山・飯能河原周辺の自 然に関する写真データ 1000点以上収集する。	100%	A	展示に使用する自然関 係の写真がすべて集 まっているわけではない ため、引き続き収集して いく必要がある。
	事業名 天覧山・飯能河原周辺の自 然に関する情報の収集	継続 取組年数 (/)						

新規 … 今年度新たに取組む施策。取組年数は、第2期教育振興基本計画の計画期間(5年間)の中で取組む年数。
継続 … 第2期教育振興基本計画以前から継続している施策。取組年数は、第2期教育振興基本計画期間中の(実施年数/取組む年数。)

展 示

収蔵品展

飯能の西川材関係用具 同時開催：新収蔵品展

期 間	平成28年3月20日(日)～5月8日(日)					
開館日数	49日間					
入館者数	3,655人 (1日平均74.6人)					
展示点数	64点					
総 経 費	259,880円 (入館者1人あたり71.1円)					
(内 訳)	印 刷 費	77,760	写真関係費	42,897	展示委託料	74,520
	通信運搬費	14,007	消耗品費	2,606	非常勤報酬	48,090

1 趣 旨

当館で所蔵している「飯能の西川材関係用具」448点は、平成19(2007)年3月に埼玉県有形民俗文化財に指定された。このコレクションは、昭和50年代から市民の方々から寄贈されたものを中心とするもので、飯能の発展を支えてきた西川材の生産に欠かすことができなかつた道具類である。しかも、苗木を植える植林から伐採、製材に至るまで、西川材生産のほぼ全ての過程の用具を網羅している。まさに、「森林文化都市・飯能」にふさわしい文化遺産と言える。

これらの道具類の展示を通し、森林を育て、森林に育てられてきた人々の知恵や技術、森林とともにあった生活スタイルに見られる「飯能の森林文化」を伝えることを目的に開催した。

2 展示の構成

文化財指定を受けている当館収蔵資料のうち代表的なものを、以下の4つの工程に分けて展示した。さらに、森林を育て、森林に育てられてきた人々の知恵や技術、森林とともにあった生活スタイルに見られる「飯能の森林文化」の特徴を示した。

○育林 ～森林を育む～

森林を育む仕事には、木を植える植林、山の草刈りである間刈り(下刈り)、不要な枝を落とす枝打ちなどがある。植林に用いる唐鍬、間刈用の鎌である間刈鎌、枝打ちで用いる大鉈やむかで梯子などを展示した。

○伐採 ～仕事師の技～

伐採に携わる人のことを飯能周辺では「仕事師」といい、彼らの仕事は困難で危険を伴うものであった。そのため彼らの道具に対する思い

入れはとて強く、特に道具の手入れは念入りに行っていた。斧や鋸など仕事師たちの誇りを今に伝える道具を展示した。

○搬出 ～最も危険な仕事～

木を運び出す作業のことを「ダシ(出し)」といい、乾かしてから運ぶとはいえかなりの重さがあったため、時には命を落とすような事故もあった。また搬出が困難な場合は多くの人手がかかるため、経営的な視点がないと損をする恐れもあった。ここでは、ソリや大鷲など大型のものが多い搬出の道具を展示した。

○加工 ～森林の恵みを無駄なく活かす知恵～

木を伐採するとその場で樹皮をむき、丸太はそのまま使うこともあれば、板や角材にすることもあった。板材などに加工する「木挽き」で使われる前挽鋸、角材に削り出す時に使われるケズリヨキなどの道具を展示した。

3 印刷物

ポスター (B2判カラー) 300枚



展示風景

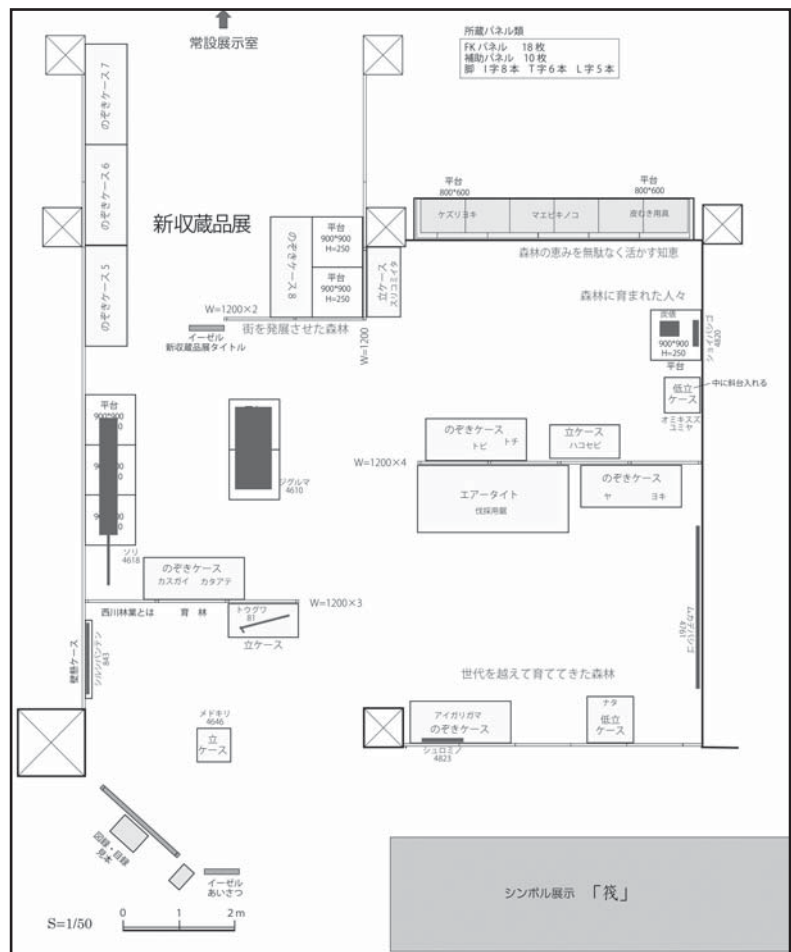
4 評価

「飯能の西川材関係用具」を展示するのは、指定記念事業として開催した平成19年度特別展「西川林業の道具」以来となる。アンケートで印象に残った資料や自由記述欄に書かれたことを紹介することで、本展の評価に替えたい。

- 材木関係の道具に圧倒された。(60歳代・男)
- 西川材の歴史、道具や厳しい作業のなかで先人たちが工夫をし継いで来てくれたことに感謝。(60歳代・女)
- 昔の人の使用したノコギリが印象に残りました。(60歳代・男)
- 私も島根の山の方で育ちいろいろななつかしい用具に接し田舎を思い出し、一瞬今はない両親をしのびました。ありがとうございました。(80歳以上・女)
- 全体的によくまとまっており、見やすく子どもにもわかる音やことば(話しかけ)で演出されていて、飽きない工夫が良かった。(50歳代・男)
- 植林～搬出までの西川材の歴史を目で見ることができ、また、山に対する思いや愛情さえも感じました。とても素晴らしいことだと思います。(50歳代・男)
- ムカデばしこ、職人自身が手作りしていたというのがおどろき。(50歳代・女)
- 道具と使用しているところの写真を展示することで、その道具がどのように使われているのかが分かりやすくなり、工夫されていると感じた。(15～19歳・女)



入館状況



展示の会場配置図



収藏品展ポスター

高麗人集結 — 霊亀2年にやってきた開拓者たち —

期 間	平成28年10月9日(日)～12月4日(日)							
開館日数	47日間							
入館者数	6,264人 (1日平均133.3人)							
展示点数	180点							
総 経 費	1,506,140円 (入館者1人あたり240.4円)							
(内 訳)	印 刷 費	613,440	写真関係費	82,468	展示委託料	99,360	通信運搬費	340,178
	消耗品費	101,850	報 償 費	36,000	非常勤報酬	166,880	図 書 費	36,602
	旅 費	21,072	通 行 料	8,290				

1 趣 旨

高麗郡は、高句麗系渡来人及びその子孫である高麗人が集められ置かれた郡である。霊亀2(716)年の建郡以降、明治29(1896)年に入間郡と合併するまで、1180年にわたり存在していた。

これまでに実施された発掘調査の成果から、弥生・古墳時代の遺跡が数えるほどしかない飯能・日高両市域内において、高麗郡が置かれた奈良時代初め以降、小河川沿いを中心に多くの集落が形成されることが明らかとなっている。これらの集落遺跡は、高麗人たちの村の跡と推測されている。

以上のように、高麗郡が置かれ古代の飯能の地で開拓が行われたことは、飯能市域の歴史の中で極めて大きな意味を持つ。平成28(2016)年は、高麗郡が置かれてから1300年の記念すべき年であり、本特別展では古代の高麗郡について、改めて市民をはじめとし広く伝えることを目的に開催した。

2 展示の構成

展示の構成については、決定に至るまでに非常に苦労した。展示により伝えたいことは色々あったが、主なものを二つ挙げると、一つは発掘調査の成果について、(その当方で)最新の情報を伝えたいということ、そしてもう一つは、古代の高麗郡に関する概論をまとめ提示しておきたいということがあった。

また一方で本展では、漫然と古代高麗郡の遺跡を並べることは避けたかった。「古代の高麗郡」と言った場合、それは古代の行政区画を指す。しかし行政区画そのものが歴史の主人公というわけではなく、歴史を作っているのはその土地

で生活していた人々である。つまりここでは高麗人たちが主人公ということになる。気づいてみれば当然のことなのであるが、高麗人を主軸に据えたストーリーを設定するという発想になかなか至らなかったわけである。高麗人を定点(出発点)に据えたことにより、ようやく展示の構成を行うことができた。

3 展示の概要

プロローグ

プロローグでは、近世における高麗郡の範囲、歴史書である『続日本紀』に、霊亀2(716)年に駿河・甲斐・相模・上総・下総・常陸・下野の7ヵ国に住む高麗人1,799人を武蔵国に移住させ、高麗郡を置いたという記述があること、平成28年が建郡1300年の記念の年であることなど、高麗郡に関する基本的な事柄について触れた。

I 高麗人

高麗人が古代の朝鮮半島北部にあった高句麗という国から日本列島に渡来した人々であること、歴史書にみる高麗人たちの渡来の時期・経



展示風景 入口部分

緯・身分・職業、東国における高麗人の推定居住地などを解説した。

『日本書紀』『続日本紀』などの歴史書の記述中、研究者から史実として考えられている渡来の経緯は、筑紫国(現九州北部)に渡来し、山背国(現京都府南部)に住む、外交使節の一員として渡来し国が滅んだため帰国できなくなる、百済・高句麗の士卒が国の滅亡により日本列島に逃げてくるなどである。

これらは時期的には6世紀中頃から百済・高句麗が滅ぶ7世紀中頃までであり、渡来の経緯や時期は多種多様だとわかる。

渡来した高麗人たちは日本列島の各地に住んだが、東国では現埼玉県の間間郡、東京都の狹江・調布・府中市域、山梨県の韮崎市及びその周辺域、神奈川県の大磯町、千葉県の上野市域、「葛飾郡桑原郷」、茨城県南部などが推定されている。

Ⅱ 高麗郡を置く

建郡当初の時期(8世紀初め頃)に、高麗丘陵を挟んだ北側の小畦川流域(日高市域)と、南側の南小畦川流域(飯能市域)において複数の集落が出現し、それが高麗郡の集落であると考えられている。

また、東国の7ヵ国からどのような道を使い移住してきたかを推測、常陸国からの移住の物的証拠である堂ノ根遺跡第1次調査1号住居跡出土須恵器・土師器(飯能市指定文化財)を展示した。あわせて堂ノ根遺跡出土資料と類似する常陸国の須恵器として、かずみがうら市一丁田窯跡出土須恵器などを借用して展示した。

高麗郡建郡の背景状況について触れるため、建郡直前期の集落である光山遺跡群(川越・日高市域に所在)などを紹介し出土資料を展示、建郡の目的を推測するため、高麗郡が置かれた間間郡及び周辺域での開発の先行事例(窯業に関連する丘陵開発や寺院の創建)、武蔵国内の状況(間間郡家の整備・武蔵国衙の建設・武蔵国分寺の造営)などに関する資料を展示した。

Ⅲ 高麗郷と上総郷

10世紀前半の辞典である『和名類聚抄』に、高麗郡には「高麗郷」「上総郷」の二つの郷があると記されていることを取り上げ、高麗郷・上総郷について遺跡発掘調査の成果を元に推測した。

高麗郷は日高市域に所在すると推測されており、郡の役所である郡家があったと考えられている。

日高市高萩地区の遺跡(拾石・王神・堀之内遺跡)から出土した鳥型硯・丸鞆(役人が正装時に

用いるベルトの飾り)・耳皿(箸置き)・「厨」(郡家を構成する施設の一つで、役人に給食を提供した)と墨書された須恵器坏などを日高市教育委員会から借用し展示、高萩地区に郡家が所在する可能性が高いと考えられていることについて触れた。あわせて、郡の主要な施設として挙げられる郡寺(女影廃寺)がやはり日高市高萩地区にあること、他にも高麗地区にある高岡廃寺、毛呂山丘陵上の大寺廃寺についても取り上げ出土資料(日高市指定文化財)を展示した。加えて高麗郡に関係する人物として、高倉朝臣福信と高麗若光を取り上げ、若光を御祭神としている高麗神社を紹介した。

もう一つの郷である上総郷は、飯能市域に所在すると推測されている。郷の中心的な集落としては市内最大級の奈良・平安時代遺跡である張摩久保遺跡が挙げられる。

張摩久保遺跡や隣接する遺跡から出土した硯・コップ型須恵器(枡に使用したと推測される)・錘など役人に関わりの深い道具や、隆平永宝(皇朝十二銭の一つ)・緑釉陶器・銅鏡などの貴重な品々、瓦・瓦塔・灯明皿など仏堂に関わりの深い資料などを展示した。

Ⅳ 開拓の様子

飯能・日高市域に所在する奈良・平安時代遺跡出土資料を展示、開拓が飯能・日高市域東部から始まり、平安時代には飯能市域西部の山間地域に至ることを解説した。

開拓民の暮らしぶりにも触れるため、展示資料は土師器・須恵器の土器にはじまり、稲作・畑作にも使用する鎌、製糸に使う紡錘車、編み物に使う編石、漁撈に使う土錘、伐採に使う鉄斧、小鍛冶の跡、火・灯りに関係する火打金・灯明皿、兵役に関係する可能性がある鉄鏃など、諸道具を網羅した。



「Ⅱ 高麗郡を置く」のコーナー

山間地域の開発に関しては、焼畑や炭焼きの可能性について触れ、天覧山北側の河原毛久保窯跡製品が山間地域の集落遺跡(茶内・横道下・ヨマキ遺跡)から出土し、入間川に沿って山間地域に入って行く須恵器の流通経路を想定、開拓者たちも同様の経路により山間地域に進出していく可能性を考えた。

エピローグ

平成28(2016)年5月22日に高麗郡建郡1300年記念事業として開催された「にじのパレード」の盛況(高句麗衣装を着用した3,000名が参加)について触れ、飯能・日高市域を見守る祖霊たる高麗人たちも喜んでいただいていたのではないかと締めくくった。

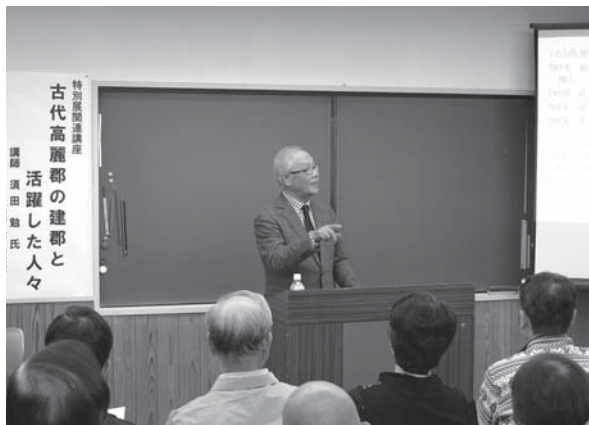
4 印刷物

ポスター(B2判カラー)	300枚
チラシ(A4判2ページカラー)	8,000枚
展示図録(A4判カラー56ページ)	800部

5 関連事業

◎関連講座

- ①「古代高麗郡の建郡と活躍した人々」
日 時 10月30日(日) 午後2時～4時
講 師 須田勉氏(元国士舘大学教授)
会 場 当館学習研修室
参加者 47人
- ②「古代の高麗郡を発掘する-その成果と意義-」
日 時 11月13日(日) 午後2時～4時
講 師 富元久美子氏(飯能市教育委員会)
会 場 当館学習研修室
参加者 39人
- ③「二つの『高麗王若光物語』に込めた思い」
日 時 11月20日(日) 午後2時～4時



関連講座「古代高麗郡の建郡と活躍した人々」須田勉氏

講 師 高麗文康氏(高麗神社宮司)

会 場 当館学習研修室

参加者 41人

◎現地見学会「遺跡を歩く-建郡当初の遺跡と平安時代の山間部開拓の遺跡」

日 時 11月27日(日) 午前8時30分～正午

案 内 村上達哉(当館学芸員)

見学地 張摩久保遺跡(飯能市大字平松)／横道下・ヨマキ遺跡(飯能市大字唐竹)

参加者 26人

◎展示解説

日 時 10月16日(日) 午後2時～3時30分

解 説 村上達哉(当館学芸員)

参加者 25人

6 評 価

展示会場にて見学者にご記入いただいたアンケートの回答などを基に、簡潔に評価したい。アンケートの回答は、特別展開催期間中の来館者数6,264人の2.95%にあたる185人の方々からいただいた。

回答者の住まいは飯能市内が34.1%、日高市内9.2%で、当初の予想に反し高麗郡建郡1300年の記念事業が多く行われている日高市在住の人は少なかった。来館の頻度は年1回以上の方が50.8%、初めての方が33%であった。リピーターが多い傾向は、これまでと同様である。市民とリピーターが多いという結果は、当館が目指している来館者像に合致している。

展示内容については、回答者の82.2%が「よかった」としており、おおむね好評であったと思われる。解説内容については「よく理解できたが」が47%、「だいたい理解できた」が45.9%であり、合計92.9%の人が展示の概要を把握できたものと思われる。

自由筆記では、文献史学の成果を援用した点について評価する意見が比較的多かった。高麗郡に関係する事柄を網羅的にまとめ、概論を提示しようとする姿勢が評価されたのであろうと考える。

特別展の総合的な評価としては、平成20年代に入ってから開催された特別展の中では3番目に多い入館者数であったことを考えあわせ、これまでの利用者層に若干のプラスαをした形で、それなりに多くの方々へ古代高麗郡についてアピールできたのではないかと考える。

【来館者の声】

- 毎回、おもしろい視点での特別展。今回も1300年とのつながりをわかりやすく解説していてとても楽しかった (60歳代・男)。
- 近頃、日本国の中では、人種差別、ヘイトスピーチ等々多くなりつつあります。…(中略) 平和に平和にこの世がつづきますよう考えさせられた展示でした (60歳代・女)。
- 高麗郡(日高市等)の歴史が大変わかりやすかった。他館を含めて近年では、ベストな展示・説明だと思う。とにかく素晴らしかった (70歳代・男)。

展示資料目録

資料名	点数	出土遺跡	年代	所蔵者	形態	備考
プロローグ						
『続日本紀』(江戸時代刊行本)	1点		江戸時代	府中市郷土の森博物館	原資料	
II 高麗郡を置く						
1 高麗人の移住						
(2) 移住の道						
「東山道武蔵路空中写真」	1点	東の上遺跡	—	所沢市教育委員会	写真	
「向谷遺跡道路遺構全景」	1点	向谷遺跡	—	日高市教育委員会	写真	
(3) 移住の証し						
常陸国の須恵器	5点	一丁田窯跡	8世紀第1四半期	かすみがうら市教育委員会	原資料	
常陸国の須恵器杯・蓋	4点	武田西端遺跡・鷹ノ巣遺跡	8世紀第1～2四半期ごろ	ひたちなか市教育委員会	原資料	
須恵器杯・蓋	4点	堂ノ根遺跡	8世紀初頭か	当館	原資料	飯能市指定文化財
須恵器甕?	1点	武田西端遺跡	8世紀第2四半期	ひたちなか市教育委員会	原資料	
須恵器甕	1点	堂ノ根遺跡	—	当館	原資料	飯能市指定文化財
土師器甕	1点	堂ノ根遺跡	8世紀第1四半期か	当館	原資料	飯能市指定文化財
土師器杯	2点	堂ノ根遺跡	8世紀初頭	当館	原資料	飯能市指定文化財
2 高麗郡を置いた目的						
(1) 入間郡内の状況から						
A 古墳時代の様子						
土師器壺	1点	加能里遺跡	古墳時代前期終り～中期初め(5世紀前半ごろ)	飯能市教育委員会	原資料	
土師器甕	1点	中原遺跡	6世紀後半ごろ	飯能市教育委員会	原資料	
「北の上空から見た光山遺跡群(川越市分)」	1点	光山遺跡群	—	埼玉県教育委員会	写真	
「光山遺跡群 53号住居跡全景」	1点	光山遺跡群	—	埼玉県教育委員会	写真	
土師器杯	2点	光山遺跡群	7世紀中ごろ	埼玉県教育委員会	原資料	
B 丘陵開発と寺院の創建						
「石田窯跡全景」	1点	石田窯跡(南比企窯跡群)	—	鳩山町教育委員会	写真	
「赤沼古代瓦窯跡全景」	1点	赤沼古代瓦窯跡(南比企窯跡群)	—	鳩山町教育委員会	写真	
鏡(軒丸)瓦	1点	赤沼古代瓦窯跡(南比企窯跡群)	7世紀末以降	鳩山町教育委員会	原資料	
鏡(軒丸)瓦	1点	勝呂廃寺	7世紀末以降	坂戸市教育委員会	原資料	
「八坂前窯跡全景」	1点	八坂前窯跡(東金子窯跡群)	—	入間市教育委員会	原資料	
鏡(軒丸)瓦	1点	武蔵国分寺跡	9世紀中ごろ	国分寺市教育委員会	原資料	
宇(軒平)瓦	1点	武蔵国分寺跡	9世紀中ごろ	国分寺市教育委員会	原資料	
C 入間郡内における開拓						
「霞ヶ関遺跡7～9次調査空中写真」	1点	霞ヶ関遺跡	—	川越市教育委員会	写真	
墨書須恵器杯	1点	霞ヶ関遺跡	9世紀代	川越市教育委員会	原資料	
墨書須恵器碗	1点	霞ヶ関遺跡	9世紀代	川越市教育委員会	原資料	
「若葉台遺跡 1区気球写真」	1点	若葉台遺跡	—	坂戸市教育委員会	写真	
須恵器杯	1点	若葉台遺跡	8世紀中葉以降か	坂戸市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
須恵器甕	1点	若葉台遺跡	—	坂戸市教育委員会	原資料	
(2) 武蔵国内の状況から						
文字埴	1点	武蔵国府関連遺跡(宮之畔神社裏地区)	—	府中市教育委員会	原資料	府中市郷土の森博物館保管
鏡(軒丸)瓦	1点	武蔵国分寺跡	8世紀中ごろ	国分寺市教育委員会	原資料	
宇(軒平)瓦	1点	武蔵国分寺跡	8世紀中ごろ	国分寺市教育委員会	原資料	
多胡碑	1点	—	和銅(711)年	高崎市教育委員会	写真	
III 高麗郷と上総郷						
『和名類聚抄』	1点			国立国会図書館	写真	国立国会図書館ウェブサイトデジタル画像
1 高麗郷						
「若宮遺跡(女影廃寺)周辺(若宮・堀ノ内・拾石・王神の各遺跡)」	1点		—	日高市教育委員会	写真	
(1) 郡家						
鳥形硯	1点	王神遺跡	8世紀中ごろ～9世紀中ごろ	日高市教育委員会	原資料	

資料名	点数	出土遺跡	年代	所蔵者	形態	備考
丸軋	1点	拾石遺跡	8世紀中ごろ～9世紀中ごろ	日高市教育委員会	原資料	
耳皿	1点	拾石遺跡	8世紀中ごろ～9世紀中ごろ	日高市教育委員会	原資料	
「厨」墨書須恵器坏	1点	拾石遺跡	8世紀中ごろ～9世紀中ごろ	日高市教育委員会	原資料	
(2) 郡寺と山寺 A 女影魔寺(若宮遺跡)						
「寺」墨書須恵器碗	1点	若宮遺跡 (女影魔寺)	8世紀中ごろ～後半	日高市教育委員会	原資料	日高市指定文化財
鏡(軒丸)瓦	1点	若宮遺跡 (女影魔寺)	9世紀中ごろ～後半	日高市教育委員会	原資料	日高市指定文化財
宇(軒平)瓦	1点	若宮遺跡 (女影魔寺)	9世紀中ごろ～後半か	日高市教育委員会	原資料	日高市指定文化財
瓦堂	1点	若宮遺跡 (女影魔寺)	8世紀中ごろ～9世紀中ごろか	日高市教育委員会	原資料	日高市指定文化財
東山遺跡出土瓦塔・瓦堂	1点	東山遺跡	—	埼玉県教育委員会	写真	原資料は国指定重要文化財
B 高岡廃寺						
高岡廃寺「高岡廃寺近景」	1点	高岡廃寺	—	日高市教育委員会	写真	
高岡廃寺「高岡廃寺第1建物遺構」	1点	高岡廃寺	—	日高市教育委員会	写真	
瓦塔	1点	高岡廃寺	8世紀後半ごろ	日高市教育委員会	原資料	日高市指定文化財
塑像	3点	高岡廃寺	8世紀中ごろ～後半か	日高市教育委員会	原資料	日高市指定文化財
鏡(軒丸)瓦	1点	高岡廃寺	9世紀後半	日高市教育委員会	原資料	日高市指定文化財
宇(軒平)瓦	1点	高岡廃寺	9世紀後半	日高市教育委員会	原資料	日高市指定文化財
男(丸)瓦	1点	高岡廃寺	9世紀後半	日高市教育委員会	原資料	日高市指定文化財
女(平)瓦	1点	高岡廃寺	9世紀後半	日高市教育委員会	原資料	日高市指定文化財
C 大寺廃寺						
「大寺廃寺」(航空写真)	1点	大寺廃寺	—	日高市教育委員会	写真	
「大寺廃寺 A地区建物跡」	1点	大寺廃寺	—	日高市教育委員会	写真	
鬼瓦	1点	大寺廃寺	8世紀後半以降	日高市教育委員会	原資料	日高市指定文化財
(3) 高麗郡に関係する人物 A 高倉朝臣福信						
「巨萬朝臣福信像」	1点	—	—	府中市郷土の森博物館	写真	
B 高麗若光と高麗神社						
紙本着色高麗弁泰大王像(部分)	1点	—	—	新井宏重氏	写真	日高市教育委員会写真提供
2 上総郷						
(1) 郷の中心地 A 文書作成の道具						
円面硯	1点	張摩久保遺跡	8世紀後葉	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
円面硯	1点	甲新田遺跡	—	飯能市教育委員会	原資料	
風字硯	1点	張摩久保遺跡	9世紀末～10世紀にかけて	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
転用硯	1点	張摩久保遺跡	8世紀第4四半期ごろ	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
転用硯	1点	張摩久保遺跡	8世紀第3四半期	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
刀子	1点	西川小遺跡	9世紀後半	飯能市教育委員会	原資料	参考資料「年代」は廃棄された年代
「工」墨書土器	2点	張摩久保遺跡	8世紀後半	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
B モノの量と重さをはかる						
コップ型須恵器	1点	張摩久保遺跡	8世紀前半	飯能市教育委員会	原資料	
コップ型須恵器	1点	榎戸遺跡	8世紀前半	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
錘	1点	張摩久保遺跡	9世紀末～10世紀にかけて	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
錘	1点	中原遺跡	—	飯能市教育委員会	原資料	
C 貴重な品々						
隆平永寶	1点	張摩久保遺跡	9世紀後半	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
緑釉陶器	1点	小久保原遺跡	9世紀前半	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
銅鉢	1点	張摩久保遺跡	9世紀末～10世紀にかけて	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
(2) 集落のお堂 A お堂にもなうもの?						
丸(男)瓦	1点	張摩久保遺跡	8世紀中葉	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
平(女)瓦	1点	張摩久保遺跡	9世紀末	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
瓦塔	1点	張摩久保遺跡周辺	—	飯能市教育委員会	原資料	
B お堂に関係する道具?						
銅鉢	1点	張摩久保遺跡	8世紀中葉	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
銅鉢	1点	張摩久保遺跡	8世紀前葉	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
畿内産土師器	1点	張摩久保遺跡	8世紀中葉	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
灯明皿	1点	張摩久保遺跡	8世紀中葉	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
円面硯	1点	張摩久保遺跡	8世紀中葉	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
IV 開拓の様子						
1 建郡初期に開拓が始まった集落—台地部小河川沿い— (1) 土器の入手 A 8世紀初めごろの土器						
須恵器坏	1点	張摩久保遺跡	8世紀前半	飯能市教育委員会	原資料	
須恵器坏	1点	張摩久保遺跡	8世紀前半	飯能市教育委員会	原資料	
須恵器坏	1点	旭原遺跡	8世紀前半	飯能市教育委員会	原資料	
須恵器坏	1点	榎戸遺跡	8世紀前半	飯能市教育委員会	原資料	
須恵器坏	1点	榎戸遺跡	8世紀前半	飯能市教育委員会	原資料	
須恵器坏	1点	新井原遺跡	8世紀前半	飯能市教育委員会	原資料	
須恵器坏	1点	新井原遺跡	8世紀前半	飯能市教育委員会	原資料	

資料名	点数	出土遺跡	年代	所蔵者	形態	備考
土師器杯	1点	株木遺跡	8世紀前半	飯能市教育委員会	原資料	
土師器杯	1点	株木遺跡	8世紀前半	飯能市教育委員会	原資料	
B 出土する移住元の国の土器						
黒色土器	1点	新堀遺跡	9世紀前半以降か	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
黒色土器	1点	新井原遺跡	8世紀第4四半期ごろ	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
黒色土器	1点	張摩久保遺跡	8世紀中葉	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
相模型杯	1点	新堀遺跡	8世紀後半か	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
相模型杯	1点	甲新田遺跡	8世紀前半	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
東海地方の須恵器甕	2点	株木遺跡	8世紀前半か	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
土師器甕	1点	新井原遺跡	8世紀中ごろ以降	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
土師器甕	1点	新堀遺跡	8世紀中ごろ以降	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
土師器甕	1点	加能里遺跡	8世紀後半	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
(2) 生業とくらし						
A 穀物の生産など						
鎌	1点	張摩久保遺跡	9世紀第2四半期以降	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
B 製糸						
紡錘車(石製)	1点	張摩久保遺跡	8世紀中葉	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
紡錘車(石製)	1点	張摩久保遺跡	9世紀末～10世紀にかけて	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
紡錘車(石製)	1点	新堀遺跡	8世紀中ごろ以降	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
紡錘車(石製)	1点	新井原遺跡	8世紀中ごろ以降	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
紡錘車(陶製)	1点	張摩久保遺跡	8世紀中葉	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
紡錘車(陶製)	1点	加能里遺跡	8世紀後半	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
紡錘車(須恵器転用)	1点	張摩久保遺跡	8世紀中葉	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
紡錘車(須恵器転用)	1点	加能里遺跡	8世紀後半	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
紡錘車(鉄製)	1点	新井原遺跡	8世紀第4四半期ごろ	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
C 編み物						
編石	12点	常木久保遺跡	8世紀第3四半期	日高市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
D 漁撈						
土錘	16点	張摩久保遺跡	8世紀中葉	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
E 伐採						
鉄斧	1点	張摩久保遺跡	8世紀第4四半期ごろ	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
鉄斧	1点	張摩久保遺跡	8世紀後半	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
F 金属製品の手入れ						
砥石	1点	張摩久保遺跡	8世紀中葉	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
砥石	1点	張摩久保遺跡	9世紀中頃～第3四半期以降	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
G 小鍛冶(鍛打による鉄製品の製作)						
鍛造剥片	1式	中原遺跡	—	飯能市教育委員会	原資料	
羽口	1点	中原遺跡	—	飯能市教育委員会	原資料	
H 火・灯り						
火打金	1点	株木遺跡	—	飯能市教育委員会	原資料	
灯明皿	1点	張摩久保遺跡	8世紀後半	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
I 武装						
鉄鏃	3点	新井原遺跡	8世紀第4四半期ごろ	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
鉄鏃	1点	新井原遺跡	8世紀後半以降	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
2 平安時代以降に開拓された集落 —丘陵部・山間部—						
(1) 河原毛久保窯跡製品の流通と開拓者たち						
A 河原毛久保窯跡						
河原毛久保窯跡製品(須恵器杯)	7点	河原毛久保窯跡	9世紀中ごろ～後半	飯能市教育委員会	原資料	
B 丘陵部・山間部の遺跡から出土した河原毛久保窯跡製品						
須恵器杯	1点	落合上ノ台遺跡	9世紀中葉	飯能市教育委員会	原資料	
須恵器杯	1点	茶内遺跡	9世紀中ごろ～後半	飯能市教育委員会	原資料	
須恵器杯	1点	横道下遺跡	9世紀中葉	飯能市教育委員会	原資料	
須恵器杯	1点	ヨマキ遺跡	9世紀中ごろ～後半	飯能市教育委員会	原資料	
(2) 丘陵部・山間部の生業						
B 伐採						
鉄斧	2点	横道下遺跡	9世紀第2四半期ごろ	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
C 炭焼き						
中矢下遺跡B地区第1号炭焼窯	1点	中矢下遺跡B地区	8世紀初頭ごろもしくは9世紀後半	埼玉県教育委員会	写真	
中矢下遺跡B地区第2号炭焼窯	1点	中矢下遺跡B地区	11世紀初頭ごろもしくは9世紀後半	埼玉県教育委員会	写真	
夕日ノ沢遺跡第19号土坑	1点	夕日ノ沢遺跡	9世紀後半～10世紀前半	埼玉県教育委員会	写真	
D 馬の使用?						
ヨマキ遺跡第1次調査85号土坑 馬骨出土状態	1点	ヨマキ遺跡	10世紀初め以降?	飯能市教育委員会	写真	「年代」は廃棄された年代
E 貴重な品々						
緑釉陶器	1点	横道下遺跡	9世紀後葉ごろ	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代
灰釉陶器	2点	横道下遺跡	9世紀後葉ごろ	飯能市教育委員会	原資料	「年代」は廃棄された年代

※年代の表記については基本的に報告書などの表記に依拠し、統一していない。
 ※年代の表記のうち「四半期」というのは一世紀を25年で区分したことを意味している。
 (例)8世紀第1四半期=701～725年。8世紀第2四半期=726～750年。

その他の展示

駿河台大学野村ゼミナール実習展示

「伝統染色

～飯能大島紬・村山大島紬～」

期 間 平成28年6月5日(日)～6月19日(日)
開館日数 13日間
入館者数 1,301人(1日平均100.1人)
展示点数 40点

1 趣 旨

飯能には伝統産業工芸品である飯能大島紬があった。もとは奄美大島紬を模倣した織物であったが、飯能という土地で独自の変化を遂げた。その特徴は経糸と緯糸を染め分け、模様を作り出す繊細かつ精巧な織物という点にある。また、複雑な亀甲模様を組んだ落ち着いた渋い色に染められている点も特徴であるが、飯能大島紬の展示だけでこれらを語ることは困難である。男物の飯能大島紬、女物の村山大島紬と言われ、同じ技術を用いた両織物は密接に関係している。この企画展示では、それぞれの伝統の歴史や技術への知識を深め、道具、生地などを展示し、実際にその技術に触れていただいた。また、生地のすばらしさを生かしたりメイク品を展示し、伝統技術を再認識していただきたいと考えた。そしてこの展示が、伝統とどのようにして付き合っていくのか考える場となることを目指した。

2 展示の構成

(1) プロローグ

1-1 飯能大島紬・村山大島紬



展示風景

- (2) 染め
 - 2-1 飯能大島紬・村山大島紬の染め
 - 2-2 いろいろな染料で染める
 - 【トピックス】草木染め
- (3) 飯能大島紬の着物
 - 3-1 飯能大島紬の着物
 - 3-2 飯能・村山大島紬の特徴
- (4) 触れる
 - 4-1 糸に触れる
 - 4-2 織物に触れる
- (5) 伝統を伝えるために
 - 5-1 飯能・村山大島紬を伝えるために
 - 5-2 織ってほしい図案を考えてみよう
- (6) エピローグ
 - 6-1 エピローグ

3 印刷物

ポスター (B2判カラー) 300枚

4 関連行事「羽織を着てみよう」

日 時 6月11日(土)・6月18日(土)
10:00～12:00 13:00～15:00
会 場 休憩コーナー
内 容 村山大島紬、飯能大島紬の羽織を試着して、着物の感触を味わい、絹織物の機能性を理解してもらう。

参加者 6月11日 21人 6月18日 10人

5 反省と展望

- ・子どもは来ない
 - ポスターが子ども向けではなかった。子どもも楽しめるということをポスターに入れておけばよかった。



関連行事「羽織を着てみよう」

広報の仕方を工夫する必要がある。

- ・若い世代の方に知ってもらうことが目的だったが、実際は年配の方が昔を懐かしむ場になった。
→これは当初の目的と異なるが、成功といえる。
- ・アンケートの記入用に老眼鏡を準備しておけばよかった。
→椅子は用意したが、さらに細かい配慮が必要。
- ・意外と認知度が高い。
- ・広告では新聞が一番効果があった。
→新聞と市報の効果は絶大。今後も継続する。
→着物好きの口コミも多かったようなので、リピーターサービスを充実させる。
- ・コーナーでは「触れる」が好印象であった。
→着物は肌に触れるものなので、触らせて正解であった。視覚+触覚は興味付けに効果がある。
- ・パネルの文字が読みづらいという指摘があった。
→和の展示ということで明朝体を選択したが、年配の人が多かったので読みづらかった可能性がある。横線の太い明朝体を選択する。
- ・購入したいという要望がたくさんあった。
→公立博物館での展示であるため、販売行為はできない。入手できる別の機会を用意し、案内する必要がある。

◆活動の記録

【取材】

平成27(2015)年度

- 8/5 入間市博物館
- 9/2 入間市博物館
- 10/15 村山織物協同組合
- 10/17 高山平氏
- 11/14 高山平氏
- 11/22 埼玉伝統工芸会館
- 12/2 高山平氏
- 12/3 村山織物協同組合
- 12/5 新啓織物工場
- 12/13 ちちぶ銘仙館
- 12/19 草木染め工房さくらいろのいえ
- 1/24 高崎染料植物園

平成28(2016)年度

- 5/5 村山織物協同組合
- 5/15 高山平氏

【広報】

- 5/19 FM茶笛出演
- 6/1 毎日新聞取材
- 6/6 埼玉新聞取材
- 6/16 FM茶笛出演

伝統染織
飯能大島紬・村山大島紬

展示期間
6月5日(日)～6月19日(日)
9:00～17:00

展示場所
飯能市郷土館 [電話: 042-972-1414]

教育事業
飯能大島紬・村山大島紬の羽織を着てみよう
日時: 6月11日(土)・6月18日(土)
10:00～12:00・14:00～16:00
開催場所: 飯能市郷土館休憩コーナー
参加費: 無料
申し込み: 不要 [直接会場へお越しください]

協力者(敬称略)
新井敦夫 高山金之助
高山平 玉井肇夫
野村亮子 春田善多
まのりサカイ(フェスティバル 第二)
高崎染料植物園
高崎旭東専門学校
おのの心道
村山織物協同組合
飯能織物協同組合
飯能市郷土館

主催
駿河台大学 野村ゼミナール



FM茶笛に電話で出演する学生

【野村ゼミナール】

- 出浦由梨・川田優希・小山恭平・佐藤舞奈・
新宮綾香・高野彩香・内藤大数・吉岡更沙・
渡辺礼子

駿河台大学野村ゼミ実習展示「伝統染織」ポスター

○新指定文化財「堂ノ根遺跡 1号住居跡出土遺物」巡回展

期 間 5月12日(木)～5月22日(日) 当館
5月26日(木)～6月6日(月)
精明地区行政センター
6月9日(木)～6月19日(日)
南高麗地区行政センター
展示点数 42点

○収蔵絵画展「小島喜八郎作品展」

期 間 7月24日(日)～8月28日(日)
開館日数 30日間
入館者数 3,504人(1日平均116.8人)
展示点数 25点

○小学3年生見学対応展示

「むかしのくらし ～民家の台所再現～」

期 間 1月5日(木)～2月5日(日)
開館日数 37日間
入館者数 3,152人(1日平均85.2人)
展示点数 109点

◇関連事業

「火のし・炭火アイロン／石臼体験」 「かるたあそび」

(日 時) 2月5日(日) 午前10時～午後3時
(参加者) アイロン 104人／石臼 150人／かるたあそび 28人

○ミニ展示「ひなまつり」

期 間 2月19日(日)～3月12日(日)
開館日数 19日間
入館者数 3,522人(1日平均185.3人)
展示点数 22点

◇関連事業

「折り紙で折るおひなさま」

(日 時) 2月25日(土)・26日(日)
午前10時～正午・午後1時～3時
(参加者) 2月25日 33人／2月26日 60人



収蔵絵画展「小島喜八郎作品展」入館状況

◎今月の一品

エントランス入口右側、展示台上の縦・横・高さともに60cmのケース内に、月替わりで収蔵資料を展示しているもので、収蔵資料の活用のお場というだけでなく、最近の資料整理や調査研究活動など日ごろの地道な資料研究の成果を発表する場にもなっている。当年度に展示した資料は、一覧表のとおりである。

○展示資料一覧

月	タイトル	資料番号等	担当者
4月	師範生徒等養成費用徴収関係文書	中村正夫家文書No.1313	宮島
5月	材木荷主浅見家の極印	浅見讓二家文書No.254・260・民具No.2030	尾崎
6月	『飯能大島紬の歩み』	大野哲夫氏寄贈	村上
7月	夏の流行婦人子供洋服の作り方	柳戸家No.446	宮島
8月	木箱(公用・書留・配達証明小包)	須田莊次氏寄贈	村上
9月	綴じる、領収、切る、渡す	須田省一郎家No.727-109・112など	尾崎
10月	高麗山聖天院大施餓鬼奉願句集	関谷健三家No.11	宮島
11月	「陳情第五号 統一「飯能まつり」に関する陳情」	飯能市役所商工観光課文書	村上
12月	御上洛御用人夫権右衛門の人生	浅見讓二家文書No.8・332・446	尾崎
1月	カイカキボウ(粥掻き棒)	民具No.3210	村上
2月	受験準備兼用 高等小学読本自習書	柳戸家No.350	宮島
3月	田中かく宛萩野吟子書状	田中鎮次家No.151	尾崎

夏休み子ども歴史教室

「飯能郷土かるたのたび」

日	時	平成28年8月4日(木)・5日(金) 午前9時～午後4時30分
対	象	小学生
参	加	者
数		25人
会	場	当館学習研修室
		智観寺・店蔵絹甚・あけぼの子ども森公園・武蔵野炭鉱・茜台・吾妻峡
指	導	者
		尾崎泰弘・宮島花陽乃(当館学芸員) 5年次教員研修生(4人) 博物館実習生(4人)

1 趣 旨

郷土かるたとは、「郷土を代表するような様々な事象を詠み込んだ、いろはかるたの一種」であり、子どもたちの郷土意識の形成に重要な役割を果たすとともに、その地の文化を外に伝える働きがあるとされている。

埼玉県は、昭和57(1982)年に「さいたま郷土かるた」が製作され、県大会が行われるなど群馬県に次ぐ郷土かるたの盛んな地域である。本市においても、その翌年に飯能郷土史研究会によって「飯能郷土史かるた」が作られたが、その後の地域研究の進展、名栗村との合併を経て、必ずしも最新の内容を反映していない状況となっていた。そうしたなか、平成26年11月に飯能商工会議所女性会によって発行された「飯能市郷土かるた」は、名栗地区も題材に加えているだけでなく、イベントや観光施設など本市の「今」を代表するような事象が取り込まれている点に特徴がある。

そこで、今回の歴史教室では、この新しくできた「飯能市郷土かるた」を取り上げ、かるたで遊ぶことを通して地域の「宝物」を参加者に知ってもらうとともに、絵札の場所を実見することによりそれを知識として定着させることを目的とした。さらにかるたを製作する過程をも体験することで、より主体的に本市のよいところを見つける視点の大切さを理解してもらいたいと考えた。

2 内 容

実施は8月4日・5日の2日連続で、午前9時から午後4時30分までの時間枠で行った。こ

れは、保護者が働きに出ている間に小学生を1日預かる、という発想による。両日のプログラムは以下のとおりである。

○8月5日

【午前】

かるた遊び(3～4人1組で2回実施)

かるたのたび(1日目)

①智観寺(ワークシートを使っての学習、絵札製作の準備)

【午後】

・智観寺中山信吉墓(埼玉県指定文化財)絵札作成

②店蔵絹甚(飯能市指定文化財)での学習

○8月6日

【午前】

かるたのたび(2日目)

③あけぼの子ども森公園

④武蔵野炭鉱

【午後】

⑤茜台

⑥吾妻峡

・味噌付けまんじゅう実食

・かるた大会(団体戦で2回実施)

・まとめ

初日のかるた遊びは、冒頭の40分ほど行い、「飯能市郷土かるた」を知るきっかけづくりとした。その後は、2日間にわたって絵札に描かれた場所のうち5ヶ所(店蔵絹甚・あけぼの子ども森公園・武蔵野炭鉱・茜台・吾妻峡)を徒歩もしくはバスを使って巡った。それぞれの見学場所では、用意したワークシートを使ってクイズに答えることで地域の「宝物」を観察し、絵札と同じアングルの場所を確認したことを申告してスタンプをもらう、という作業を体験してもらった。そして最後にもう1度かるたで遊ぶ、という構成にした。現地を見学した体験を経ているのでこの時はとても盛り上がった。



かるた遊びの様子



店蔵絹甚ワークシートの表面(左)と裏面(右)

また、それとは別に絵札にはない智観寺に行き、水戸藩付家老中山氏代々の墓域において、ワークシートを使って3種類ある墓の特徴を理解してもらった。このうち高さ4mの塚を伴う最も大きな中山信吉墓を、参加者が持参したデジタルカメラを使って写真撮影を行い、それを基に各自がオリジナルのかるたを製作した。

上毛かるたと児童・生徒の郷土認識に関する調査では、読み札に比べ解説文はあまり読まれていないことが指摘されているが、当館で行ったプログラムはその解決のひとつの手段といえる。ただ、すべての場所をこのような形で訪れるのは難しいので、群馬県吾妻郡嬭恋村のようにスタンプラリーを実施するのも1つの方法であろう。

3 反省・評価

平成26年度の夏休み子ども歴史教室で、「飯能郷土史かるた」を取り上げ、地域の歴史を学ぶ教材として「かるた」は非常に有効であることを確信した。今回はその経験と反省の上になって実施したものである。

ただ、前回と異なるのは、飯能商工会議所女性会製作の「飯能市郷土かるた」を取り上げた点である。このかるたは読み札がやや長いことや、歴史的に見て本市の特徴的な事象や文化財を網羅しているとは言いがたい点はあるものの、現状では唯一、飯能市域の「宝物」を幅広く

取り上げているものである。

さて、参加者が少なかった前回とは違って、今回は定員に達した。保護者のアンケートからは、名所に行けることや、かるたは子どもが楽しめる、ほぼまる1日という事業時間により子どもを預かってもらえることが参加を決めた理由であることがわかった。

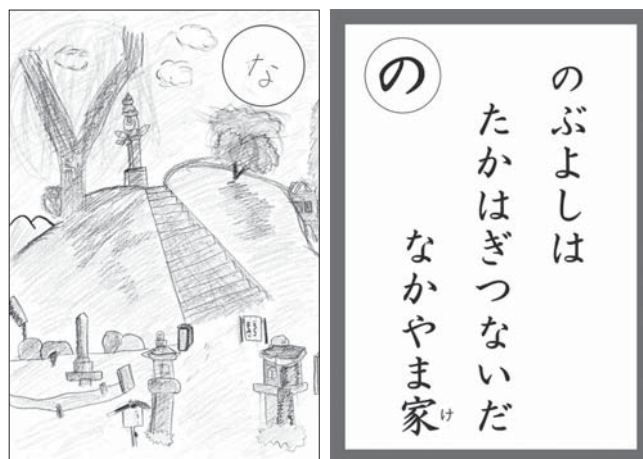
結論からいえば、参加者には満足してもらえたので成功だったといえる。また、ワークシート作りについても、これまでに

なく参加者に伝えたいことを絞り、それに向けての設問づくりに力を注いだこともあって、評価としては悪くなかった。また、改めて教材としてのかるたの有効性も再確認できた。

一方で新たな課題も明らかとなった。

①事業実施時期として夏休み中が適当か

保護者のアンケートでは、回答を寄せた16人のうち15人が、2日連続の開催について「問題ない」との認識であった。ただ、2日目のあけぼの子どもの森公園では、2人に熱中症と思われる症状が出て、管理棟での対処を余儀なくされる事態に至った。やはり炎天下での野外活動はリスクを伴う。その意味では季節のよい時期が望ましいことは間違いない。



参加者が作成した中山信吉墓のかるた (嶋崎大和くん・4年)

ただ、夏休み中は小学生が当館の事業に参加しやすい環境が整っていることは確かであり、もはや博物館実習生抜きには当該事業が成り立たないという現実もある。

②参加者(保護者)が事業内容を理解することの重要性

今回、事業の中での移動がバスなのか徒歩なのか、またどのようなところへ行ってどんな活動を行うのが保護者に十分理解されていなかった。応募してくれた方には事前に通知しておけば、当日の服装や、履き物、持ち物なども違い、食物アレルギーに対する注意も喚起できて、リスクを減らしより安全に活動できたと思われる。

③プログラムの内容の精査

長年郷土かるたを研究してきた原口美貴子氏は、読み札に比べ、解説文は読まれていないという課題を指摘されているが、読み札の内容を理解することは、事業の本質というべきものである。その点では、読み札をきちんと読む、内容を理解することをもっとしっかり行う必要がある。また、本市域の歴史文化資源を考えた場合、絵札に含まれていないものも多く、また子どもがそれらをじっくり観察できるという点で、絵札を製作するというプログラムも有効であることを確認しておきたい。

さらに、「たび」に出て、現地を自分の目で確認したことの証明となる絵札の「アングル確認」は、今回参加者の申告としたが、デジタルカメラであれば同様の写真を撮影して示す、ということも可能である。またそれを動機付けられるような流れについての工夫も必要である。

○今後の展開

本年度の夏休み子ども歴史教室により、今後もあるかるたを教材とした地域の歴史や魅力を子どもたちに伝える事業は継続していく必要があると考え、2月に行われた小学3年生見学対応展示



かるた製作の様子

「むかしのくらし」の関連事業である、「火のし・昔のアイロン／石臼体験」と同じ日に、「飯能市郷土かるた」遊びをする場所を設けた。

「飯能市郷土かるた」は現段階では普及しているとはいえませんが、かるたが市民の郷土認識に大きな影響を及ぼしているというのは上毛かるたで実証済である。本市の地域学習(研究)の担い手を育てるためにも、かるたを地域教材として積極的に活かしていきたいと考えている。



智観寺中山氏代々の墓地でワークシートに取り組む

○保護者の声

- ・かるたで遊んだのも楽しかったし、新しいお友達ができてとても楽しかったそうです(4年男子)。
- ・1日預かってもらえるので参加を決めました。子どもたち本人も「とても楽しかった!」と喜んでいましたので、大変たすかりました。ありがとうございました(4年女子)。
- ・帰ってからも、見たもの、写真を撮ったもの、聞いた話のことをずっとしゃべり続けていました。とても楽しく飯能かるたに夢中でした。ありがとうございました(5年男子)。

○参加者の声

- ・らい年もあるんですか。あつたらまたくる(4年男子)。
- ・来年もやってほしいです(3年女子1・5年男子3・5年女子1)。
- ・今日はすごく楽しかったです。またらい年も来たいです(4年女子)。
- ・遊べる所(あけぼの子ども森公園・あづま峡)でもっと遊びたかった(3年女子)。
- ・かるたをもっと作りたかった、お墓じゃないテーマでかきたかった(3年男子)。

自然講座

「飯能の自然について学ぼう」

日 時	平成28年6月5日(日)・12日(日)・ 18日(土)・26日(日)・7月3日(日) 午後1時30分～3時
対 象	一般
参加者数	157人(のべ)
会 場	当館学習研修室

1 趣 旨

飯能は都心に近く、身近で豊かな自然に恵まれた市である。平成28年度からの目指すべき将来都市像を示した第5次飯能市総合振興計画基本構想でも、この良好な環境を生かし、多くの人が訪れ、住みたい気持ちに誘われるまちづくりを基本理念にかかげている。

このように飯能の自然は、本市の最大の「売り」であり、今後のまちづくりを考える上での重要な要素であると言える。しかし、具体的に飯能の自然はどのような要素で構成され、どのような特徴があるかについてはあまり知られていない。



自然講座風景

そこで、地質、動物、植物など各分野の専門の講師をお招きし、それぞれの観点から飯能の自然の実情や特徴を学ぶための講座を開催した。

さらに、当館の周囲には、身近な自然として多くの方々に親しまれている天覧山、飯能河原などが存在する。平成29年度に改装を予定している常設展示では、周囲の自然に人々を誘うための展示を加えることが計画されていることから、当館周辺の自然の魅力もあわせて学習できる内容とした。

2 内 容

- ① 6月5日(日)
「飯能市の特徴的な植物と天覧山・多峯主山の植物」
講 師 山下 裕氏 (日本薬科大学講師)
参加者 35人
- ② 6月12日(日)
「飯能の山間地域の植物」
講 師 小澤 正幸氏 (有限会社トキワ環境)
参加者 29人
- ③ 6月18日(土)
「飯能の鳥とけものたち」
講 師 対馬良一氏 (NPO法人埼玉県絶滅危惧動物種調査団)
参加者 34人
- ④ 6月26日(日)
「飯能に生息するカエルたち」
講 師 藤田宏之氏 (埼玉県立川の博物館学芸員)
参加者 30人
- ⑤ 7月3日(日)
「飯能の大地 ー山地と平野の境をさぐるー」
講 師 久津間文隆氏 (大東文化大学教職課程センター)
参加者 29人

その他の講座・学習会

学習会名	日 時	時 間	対 象	参加者数
竹の水鉄砲であそぼう	7月29日(金)	午前9時～11時30分・午後1時～3時30分	子ども	159
	7月30日(土)	午前9時～11時30分・午後1時～3時30分	子ども	128
		合計		287
まゆ玉づくり	1月8日(日)	午後1時30分～4時	小学生低学年とその保護者	54

行政運営において、市民との協働はもはや不可欠のものとなってきている。博物館でも市民との連携が欠かせない時代となった。

当館では、市民参加活動を博物館と市民との双方向性の情報交換と交流を目的とする「交流」活動ととらえている。平成10年度に活動を開始した定点撮影プロジェクトが平成26年度で休止となり、現在は市民学芸員だけになっている。

市民学芸員

1 これまでの経緯

当館における市民学芸員とは「市民に向けた学習機会を提供するシステム」であり、「本務学芸員を補完する立場」で「博物館側の情報発信機能と受け手の市民の間をつなぐ伝達媒体としてのサポーター」であると位置づけられている(当館『研究紀要』第1号)。当館の場合、教育活動や資料整理など事業別にその都度養成を行い、市民学芸員の認定をしている点に特徴がある。

平成28年度末現在で活動しているのは、博学連携、古文書整理、麦作文化探求の3分野合わせて54名で、前年度と同じである。2分野以上にまたがって活動をしている方もおり、その各分野の内訳は、博学連携が40名、古文書整理が13名、麦作文化探求が18名となっている。

2 活動の概要

◎全体の活動

当館の市民学芸員の活動は、基本的に博学連携、古文書整理、麦作文化探求といった活動分野ごとに行われるが、地域の歴史や文化、あるいは博物館学に関わる研修や、他の博物館を見学する館外研修会などは全体で行っている。当該年度は下の表のとおり実施した。

このほか、実験的な活動や当館のイメージアップをはかるなど、養成分野にこだわらずやりたいことを自由に、気軽に行える場としてのサークル活動も行っている。現在実施されているのは、以下の2つである。

(1) 花サークル

花サークルは、当館駐車場から入口へ向かう途中にある花壇に花を植えて、来館者を歓迎する雰囲気を表そうとするもので、次の生花サークルとともに当館のイメージアップに貢献していただいている。

花の苗は、7月7日にインパチェンス・ペゴニア・百日草を、11月3日にパンジーを植えつけた。その間水やり、枯れた花つみなどを定期的に行った。

(2) 生花サークル

このサークルは、当館入口風除室に生花を展示するものである。展示は1週間(火曜日の朝から日曜日まで)を単位とし、市民学芸員4人が交代で担当した。当年度は生花の傷みが早い7月から9月までは展示を行わなかった。活動した日は59日で、のべ74人である。



全体研修会・各分野の活動報告(3月)

平成28年度市民学芸員(全体)活動一覧表

回	活動日	曜日	時刻	テーマ	講師・担当	内容	参加人数
1	11/15	火	13:30~15:30	館外研修会	瑞穂町図書館宮坂館長 郷土資料館長谷川館長	瑞穂町郷土資料館けやき館・耕心館の視察	15
2	3/22	水	13:30~16:00	全体研修会	尾崎	各分野の活動報告、当館ミッション策定経過報告など	24

合計 のべ 39人

◎博学連携事業参加型の活動

博学連携事業参加型の活動は、小学3年生見学対応を中心とし、その他、子ども対象事業である「竹の水鉄砲であそぼう！」の運営が主体となる。

活動の内容であるが、例年下半期のほぼ全てが小学3年生社会科見学対応に当てられるため、勉強会や研修などは主に上半期に行うことになる。

当該年度は、5月に小学3年生見学対応に活かすことを目的に、「思い出を語る会」と題して、幼少期のことやかつて使っていた民具などについて市民学芸員がそれぞれ語り、互いに学習しあう会を設けた。6月は、前年度に刊行した『収蔵資料目録7』の活用を目的として、当館学芸員による講座「資料目録活用事始め」を行った。また7月には、同月末に行われる「竹の水鉄砲であそぼう！」にむけてミニ講座「竹のお話」を開催し、竹について学んだ。8月の福德寺阿弥陀堂(虎秀)の見学は、前年度に開催した



博学連携型・小学3年生見学対応準備(日おこし)

長光寺の見学会に引き続き、小学3年生見学対応の中で本市の文化財を説明するプログラムがあることから実施したものである。

9月以降は例年通り小学3年生見学対応にむけての活動となったが、今年度は例年以上に危機管理対策に力を入れ、非常時の行動や避難経路の再確認と情報の共有を行った。

平成28年度市民学芸員(博学連携)活動一覧

回	活動日	曜日	時間	テーマ	講師・担当	内容	会場	参加人数
1	4/20	水	10:00~12:00	4月定例会	村上・宮島 ※展示解説 柳戸	平成28年度の活動予定について協議 収蔵品展「飯能の西川材関係用具」解説	学習研修室	11
2	5/20	金	10:00~12:00	5月定例会	村上・宮島	思い出を語る会	学習研修室	10
3	6/17	金	9:30~11:30	当館主催事業準備	尾崎・宮島	「竹の水鉄砲であそぼう！」用の竹の調達	小岩井	5
4	6/18	土	10:00~11:45	6月定例会	尾崎・宮島	「竹の水鉄砲であそぼう！」について・館報編集への協力依頼 ミニ講座「資料目録活用事始め」	学習研修室	14
5	7/13	水	9:00~12:00	当館主催事業準備	宮島	「竹の水鉄砲であそぼう！」用の竹の調達	学習研修室	8
6	7/20	水	13:30~15:00	7月定例会	尾崎・宮島	当館使命策定について・竹の水鉄砲について ミニ講座「竹のお話」	学習研修室	11
7	7/20	水	15:00~16:00	当館主催事業準備	宮島	「竹の水鉄砲であそぼう！」事前準備	館内	8
8	7/29	金	8:30~16:00	当館主催事業運営	柳戸・宮島	「竹の水鉄砲であそぼう！」運営	学習研修室	13
9	7/30	土	8:30~16:00	当館主催事業運営	宮島	「竹の水鉄砲であそぼう！」運営	学習研修室	17
10	8/27	土	9:30~11:00	8月定例会	宮島	福德寺阿弥陀堂特別見学(落合氏による説明)	福德寺	16
11	9/21	水	13:30~15:00	9月定例会	宮島	小学3年生社会科見学対応(今年度の方針、マニュアル確認など)について	学習研修室	12
12	10/28	金	10:00~12:00	10月定例会	村上・宮島	小学3年生社会科見学対応について(今年度の方針再確認、状況報告)、特別展「高麗人集結」展示解説	学習研修室	10
13	11/26	土	13:30~15:00	11月定例会	村上・宮島	小学3年生社会科見学対応について(各学校見学スケジュール、緊急時の対応など)、避難経路確認など	学習研修室・館内	14
14	12/7	水	13:30~15:00	12月定例会	尾崎・村上・宮島	小学3年生社会科見学対応について(詳細プログラム確認・担当割り振り調整)	学習研修室	12
15	12/21	水	9:30~12:00	小3対応展示準備	村上・宮島	小学3年生見学対応展示「むかしのくらし」展示(民家の台所)設営	特別展示室	8
16	2/5	日	9:30~15:30	小3対応展示付帯事業運営	尾崎・宮島	「火のし・炭火アイロン／石臼体験」(10:00~15:00)運営	館内	9
17	2/22	水	10:30~12:30	2月定例会	尾崎・村上・宮島	小学3年生社会科見学対応の反省会	学習研修室	8
18	2/25	土	9:45~15:15	当館主催事業運営	柳戸・宮島	ミニ展示「ひなまつり」付帯事業「折り紙でつくるおひな様」(10:00~15:00)運営	休憩コーナー	5
19	2/26	日	9:45~15:30	当館主催事業運営	尾崎・宮島	ミニ展示「ひなまつり」付帯事業「折り紙でつくるおひな様」(10:00~15:00)運営	休憩コーナー	8
20	3/25	土	10:00~12:00	3月定例会	宮島	小学4年生社会科見学対応の反省・来年度の活動について	学習研修室	13

合計 のべ 212人

◎古文書整理型（第Ⅵ期）の活動

「古文書整理（参加）型」の市民学芸員は、平成22年度に養成された第Ⅵ期にあたる。目標としては、当館で収蔵している古文書を整理したり、翻刻したりする作業に、当館学芸員と共に参加し地域への理解を深めてもらうことにある。

当該年度より例会とは別に、第2木曜日の午前中に自主活動を行うこととした。既に6年目に入り各自が文書をかなり読むことができるようになってきたため、学習の成果を当館の事業に関わる形で還元してもらうためである。各自で翻刻する史料は、今後の特別展のテーマとして予定されている吾野地区もしくは原市場地区に関係する文書、もしくは関心のある内容・地域に関する文書で、基本的には当館職員が選んだ。自主活動は8回である。

このほか、市民学芸員が自ら住んでいる地区の歴史を調べ案内する地域めぐりを1回、研修会として座学を1回行った。当年度は自主活動も含め30回実施し（下表）、のべ261名が参加した。



古文書整理型・自主活動の様子

◎麦作文化探求型（第Ⅷ期）の活動

「麦作文化探求型」の市民学芸員は、平成27年度から活動を開始した。活動の目標は次の3点である。

- ①伝統的な麦作及び加工等に係る技術を身につけ、伝承する。
- ②麦に関する知識を深め、地域の麦作文化を

平成28年度市民学芸員（古文書整理）活動一覧

（会場）当館学習研修室（ただし10/27は高麗神社、1/19は中央地区行政センター）

回	活動日	曜日	時間	内 容	参加人数
1	4/7	木	10:00～11:35	4月例会①（今年度の活動協議）	9
2	4/14	木	10:30～11:50	4月例会②（文久3年赤沢村御用留講読③、深谷克己『江戸時代』輪読、今年度の活動協議）	10
3	5/12	木	10:00～11:55	5月例会①（文久3年赤沢村御用留講読④、深谷克己『江戸時代』輪読）	8
4	5/19	木	14:00～15:30	自主活動（赤沢村浅見家文書・坂石村富澤家文書翻刻、井上村大野貞家文書整理等）	6
5	5/26	木	10:00～11:55	5月例会②（文久3年赤沢村御用留講読⑤、深谷克己『江戸時代』輪読など）	9
6	6/2	木	10:00～11:35	6月例会①（文久3年赤沢村御用留講読⑥、深谷克己『江戸時代』輪読）	10
7	6/9	木	10:00～12:00	自主活動（赤沢村浅見家文書・坂石村富澤家文書翻刻）	6
8	6/23	木	10:00～11:55	6月例会②（文久3年赤沢村御用留講読⑦、深谷克己『江戸時代』輪読）	9
9	7/7	木	10:00～11:40	7月例会①（文久3年赤沢村御用留講読⑧、深谷克己『江戸時代』輪読）	9
10	7/14	木	10:00～11:30	自主活動（赤沢村浅見家文書・坂石村富澤家文書翻刻、井上村大野貞家文書整理）	8
11	7/21	木	10:00～11:40	7月例会②（文久3年赤沢村御用留講読⑨）	9
12	8/25	木	10:00～11:40	8月例会（文久3年赤沢村御用留講読⑩、深谷克己『江戸時代』輪読）	9
13	9/1	木	10:00～11:55	9月例会①（文久3年赤沢村御用留講読⑪、深谷克己『江戸時代』輪読）	11
14	9/15	木	10:00～11:40	9月例会②（文久3年赤沢村御用留講読⑫）	11
15	10/13	木	10:00～12:10	研修会（特別展「高麗人集結」展示解説）	8
16	10/20	木	10:00～11:50	自主活動（赤沢村浅見家文書、井上村大野貞家文書整理ほか）	7
17	10/27	木	10:00～11:45	研修会「高麗家文書から見た高麗神社の歴史」横田稔氏（高麗神社主任学芸員）	9
18	11/3	木	10:00～11:30	自主活動（赤沢村浅見家文書・坂石村富澤家文書翻刻、井上村大野貞家文書整理）	4
19	11/10	木	10:00～11:00	11月例会（文久3年赤沢村御用留講読⑬、当館ミッション（案）協議）	9
20	11/17	木	9:30～14:30	地域めぐり⑥ 中山地区巡見	11
21	12/1	木	10:00～11:40	12月例会①（文久3年赤沢村御用留講読⑭）	8
22	12/8	木	10:00～12:00	自主活動（赤沢村浅見家文書・坂石村富澤家文書翻刻、井上村大野貞家文書整理）	7
23	12/15	木	10:00～11:40	12月例会②（文久3年赤沢村御用留講読⑮）	10
24	1/19	木	14:00～15:30	1月例会（文久3年赤沢村御用留講読⑯）	10
25	2/9	木	10:00～11:30	2月例会①（文久3年赤沢村御用留講読⑰、市民学芸員全体研修会発表者協議）	9
26	2/16	木	10:00～12:00	自主活動（赤沢村浅見家文書・坂石村富澤家文書翻刻、井上村大野貞家文書整理）	8
27	2/23	木	10:00～11:35	2月例会②（文久3年赤沢村御用留講読⑱）	9
28	3/2	木	10:00～11:35	3月例会①（文久3年赤沢村御用留講読⑲）	10
29	3/9	木	10:00～11:40	自主活動（赤沢村浅見家文書・坂石村富澤家文書翻刻、井上村大野貞家文書整理）	7
30	3/16	木	10:00～11:32	3月例会②（文久3年赤沢村御用留講読⑳、現地見学会、来年度の活動協議）	11

合計 のべ 261人

探求する。

③活動や調査の成果を、郷土館の教育事業の中で積極的に活用する。

平成28年度の活動は、前年度の活動を継続する形で、麦・イモ類の栽培を軸として進めた。大きな農の営み・サイクルの中で継続的な取り組みが必要となるため、ある程度は前年度同様の活動となることは不可避である。ただ、ノラボウのような新たな作物の栽培を試みるなど、より充実した活動となるよう試行錯誤しながら進めた。

農作業の他に、麦文化の一側面である「食」についても取り組んだ。4月にはうどん、11月には打ち入れ、12月にはゆでまんじゅうを、収穫した小麦で作った小麦粉から試作した。また、収穫した大麦は炒って麦こがしとし、小学3年生の社会科見学対応時の石臼体験に利用した。

これからの活動については、作物のサイクルに則した農作業を活動の基本軸として据えつ

つ、麦作を文化として探求し、その成果をいかに活用・還元するかという目標②及び③を視野に入れた事業展開を模索する段階に至っている。今後、市民学芸員と知恵を出し合いながら活動の更なる発展を目指していきたい。



麦作文化探求型 収穫間際の麦畑（5/31）

平成28年度市民学芸員（麦作文化探求型）活動一覧

	活動日・時間			活動内容	会場	参加人数
1	4/16	土	9:30~13:30	うどんづくり	加治東公民館	11
2	4/23	土	13:30~15:00	麦間の土寄せ、雑穀・大豆作付箇所の耕作など	西側畑	11
3	5/7	土	13:30~15:15	雑穀・大豆の播種、防鳥ネット設置	西側畑	10
4	6/1	水	9:30~11:30	大麦の刈り取り、雑穀間引きなど	西側畑	10
5	6/8	水	9:30~10:50	小麦の刈り取り	西側畑	8
6	6/12	日	9:30~11:30	さつま苗の植え付け、大麦の脱穀	西側畑	5
7	6/26	日	9:30~12:30	畑の手入れ、小麦脱穀	西側畑	9
8	7/10	日	9:30~10:50	畑の管理、大麦こがし、小麦干し	西側畑・1階搬入路	8
9	7/27	水	9:30~11:00	畑の管理	麦畑	6
10	8/3	水	9:30~12:00	小麦の製粉	1階搬入路	6
11	8/21	日	9:30~12:00	小麦の製粉	1階搬入路	6
12	9/3	土	9:30~11:45	畑の管理、小麦の製粉	1階搬入路	6
13	9/10	土	9:30~10:30	畑の管理	西側畑	9
14	9/25	日	9:30~10:20	サツマイモのつる返しと除草	西側畑	6
15	10/1	土	13:30~15:00	今後の予定について打ち合わせ	1階搬入路	11
16	10/16	日	13:30~16:15	サツマイモ・雑穀の収穫、サツマイモ貯蔵用のムロづくり	西側畑	8
17	10/22	土	13:30~14:30	畑の耕作	西側畑	7
18	11/12	土	13:30~15:40	ノラボウの植え付け、大麦の種蒔き、堆肥場の補修ほか	西側畑	9
19	11/19	土	13:30~14:50	小麦の種蒔き、サツマイモの製粉	1階搬入路	9
20	11/30	水	9:30~11:50	うちいれづくり	加治東公民館	10
21	12/10	土	13:30~16:00	さつま団子づくり、ゆでまんじゅうづくり	学習研修室	8
22	12/17	土	13:30~15:00	麦踏み、大豆の収穫	西側畑	6
23	1/14	土	13:30~13:40	麦踏み	西側畑	5
24	1/29	日	13:30~15:40	ジャガイモ植付箇所の耕作、麦踏み、サツマイモの苗床作り	西側畑	7
25	2/18	土	9:30~10:30	麦踏み、来年度予定等の打合せ	西側畑・学習研修室	7
26	3/8	水	13:30~14:30	麦の土寄せ、サツマイモ苗床への落葉追加	西側畑	5
27	3/11	土	13:30~14:00	ジャガイモの植え付け準備	3階屋上	4
28	3/15	水	13:30~15:20	ジャガイモの植え付け、サツマイモ苗床へ米糠追加、ノラボウ試食	西側畑	6

合計 のべ 213人

楽しいことがいっぱい的市民学芸員！

原田恵子さん（第Ⅲ期民俗調査型・第Ⅳ期博学連携型・第Ⅶ期麦作文化探求型）

○市民学芸員に応募した理由は？

私の場合、平成16年2月から養成が開始された第Ⅲ期「民俗調査参加型」への参加が最初です。これは郷土館にある林業関係道具を埼玉県指定文化財にするための基礎調査に携わるものでした。私はその年に森林インストラクターの資格を取って活動していたのですが、その試験科目に林業があり、森林インストラクターとしては参加しなければならないと考えたんです。資格を取るために名栗での枝打ちや間伐の体験もしていたし。ただ、Ⅲ期の活動は道具の手入れをするとか、道具の図を描いたりとかで、そういうのが苦手な私はあまり貢献できなかったなあ。でも、養成講座での講義は、森林インストラクターとしての活動にはとても役に立っています。



○博学連携に参加したのは？

Ⅲ期の養成講座は、既に市民学芸員として活動している人が多く受講していて、新しい人で認定されたのは、私と関根さんだけだったんです。そのうち、博学連携の活動をしている方から人手が足りないから、って誘われて。元々子どもを対象とする活動には関心もあったし。だから私たちの場合、養成講座よりも実務の方が先だったので何か居心地が悪い感じが今でもしています。

○博学連携の市民学芸員の魅力は？

子どもたちが火のしや昔のアイロン体験を楽しみにしているところですね。昔の道具を楽しく使ってくれるお手伝いをするのはとてもやりがいがあることだし、炭の説明では森林インストラクターとして培った知識も活かせます。それだけでなく研修会でいろいろなところに見学へ行ったり、講義を聞くことで見聞が広められるのも魅力の1つかな。

○逆に大変なことは？

とにかく小学校の見学が毎年1月から2月にかけてほぼ毎日、集中的に行われるので、子どもたちとの交流を楽しみにしていても、体力的にはかなりきついし疲れる（笑）。本当は多くの人に参加して、ひとりひとりが無理のない範囲で関わることができるのが一番なんだけど。

○これからどのような活動をしたいですか？

郷土館に自然分野を入れて欲しいとずっと言ってきたので、平成30年度から自然のビジターセンター機能が加わるのはとても嬉しい！私としては、博物館で気軽に自然を楽しんでもらえるような活動のお手伝いができるといいかな。一般の人たちが散策のような気軽さで自然に入り、体験できるような経験ができると思う。

○まだ市民学芸員になっていない人に

市民学芸員は、きちんとした研修を受けて活動するボランティアグループです。いろいろな研修は自己研鑽にもなり、新たな発見もたくさんあります。また、いろいろな人との出会いも多く、楽しいことがいっぱいあります。新しい世界が広がりますよ。



昔のアイロン体験を指導する原田さん

事務局から

ほとんど独学で自然の勉強をされたとお聞きし驚きました。今では森林インストラクターの資格を活かして、市内の小学校に出張授業に行ったり、子育て総合センターが主催する「森のようちえん」での自然に触れあうイベントにも関わるなど幅広い活動をされている原田さん。その豊富な学習活動の経験から、当館における子ども対象事業での、子どもの理解力や動き、考え方の予測などについて、いつも非常に有益なアドバイスをいただいております。その知見の広さにはただただ脱帽です。

地域の子どもたちとの交流は得がたいチャンス！

篠宮敏次さん（第Ⅴ期博学連携型・第Ⅷ期麦作文化探究型）



○市民学芸員に応募した理由は？

平成22年度に第Ⅴ期（博学連携参加型）・第Ⅵ期（古文書整理型）の市民学芸員を募集している記事が「広報はんのう」に出ているのを妻が見つめて、「お父さんが長らく集めてきた子どもの遊び道具や家にある昔の生活道具を活かせるんじゃない？」と勧めてくれたのがきっかけです。両親からものの大切さを教わってきて、なかなか捨てられないというものもあって取って置いたのですが、それをどうにか活かしたいという気持ちにもなっていました。若い頃から子どもの育成にも関心があって、地元で青少年健全育成には長らく関わってきましたし。

○その後、麦サークルにも参加しましたね？

麦作については、福島さんとの雑談の中で食育の観点からやってみよう、ということになったわけ。父親は会社勤めで日中は家にいませんから、子どもの頃から母親の手伝いをして畑にでていました。それほど大きくない畑でしたので、家で食べるものの足しにするくらいでしたが、大麦、小麦、サツマイモ、茶など一通りのものは作っていました。幼少からの経験があったので、これならできると思ったわけです。

○市民学芸員の魅力は？

一言で言えば「人との交流」に尽きます。人と交流することによって、幸せを分かち合うこともできます。ただ、それには健康であることと、参加できる環境が整っていることが必要だね。その点では家族に感謝していますよ。

博学連携の場合は、日々どんどん成長していく子どもたちとの接触で救われることがたくさんある。地元の第一小学校の見学の時に説明したりすると、その翌日、いつものように通学路で見守り活動をしていたら、児童の1人が「昨日はありがとうございました」と丁寧に御礼を言ってくれた。こうした地域での交流は、そこに育つ子どもにとっても、これから地域に関わっていくなかで支えになっていくと思う。お金に換えることのできないチャンスを与えてもらっていると思っている。

それと美杉台小学校に行って授業をした際、自分が小学1年生の時に着ていた服を持って行ったんだけど、実物があると説得力が増すね。自分の集めてきたものが役に立って嬉しかったよ。

○これからどのようなことをしていきたいですか？

麦作文化の方は、これまで栽培研究や知識の蓄積を行ってきたんですが、これからはそれをベースにして、さらなる探求をしていきたい。ここで郷土館が博物館になって、ビジターセンターの機能をもつようになるので、それにマッチした活動にしていきたい。収穫までのプロセスを掘り下げていけば小学3年生の見学プログラムにすることもできるんじゃないかな。今の時間だと上っ面なことしか説明できないのがちょっと残念だね。



麦作文化探求型の中心的存在である篠宮さん

事務局から

中山生まれの中山育ちで御年80年。元はお堅い職業であることを感じさせない、農業の深い知識と作業の手際良さ、そしてお百姓さんらしい出で立ち。飯能の戦前生まれの世代の方には、土とともに生きてきた経験をもつ人が多く、農事暦と密接に関わった時間軸をお持ちですが、まさにその典型のような方です。市民学芸員の活動も、原則に立ち返っていろいろと考えたうえでのご意見をいただいています。ものを大切に作る心、土地とともに生きることなど私たちが失ってしまったものをぜひ、次の世代に伝えていってほしいです。

魅力的な飯能のまちをもっと知りたい！

和島和恵さん（第Ⅳ期古文書整理型・第Ⅷ期麦作文化探求型）

○市民学芸員に応募した理由は？

今から30年くらい前、娘と飯能まつりを見に来て、それに魅せられて飯能に引越してきました。多くの町内が山車をもっていて、町の人たちがそれに参加し、古くからある町であることがいい感じで出ていて。飯能に来て、飯能のことをもっと知りたいと思いました。古文書は、博物館ではよく展示してあるにも関わらず読めず、読めたら楽しいのに、とっていましたので、前々から興味はありました。

○市民学芸員の楽しさは？

メンバーが自分の所縁の場所を案内してくれる「巡見」はとても楽しい。古文書を読んでから現地を歩くと、昔のことや今とは全く違うことがよくわかる。それとメンバーとの交流も楽しみの一つです。誰かがおもしろい展示会を見つけてきて、それを何人かで見に行ったりすることもあります。

○古文書のおもしろさとは？

読めなかった字が読めてくるのが一番の面白さでしょう。最初はわからないところがあっても後で読み直すと前後の関係がわかったり、同じ文字が出てきたりして、とにかく繰り返して見るのが大事です。それとわからなくてもとにかく先に進むこと。あとひたすら多くの古文書を読むことかな。古文書が読めてくると自分が考えていた江戸時代像とは全く違う面を知ることができます。当時の百姓は貧乏で食うや食わずで「餓死寸前」というイメージをもっていたのですが、伊勢参りに行ったりして結構楽しく暮らしていたことがわかりました。



麦作文化探求型にも参加している和島さん

事務局から

市民学芸員の活動で、みんなで古文書を読んでいるときも、わからない字はたいてい和島さんに聞けばわかる、という感じで一目置かれている存在です。どうすれば読めるようになるか、というコツも私たちが普段から思っていることほとんど同じで、極意をよく理解されています。飯能まつりに魅せられて飯能の住民になっていただいたなんて、大久保市長が聞けばとても喜びそうな、模範の市民です。古文書に記された内容をいかに楽しんでもらうか、そのための方法についてもお考えです。みんなで古文書の魅力を伝える新たな試みに挑戦しましょう！



○市民学芸員としての活動をどのようにして還元したいですか？

古文書に書かれていることをベースにして文章にまとめてみたいという思いはあります。「御用留」は事件が出てきて、内容に起伏があっておもしろく、現代語に訳したら興味をもつ人もいると思います。古文書の内容を理解してもらうのはなかなか難しいので、何かおもしろいテーマや素材を見つけて、それを物語として書いたり、漫画にしたらもっと多くの人が興味をもってくれるのではないかな。

○4月には博物館になりますが…

とても期待しています。ぜひ飯能を代表するような場所になって、「飯能のことを知りたいのなら博物館へ」と言えるような施設になってもらいたいです。郷土館だと古くて小さい建物のイメージですが、博物館だと大きくて充実している感じがします。「博物館」の方が行ってみようと思う人が多いと思う。来年はムーミンのテーマパークもできるので、ムーミンといえば飯能、というくらいにしたらいい。とにかくここに来てもらうことが大事だから、そのためにムーミンのコーナーを設けるなど、博物館に来ないと見られないものがあることがポイントになるでしょう。

○まだ市民学芸員になっていない人へ

市民学芸員の活動に参加すれば、仲間もできるし飯能のいろいろなことを知ることができます。飯能に最近住み始めたような人は、友達もできてぜひおすすめですよ！

博学連携

博学連携とは、博物館と学校が相互に連携・協力して、子どもの教育にあたる取り組みのことである。当館の場合、その中心となるのは、小学3年生の社会科学習の見学受け入れであるが、小中学生の社会科学の自由研究を展示する「社会科研究展」も他ではあまり見られない、独自の取り組みの1つである。そのほか学校への資料の貸出も行っている。ただし、近年の少子化の影響もあって利用者数、件数ともに減少傾向にある。

小学3年生見学対応

平成28年度は570人の小学3年生が来館！

現行の学習指導要領は、小学校においては平成23年から全面実施されている。このうち、社会科学の第3学年の学習内容のうちの1つは、

(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子

イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事

ウ 地域の発展に尽くした戦時の具体的事例と定められている。

これに対応するものとして、本市では「市の人々のくらしのうつりかわり」の単元が設けられている。それに合わせ、当館では例年1月から2月にかけて「むかしのくらし」展を開催し、各学校に対し市民学芸員とともに、①常設展示室見学(飯能の宝物=重要文化財、紙芝居、西川材の3つから2つを選択)、②昔の道具探しクイズ、③石臼

と昔のアイロン体験の3種類のプログラムを実施している。このうち、①常設展示見学の中の、「飯能のたからもの」と西川材(県指定有形民俗文化財「飯能の西川材関係用具」)の解説がイに、それ以外がアに対応したものと位置づけられる。また、平成23・24年度版の社会科学副読本『はんのうし』から、該当部分が当館の見学プログラムに準拠した形に改められた。

さて、当該年度においては9月30日付で各小学校宛てに見学希望日や人数などを把握するための調査票を配布し、10月21日から11月25日にかけて当館にて先生方との打合せを行い、見学内容や移動手段などについて協議した。当館までの移動手段は、市のバス2台を中心に、足りない部分を民間事業者から乗合バスを借り上げて確保している。当日は、クラスを複数の班に分け1つのプログラムを通常40分かけて行い、決められた時間枠の中で、すべてのプログラムが体験できるように予定を組んでいる。

平成28年度小学3年生見学対応一覧

No.	実施日	小学校名	学級数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	常設展示選択
1	1/13(金)	精明小	1	29	市バス	9:08	11:49	161	10	宝物・紙芝居
2	1/17(火)	原市場小	1	39	市バス2台	9:11	11:57	166	10	紙芝居・林業
3	1/18(水)	飯能二小	1	10	市バス	9:03	11:46	163	7	宝物・紙芝居
		名栗小	1	6						宝物・紙芝居
4	1/19(木)	加治小①	2	76	借上バス2台	9:05	12:04	179	11	宝物・林業
5	1/20(金)	加治小②	1	35	市バス2台	8:58	11:43	165	10	宝物・林業
6	1/24(火)	加治東小	1	35	市バス2台	9:06	11:54	168	11	宝物・紙芝居
7	1/25(水)	美杉台小	2	80	借上バス2台	9:06	12:06	180	12	宝物・林業
8	1/26(木)	東吾野小	1	4	市バス	9:12	11:52	160	8	宝物・紙芝居
		西川小	1	3						宝物・紙芝居
		南高麗小	1	9						市バス
9	1/27(金)	富士見小	2	68	市バス2台	9:11	12:01	170	11	宝物・紙芝居
10	1/31(火)	双柳小	2	69	借上バス2台	8:57	11:55	178	12	宝物・紙芝居
11	2/1(水)	飯能一小①	2	71	徒歩	9:06	12:01	175	12	宝物・紙芝居
12	2/2(木)	飯能一小②	1	36	徒歩	9:03	11:35	152	12	宝物・紙芝居

合計13校

合計児童数 570人

市民学芸員のべ人数 126人

小・中学校社会科研究展

1 趣 旨

小中学校では、夏期休業中にいろいろな教科で自由研究の課題が出される。このうち、理科や技術家庭、美術科ではその作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているのに対し、社会科には学校の外でその成果を発表する場がない。しかし、児童生徒の地域研究の意欲は強く、中には研究の質として高いものも見受けられる。このような作品を地域の博物館で公開し、多くの人に見てもらうことは大きな教育的効果が期待できるため、平成10年度より飯能市教育研究会社会科部会と共催で行っているのが本事業である。出典された作品のうち優秀な研究に対し、右に掲げた基準に基づき教育長賞、

館長賞及び学芸員賞を選んでいる。ただし、当該年度、中学生の部には教育長賞、館長賞にふさわしい作品はなかった。

なお、保護者が仕事帰りに見に来ることでできるようにするため、会期中の金・土曜日の計4日間、開館時間を午後7時まで延長した。

2 展示概要

期 間	平成28年9月10日(土)～25日(日)
開館日数	13日間
入館者数	1,416人 (1日平均108.9人)
展示点数	小学生133点 (144人) 中学生 53点 (77人)

○教育長賞

No.	題 名	児童名	学 校 名	学年
25	続・ぼくのまわりにあった太平洋戦争	森口 豪文	飯能第一小学校	5

○郷土館長賞

No.	題 名	児童名	学 校 名	学年
12	点字ってなに？	中島 莉咲	飯能第一小学校	4

○学芸員賞

No.	題 名	児童名	学 校 名	学年
49	昔の痕跡調べ	吉田 空布	加治小学校	6
60	漢字の歴史	高山 真之	西川小学校	4
		高山 晏		1
66	釣り場！？	青柳 なお	原市場小学校	5
78	飯能市マンホール調べ	宮本 竜希	富士見小学校	5
16	飯能市の避難所について	宮本 隼希	飯能第一中学校	2
32	下名栗諏訪神社の獅子舞	山川 夏未	飯能西中学校	3
52	日本の裁判制度に迫る	松井 颯太	美杉中学校	3

特別賞の基準は以下のとおり。

○教育長賞

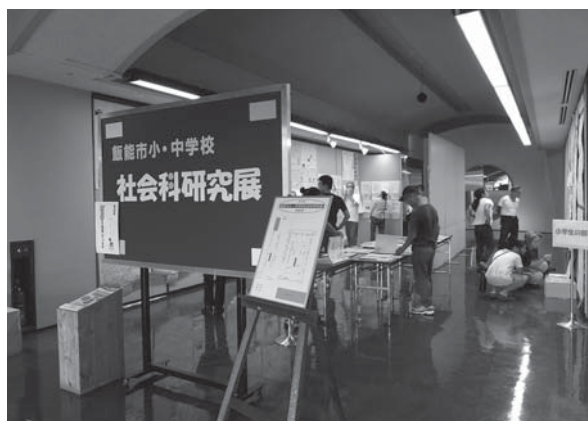
例年の館長賞の候補より特に優れ、数年に一度しか見られないようなもの。

○館長賞

学芸員賞候補作品のうち最も優れたもので、小・中学校1研究ずつ。

○学芸員賞

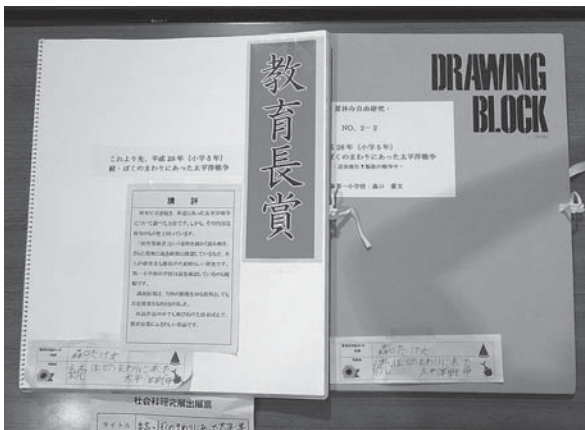
- ・地域を対象としている
 - ・聞き取り調査やフィールドワークなどによって自らが足を使って得た情報が含まれている。
 - ・児童・生徒ならではのユニークな視点や工夫が見られる。
 - ・調査結果がわかりやすくまとめられている。
- 以上に該当する作品で小・中学生合わせて4点まで。
なお、作品が展示されたすべての児童生徒には、毎年賞状と参加賞が贈られている。



展示風景 (展示ホール)



展示風景 (小学生の部)



教育長賞「続・ぼくのまわりにあった太平洋戦争」
森口豪文くん（飯能第一小5年）

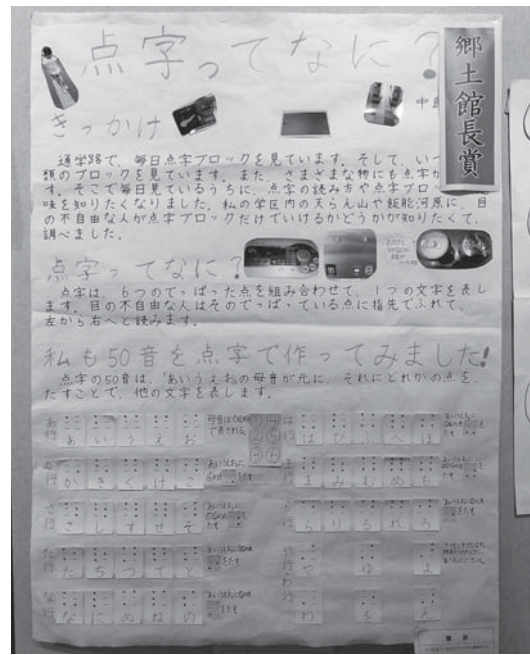
【講評】

昨年に引き続き、身近にあった太平洋戦争について調べた力作です。しかも、その内容は昨年のものを上回っています。

「防空業務書」という史料を細かく読み解き、さらに現地に赴き緻密に確認しているなど、大人の研究者も顔負けの素晴らしい研究です。第一小学校の学校日誌を確認しているのも脱帽です。

調査結果は、当時の飯能を知る資料としても大変貴重なものとなりました。

出品作品の中でも飛びぬけた出来ばえで、教育長賞にふさわしい作品です。



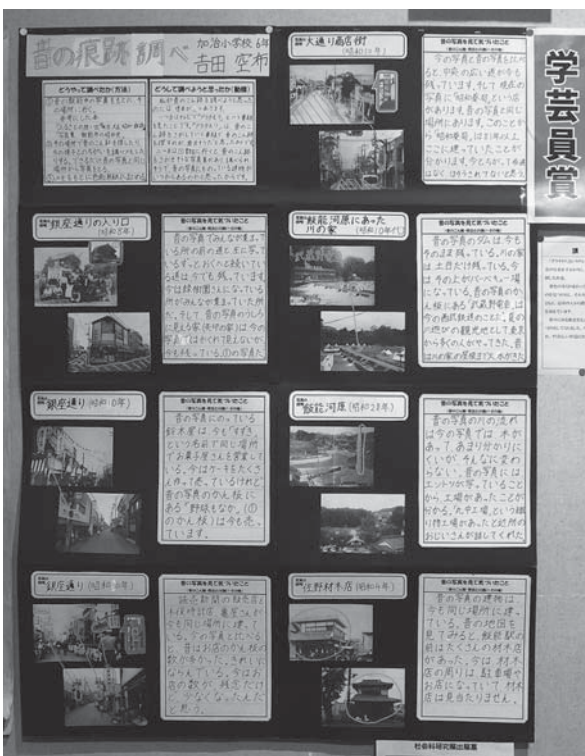
郷土館長賞「点字ってなに？」
中島莉咲さん（飯能第一小4年）

【講評】

いつも見ている点字ブロックから興味をもち、点字について調べた作品。

飯能駅から点字ブロックをたよりに天覧山、飯能河原まで実際に歩いてみて、行けなかったという結論を出し、目の不自由な人にもやさしい飯能市にするために、点字ブロックを増やすことや、点字付きのマップの発行を提案しています。

身近なものから研究を始めていること、現地を確認していること、そして特に、街づくりに鋭い提言をしていることがすばらしく、郷土館長賞にふさわしい作品です。



学芸員賞「昔の痕跡調べ」
吉田空布さん（加治小6年）



学芸員賞「日本の裁判制度に迫る」
松井颯太くん（美杉台中3年）

その他の博学連携事業

来館しての学習は横ばいだが、出張授業の件数は再び減少、4件に

平成17年度に17件あった出張授業の数は、平成22年度には9件となり、平成28年度はついに4件とこの10年で最低となった。「総合的な学習の時間」の授業時間数の削減によるものと思われる。教科学習への食い込みが課題であるものの、そのために必要な手立ては打っていない。

○出張授業一覧

No.	実施日	学校名	学年	科目	テーマ	内容	担当	人数
1	6/1(水)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の製作体験	縄文土器について解説をしたあと、実物を参考にしながら粘土で縄文土器を作成した。	村上	74
2	7/7(木)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の焼成体験	縄文土器の野焼きを体験した。	村上	74
3	11/8(火)	加治小学校	3	総合	「加治のじまんをみつけよう」	加治地区のよいところを紹介し、児童に地域を調べようという意欲をもたせた。	村上	108
4	11/25(金)	原市場小学校	4	社会	「武蔵野鉄道」	社会科副読本の内容に沿いながら、武蔵野鉄道開通の経緯と飯能に与えた影響について講義した。	尾崎	27

合計 のべ 283人

○来館しての学習

No.	実施日	学校名	学年	科目	テーマ	内容	担当	人数
1	7/13(水)	第一小学校	5	総合	「伝えよう飯能のまち」	当館が用意した「飯能の伝説、言い伝え」など7つのテーマの中から、児童が調べたい内容に近いものを選び、学芸員の話聞いた。	柳戸 尾崎 村上 宮島	40
2	10/25(火)	第一小学校	4	社会	西川林業について	シンボル展示「筏」と常設展示室「山のくらし」の西川林業のコーナーを解説した。	尾崎 村上	115
3	11/30(水)	第一小学校	3	総合	天覧山について	天覧山周辺の地図を配布し、十六羅漢や石碑などについて説明した。	村上	20
4	12/2(金)	第一小学校	3	社会	林業について	常設展示室「山のくらし」の西川林業のコーナーの解説と、休憩コーナーにてむかしの西川林業の道具クイズを行った。	尾崎 村上	108

合計 283人

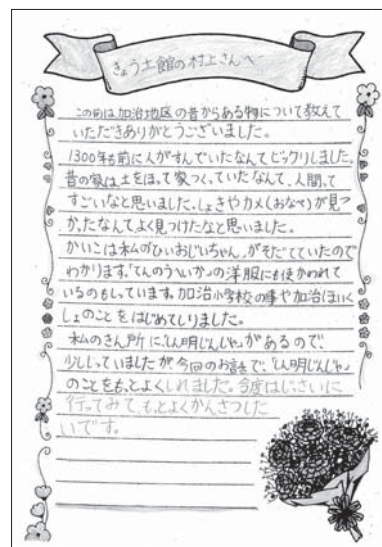
○中学生社会体験チャレンジ受入

No.	実施日	学校名	人数	内容
1	8/31(水)・9/1(木)	原市場中学校	3	館内外の清掃と小中学校社会科研究展のチラシの仕上げなど ※8/30は台風接近のため中止
2	11/15(火)～17(木)	加治中学校	3	館内外の清掃と特別展リーフレットや当館入館案内の作成、写真パネルの処分
3	11/30(水)～12/2(金)	飯能西中学校	4	館内外の清掃と小学3年生見学用学習ノートの作成、仕上げ
4	12/6(火)～8(木)	美杉台中学校	3	館内外の清掃と特別展「高麗人集結」の片付け、小学3年生社会科見学資料の作成
5	1/25(水)～27(金)	飯能第一中学校	4	小学3年生見学対応の補助や民具カードの作成、一般収蔵庫の棚の設置

合計 17人



社会体験チャレンジ風景



加治小出張授業のお礼状

資料・施設の利用

収蔵資料の利用(閲覧・貸し出し)

資料利用件数は134件と前年度とほぼ同じで、堅調な利用続く
よく利用されるのは文書、写真、図書で8割を占める

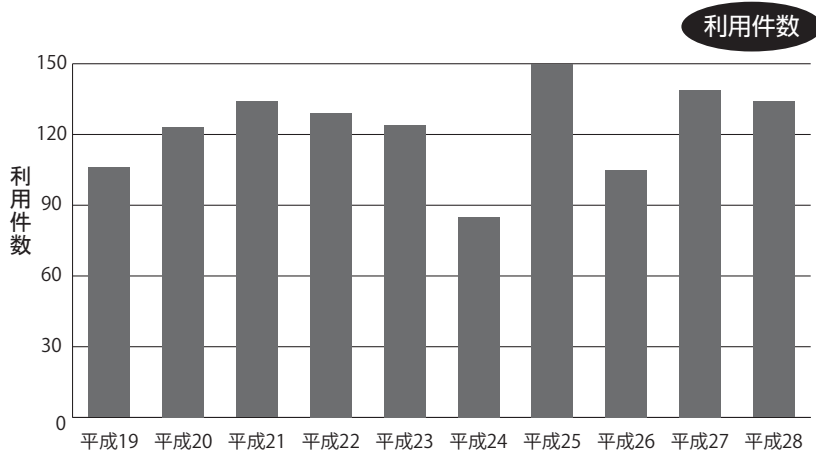
一般的に博物館では、収蔵資料の貸出や撮影、写真掲載などは特別利用として条例や規則で定められているところが多い。そのほかアーカイブズの機能をもつ館においては、それとは別の枠組み(資料閲覧利用申請など)で対応しているようである。

当館の場合は、毎年利用される資料のうち半分近くを文書が占める。飯能市郷土館条例には、資料の特別利用、閲覧利用という区分けはなく、この古文書などの閲覧も収蔵資料の利用の一環として捉え、資料利用許可申請書を出していただき、それを許可する形をとっている。収蔵資料の写真掲載や学校への貸出なども同じ手続きに拠っており、そのため市民や学習サークルなどの団体による利用が多くなっている。

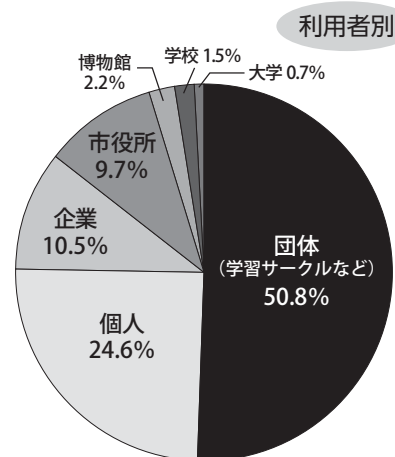
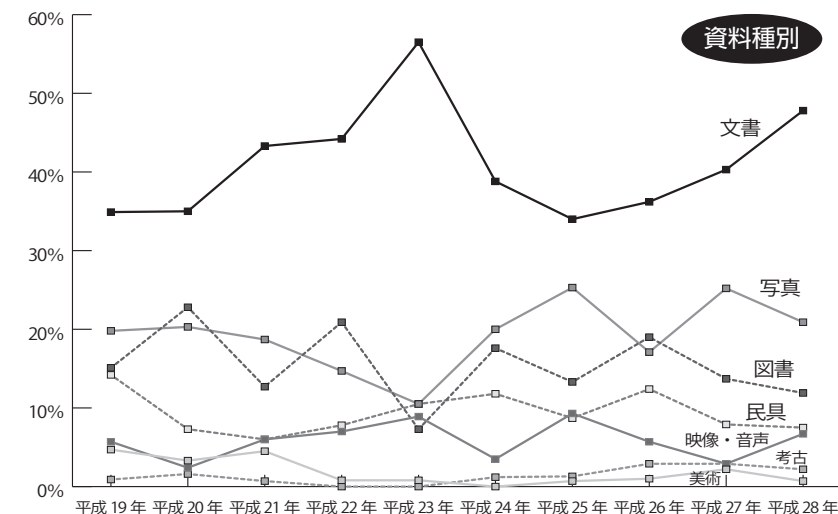
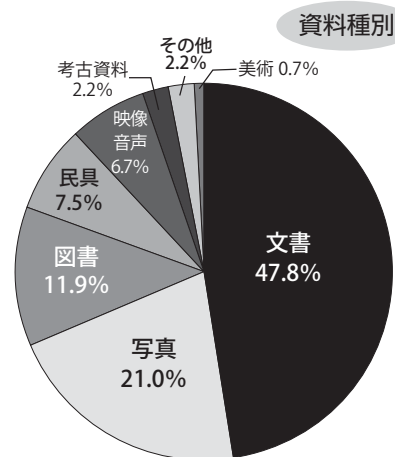
平成28年度は134件の利用があり、収蔵資料の利用点数は、この10年間で見てみると1年平均で123.0件となり、近年はばらつきがあるものの全体としては堅調に推移している。

当年度においても、文書は最も多く利用された資料で、47.8%を占め、ここ10年間で見ても上から2番目の割合である。利用者の内訳を見てみると、古文書同好会などの団体が50.8%、個人が24.6%、企業が10.5%で、この3つで約9割に達する。企業による利用の内訳であるが、14件のうち半数の7件が図書や雑誌の誌面における写真などの掲載、4件がテレビでの放映となっている。

10年間の資料利用の推移



平成28年度の資料利用



施設の利用

学習サークルによる活動は、回数、人数ともに減少傾向
常設展示改装事業により利用率は3割増加

飯能市郷土館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

平成28年度は、特別展示室・図書室の利用申請はなかった。

学習研修室の利用状況を把握するため、目的により以下の4つに分類した。

- ①地域の歴史や地域文化に関わる学習活動を行っている団体、サークルなどへの貸出(「恒常的活動」)
- ②市内の小学生や市外からの団体の見学、視察の対応や資料の閲覧(「見学・閲覧」)
- ③市役所内各課の事業での使用(「他団体の主催事業等」)
- ④当館主催の講座・学習会、市民学芸員といった交流事業など(「当館の主催事業」)

これらの件数と人数を集計したのが下の表である。

学習研修室利用実績

利用種別		年度		平成26(2014)年度		平成27(2015)年度		平成28(2016)年度	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数		
団体等の利用	①恒常的活動(学習サークル)	67	1,270	70	1,311	68	1,151		
	②見学・閲覧	9	199	14	92	22	107		
	③他団体の主催事業等	10	154	8	177	10	199		
小計		86	1,623	92	1,580	100	1,457		
④当館の主催事業		96	1,373	110	1,915	140	1,681		
合計		182	2,996	202	3,495	240	3,138		
年間利用日数		203日		174日		223日			

社会教育機関としては、学習サークルによる恒常的な学習活動が多様に展開されることが望ましく、その育成、支援も重要な役割である。当年度、学習サークルによる利用は、9団体、67回で、利用団体数は前年度とほぼ同じであるが、回数、人数は1,151人と漸減傾向にある。会員の高齢化による会員数や活動回数の減少が考えられる。当館を拠点に活動している下記の5つの団体のうち、古文書同好会は年間29回活動しており、飯能市指定文化財である須田家日記の翻刻などを精力的に行っている。また、飯能の“みんな”保存会は15回で、461名の利用者数であった。

ただし、市民学芸員のように、市民の学習活動の受け皿を当館が事業として用意している場合や、飯能市エコツーリズム活動市民の会のように当館を活動の拠点とはしていない団体の利用もあり、当館に関わる市民の学習活動のあり方は、上記の実績だけでは測ることができない面もある。

なお、学習研修室の利用率(日単位)は75.9%で、前年度より3割増加した。これは、当該年度、常設展示改装工事の設計業務が行われ、それに伴う打ち合わせなどが加わったことによると思われる。

○平成28年度末現在で活動している学習サークル

団体名	会員数	活動日	目的	代表者名	設立
古文書同好会	20	毎月第1・第3土曜日 第2金曜日	飯能市内の古文書の解説と時代背景の研究及び活字化	中里和夫	平成3(1991)年4月
多聞の会 (仏教美術学習会)	20	毎月第3木曜日	仏像・仏画・仏教建築など仏教及び仏教美術について広く学習する。	綾部光芳	平成6(1994)年11月
石仏談話会	10	第2土曜日(年数回)	石仏を通してその時代背景や歴史、文化を学ぶ	浅見初枝	平成7(1995)年1月
飯能郷土史研究会	69	年6回の例会	郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する	坂口和子	昭和48(1973)年7月
飯能の“みんな” 保存会	26	不定期	民謡をとおして心身の健康を高めるとともに、見聞を広め、郷土の文化を継承する。	石井英子	平成8(1996)年

レファレンスの対応

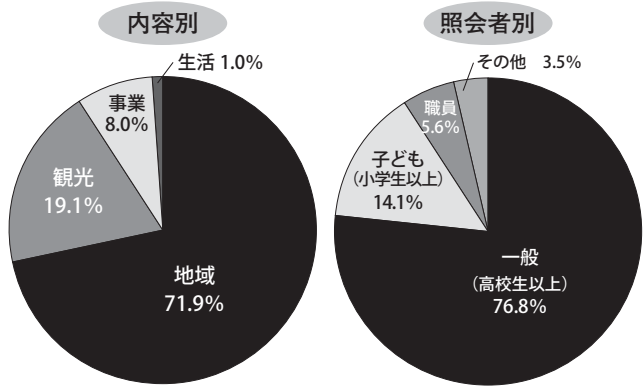
レファレンス対応件数、16%減の220件と平成26年度並みに
月別にみると、8月までで6割に達する

今年度のレファレンス対応件数は、窓口・電話合わせて199件である。そのほか、調査が必要で回答に時間がかかった場合に記入している「レファレンス対応記録票」の件数が21件あるので、実数としては220件であった。

内訳は、窓口が160件、電話が39件で、その比率は昨年度と同様ほぼ4：1である。これを合わせた内容、照会者ごとの内訳は、右のグラフの通りである。また、月別のレファレンス件数で見ると、当該年度の場合、8月までの5ヶ月間で、全体の62.3%に達した。7月、8月は夏休みの課題のために小・中学生が多く訪れるのは当然としても、4月～6月も他の月より多く、レファレンスは上半期に集中する傾向にあることがわかる。

窓口での1件あたりの対応時間の平均は7.0分、電話は7.6分であった。対応に要した時間は、年間で見ると合わせて1394分＝23時間14分ほどになる。

「レファレンス対応記録票」は、資料にあたり回答した内容が特別展のテーマや調査活動に発展する可能性があるためと、同じような問合せがあった場合の時間や作業の無駄を省くためのものである。手段としては電子メールでの問合せが21件中の15件(71.4%)とほとんどを占めた。

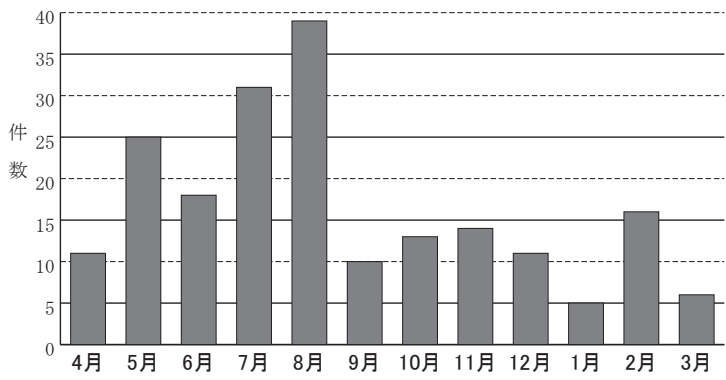


窓口での1件あたりの対応時間の平均は7.0分、電話は7.6分であった。対応に要した時間は、年間で見ると合わせて1394分＝23時間14分ほどになる。

「レファレンス対応記録票」は、資料にあたり回答した内容が特別展のテーマや調査活動に発展する可能性があるためと、同じような問合せがあった場合の時間や作業の無駄を省くためのものである。手段としては電子メールでの問合せが21件中の15件(71.4%)とほとんどを占めた。

レファレンスの対応

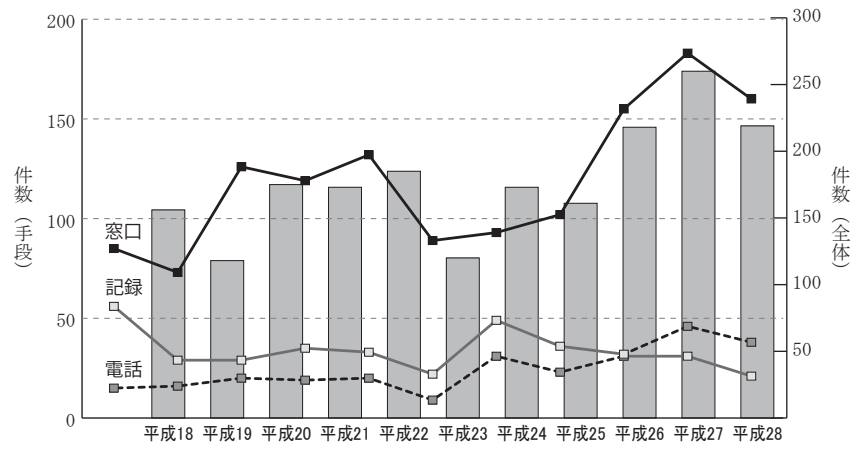
月別件数



レファレンス対応平均、最長時間一覧

	窓口		電話	
	平均(分)	最長(分)	平均(分)	最長(分)
平成23	8.5	40	7.3	20
平成24	7.4	40	6.3	15
平成25	6.8	30	5.7	30
平成26	8.4	45	8.8	30
平成27	6.6	20	8.1	25
平成28	7.0	45	7.6	30
平均	7.5		7.3	

○平成18～28年度レファレンス対応件数の推移



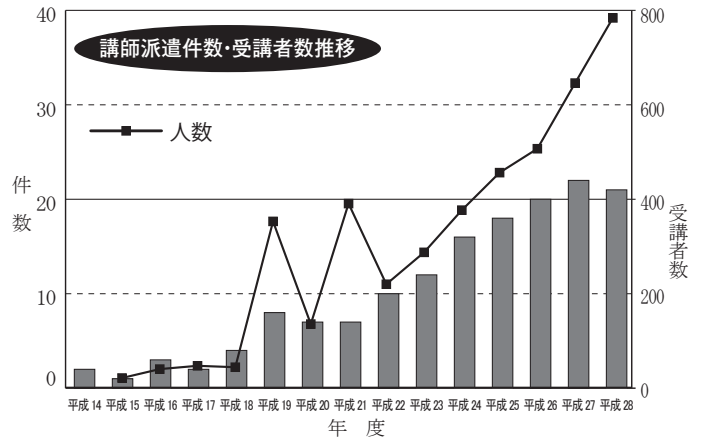
講師派遣の件数は着実に増加、平成28年度は800人に迫る勢い！

当館には、市内の自治会や学習団体をはじめ、市役所の各機関などから講師派遣や原稿執筆の依頼がある。こういった講師派遣の件数や依頼内容も、地域の文化・歴史を調査・研究する機関としての当館の存在価値を測る、バロメーターの一つと考えられる。平成22年度からの人数の増加は著しい。

なお、講師派遣のうち学校からのものは「博学連携」の出張授業の項(37頁)に掲載した。



飯能中央地区行政センター「飯能を知ろウォーク～幕末の飯能の姿と飯能戦争の旧跡をたどる～」(No.11)



平成28年度講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内容	対象者	人数	会場	担当学芸員
1	4/5(火)	9:00～11:00	飯能市役所職員課	新規採用職員研修「職員として知っておくべき飯能の地理と歴史」	新規採用職員	39	飯能市役所本庁舎5階大会議室	柳戸
2	4/6(水)	13:00～15:00	㈱加藤建設工業	出前講座「飯能市の地理と歴史」	新入社員ほか	7	(株)加藤建設工業本社	柳戸
3	4/15(金)	13:50～14:35	㈱金子組	(株)金子組安全大会出前講座「吾野地区の災害史」	㈱金子組社員	62	市民会館202会議室	尾崎
4	5/18(水)	13:50～15:50	葛飾区郷土と天文の博物館	「入間川源流バスツアー」において芦ヶ久保～当館の間のバス内での解説、当館常設展示室、飯能河原の解説	「入間川源流バスツアー」参加者	49	(現地・当館)	尾崎
5	5/22(日)	14:00～16:30	山梨化学学園	史跡めぐり「渡来人の里」を歩く」で当館～張摩久保遺跡～新久齋跡公園の案内	史跡めぐり参加者	25	(現地)	村上
6	5/26(木)	9:20～10:50	駿河台大学経済経営学部	出前講座「飯能市の地理と歴史」	経済経営学部1年生プロゼミナール	150	(現地)	柳戸
7	6/5(日)	10:25～11:10	上畑自治会	土砂災害防止訓練における講演「過去の土砂災害からの教訓」	訓練参加者	47	南高麗福祉センター集会室	尾崎
8	7/5(火)	9:20～10:50	駿河台大学メディア情報学部	博物館実習「小規模博物館の学芸員の実状～飯能市郷土館を例に～」	講義受講者	5	駿河台大学実習室	柳戸
9	9/14(水)	13:00～13:30	飯能ロータリークラブ	卓話「地域振興に果たす郷土館の役割」	飯能ロータリークラブ会員	48	ヘリテイジ飯能5階	柳戸
10	10/15(土)	10:00～11:30	東吾野公民館	文化遺産講座「高麗郡建郡1300年」	講義受講者	30	東吾野地区行政センター集会室	村上
11	10/22(土)	9:00～11:35	飯能中央地区行政センター	「飯能を知ろウォーク～幕末の飯能の姿と飯能戦争の旧跡をたどる～」	講座参加者	16	(現地)	尾崎 宮島
12	11/15(火)	10:00～11:30	原市場公民館	「原市場の古社寺を知ろう ～歩こう会事前学習会～」	講座参加者	18	原市場地区行政センター集会室	村上
13	11/22(火)	12:35～13:05	埼玉県文化財保護協会	被災文化財レスキューボランティア研修会「飯能地域の災害史」	研修会参加者	33	市民会館202会議室	尾崎
14	11/28(月)	10:00～12:00	出前講座を聞く会	出前講座「江戸時代の家族」・「飯能のまちの歴史」	出前講座を聞く会会員	13	中央地区行政センター第6会議室	尾崎
15	1/21(土)	14:00～16:00	四校(飯能第一中・富士見小・双柳小・精明小)PTA教養委員会	出前講座「精明地区の歴史を学ぶ」	第一中学校、精明小学校、双柳小学校、富士見小学校PTA	80	総合福祉センター3階大会議室	村上
16	2/5(日)	10:00～13:30	一般社団法人高麗1300自由の森学園高校	「高校生と交流する高麗1300ツアー」にて、原市場地区の遺跡について説明	講座参加者	43	(現地)	村上
17	2/18(土)	16:05～16:25	矢嵐自治会自主防災会	出前講座「飯能戦争について」	矢嵐自治会自主防災会会員	32	矢嵐会館	尾崎
18	2/19(日)	14:45～15:15	飯能市エコツーリズム活動市民の会	飯能市エコツーリズム活動市民の会設立総会記念講演「郷土館とエコツーリズムのかかわり」	飯能市エコツーリズム活動市民の会会員	39	市民会館202会議室	柳戸
19	3/22(水)	10:00～12:00	精明公民館	「まちなか歴史巡り(銀座通り、大通りなどの市街地の現地見学会)案内」	講義受講者	5	(現地)	尾崎
20	3/29(水)	12:30～14:00	こどもエコクラブ飯能	スプリングスクール(バックヤード見学、古銭の拓本取り、飯能市郷土かるたで遊ぶ)	参加者	33	当館学習研修室ほか	柳戸・尾崎 村上・宮島
21	3/30(木)	9:00～9:45	美杉台公民館	親子でわくわく探検隊(バックヤード見学)	参加者	14	当館一般収蔵庫	柳戸

合計のべ人数 788人

収 集

当館の資料収集は、そのほとんどが市民からの寄贈によるものである。寄贈の申し出をいただいた場合、その資料を一度実見し、当館の収集方針に照らして受領するかお断りするかを判断している。当年度は46件の寄贈を受けた。

また、本市域の歴史や文化に関わる資史料のうち、特に貴重なものの劣化・散逸を防ぎ、後世に伝えていくため、所有権を所蔵者に残したまま当館でお預かりする寄託も行っている。当年度5件の寄託を受け入れ、受託資料は64件となった。受託期間は原則2年間である。

なお、平成28年度に購入した資料はなかった。

寄贈資料

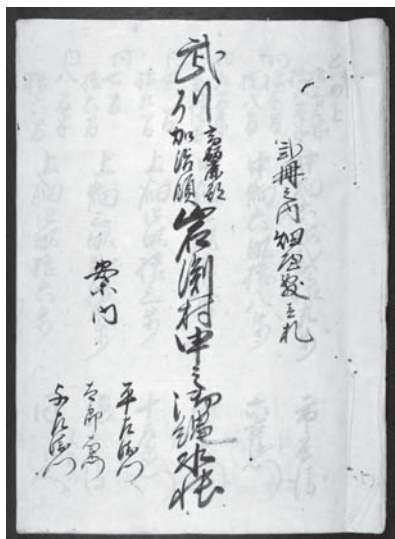
平成28年度に寄贈を受けた資料は、下記の46件である。

平成28年度寄贈資料一覧

(敬称略)

番号	資料名	点数	寄贈者名
1	飯椀・汁椀・壺椀・平椀・膳	10 点	石田 辰夫
2	古文書(岡部とよ子家・旧名栗村1区)、古写真	750 点	岡部 誠一
3	護符・掛け軸	1 式	円泉寺 諸井政昭
4	『わが町の織物』	1 点	宮岡 里次
5	徳利	1 点	大野 哲夫
6	『柳原と御囃子』・柳原囃子保存会改名四十周年記念DVDなど	4 点	柳原囃子保存会
7	『飯能大島紬の歩み』	1 点	大野 哲夫
8	台紙付写真「[リンガケ]」	1 点	小澤 千代
9	文書、軸装、台紙付写真	1 式	千葉 美子
10	綱	2 点	佐野 勝彦
11	おしめ、秩父三十四観音霊場納経帖など	1 式	須田 春江
12	典籍	121 点	平沼 伸雄
13	DVD「"みんな"と情景」	1 点	石井 英子
14	『一絃琴雑記』・『続琴狂いの記』	2 点	高橋 通
15	「武州高麗郡加治領岩淵村申之御縄水帳 式冊之内畑屋敷老札」など	3 点	大館 右喜
16	白子焼破片	1 箱	島田 稔
17	飯能名勝絵葉書・絵葉書「明治天皇御大葬儀(青山)御大葬場殿」など	12 枚	萩野 頼子
18	きぬた・『尋常小学唱歌』	3 点	南高麗小学校
19	『廃鉦の記憶』	1 点	小島 伸幸
20	全飯能野球団旗	1 点	増田 幸三
21	昭和拾老年拾月飯能警察署改築工事設計書1箱など	5 点	佐野 敏夫
22	『島送り 伊佐五郎』	1 点	芝山 富義
23	『講談社動物図鑑 昆虫・両生類・爬虫類』など	28 点	野村 正弘
24	紙焼き写真(銀座通りなど)・母子手帳	25 点	白井 敏夫
25	中谷孝雄宛書状など	216 点	富谷 フサ子
26	古文書・盃など	1 式	山岸 倉之助
27	消防署外観写真	1 点	萩野 和雄
28	徴兵適齢御届	1 点	飯能市シルバー人材センター

番号	資料名	点数	寄贈者名
29	風呂敷(「水道二十周年記念飯能町」)	1点	加藤 由貴夫
30	『日本古代考古学論集』・『国分寺の誕生』	2点	須田 勉
31	国民学校修了証書・印袴纏(「新井屋呉服店」)など	13点	浅見 君江
32	お煎餅を焼く器械	10点	石田屋菓子店
33	推薦状(昭和17年7月15日)・封筒(浴場許可書在中)など	7点	佐野 敏夫
34	『東海道 平塚宿・大磯郷助郷御免除歎願の一件』	1点	飯能市古文書同好会
35	中山備前守信敬公生誕二百五十年記念の会CD	1点	高橋 通
36	『語り継ぎたい「武州世直し一揆」の真実』	2点	武州世直し一揆百五十年記念事業実行委員会
37	請負経歴書	1点	佐野 敏夫
38	昭和39年度両吾野地区簡易水道事業県費実績報告書など	104点	飯能市立図書館
39	飯能市市勢要覧など	5点	飯能市役所情報戦略課
40	古文書	153点	新井 実
41	高札・重箱	4点	佐藤 勝彦
42	『彰義隊十四番隊長比留間良八を追って』	1点	比留間 英雄
43	台紙付写真「[着物姿の男性1人記念]」など	12点	佐野 敏夫
44	西武鉄道秩父線新設など写真(ポケットアルバム)など	1式	金田 政彦
45	西川小学校50周年記念式典写真DVD	1点	萩原 昭平
46	2016年度西川小学校卒業式写真DVD	1点	萩原 昭平



岩瀬村申之御縄水帳 (No.15)

武蔵国の関東平野から関東山地へと移行する地域では、寛文6(1666)年から同8年にかけて総検地が行われた。この文書はその時に作成された岩瀬村(現在の市内大字岩瀬)の土地台帳を天保7(1836)年4月に写したものである。この寛文8年の土地台帳(検地帳)は、明治時代初頭の地租改正まで200年もの間機能していて、江戸時代の岩瀬村を理解するための基礎史料である。



重箱 (No.41)

中藤下郷の旧家から寄贈された2段の重箱2セットのうちの1つで、それを収納している木箱の内側には「中藤下郷平蔵寺」という同家の屋号が墨書されている。蓋の表の木瓜紋は同家の家紋ではないとのことである。中藤村下郷の領主は、幕府領から延享3(1746)年に御三卿(徳川將軍家の親戚)の一つ田安家の領地となり、天保3(1832)年に再び幕府領となった後、岩槻藩大岡家の領地として明治を迎えている。大岡家の家紋は木瓜ではないが、隣の中藤村中郷の幕末から明治初頭の領主堀田家(上総国佐倉藩)は木瓜紋なので、同家に関係したものの可能性もある。

整理(情報化)

744点の資料を整理！
古文書の整理は今年度も500点を超える

当館が収集した飯能市の歴史や文化に関する様々な「モノ」は、そのままでは博物館の資料とはなりえない。整理とは、資料についての情報を抽出し博物館資料として利用可能なものとする作業で、この過程では様々な記録が作成される(ドキュメンテーション)。

当館では、現在も紙媒体の資料カードが基本であり、それに記載された情報の一部をPC上の目録に入力し検索の手段としている。その他の資料は手書きの目録による管理である。

当年度は、民具41点、古文書・典籍528点、古写真175点の整理を行った。

当館収蔵資料の概要と点数

種別	資料の概要	収蔵点数
民具 (民俗資料)	人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具で、埼玉県指定有形民俗文化財「飯能の西川材関係用具」などがある。他の分類に属さない資料もここに含めている。	5,784
古文書	紙に文字、記号、図像などが記録されている資料、典籍含む。ただし護符は民具に分類されている。	51,823
古写真	台紙付写真、紙焼き写真。個人や機関所蔵写真の複写物も含む。	6,001
絵画	軸装、額、屏風などに仕立てられた日本画及び白木正一、早瀬龍江、富山芳男、内田晃、小島喜八郎など本市に在住もしくはゆかりのある画家の油彩、デッサンなど	447
工芸	飯能焼(市指定文化財双木本家飯能焼コレクションなど)、刀剣、金工など	277
文学	詩人蔵原伸二郎、俳人石田波郷らの直筆短冊、軸装など	29
考古	飯能焼原窯表採資料、板碑など	1,764
映像	本市の機関が製作した映像作品のほか当館の調査や事業の記録映像など	267
音声	レコード及びテープ	1,013
図書	他の博物館が発行した図録、報告書、要覧のほか自治体史、本市の行政刊行物など。図書室に開架している一般書も含む。	16,890
合計		84,295

*収蔵資料点数は、平成29年6月現在のカード作成もしくは目録登録済の点数。 *「絵画」は、絵画と古美術、「音声」は、レコードとテープを合わせた点数。

①民具

民具の場合、受け入れ台帳に登録されて資料番号が与えられる。そして資料カード(B5版)には、資料名・寄贈者氏名・住所・寄贈年月日などのほか、寄贈者から聞き取りした製作時の状況や使用した時期、使い方、その大きさや材質などの情報が記録される。

②古文書(典籍含む)

当館の古文書・典籍用の資料カードは、縦8.3cm、横12.7cmのもので、そこに史料群名、年代・表題・作成者・宛所・形態・劣化状況・史料の内容などを記している。カードに採録された情報は、データベースソフト(マイクロソフト社のアクセス)に入力され、目録が出力されることになる。また、それと並行して適宜、中性紙封筒、中性紙保存箱へ詰め替えも行っている。

③古写真

写真資料も②と同様に所蔵者(旧所蔵者)を単位に資料番号を与え、カード(A4版)には所蔵者などからの聞き取りや他の資料から得られた被写体についての情報を記録している。

平成28年度文書整理実績

史料群名	整理点数	区分	受入年度
旧西光寺(原市場)	179	新	平成20(2008)
山川信一家(下赤工)	111	託	平成19(2007)
大館右喜氏蒐集	3	新	平成28(2016)
浅見君江家(仲町)	12	新	平成28(2016)
新井忠治家(青木)	153	託	平成21(2009)
佐野敏夫家(久下分)	17	新	平成28(2016)
原市場村役場ほか	41	再	
土屋(喬雄)家旧蔵	4	新	平成28(2016)
鈴木晃家(唐竹)	8	託	平成28(2016)
合計	528		

*新=新規受入(未整理分) 再=既収蔵の再整理 託=寄託

●資料の保全

①映像資料のメディア変換

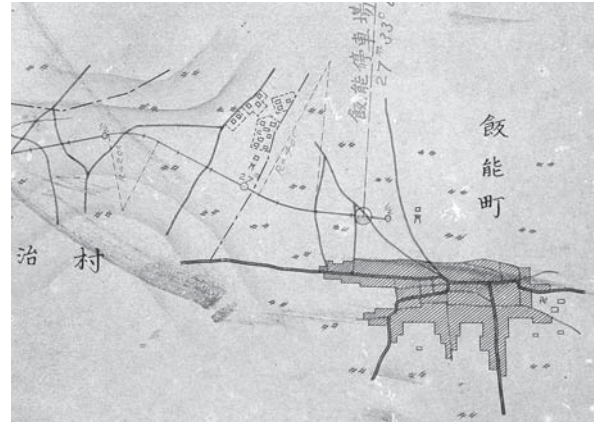
前年度に続き、VHSやベータなど磁気テープに記録された映像記録10本のデジタル化（メディア変換）を、株式会社金聖堂情報システムに委託して行った。

②「東京飯能間実測線路平面図」の修復

当該史料は、武蔵野鉄道（現在の西武池袋線）開業時に社長を務めていた旧家に保存されていたもので、たて40.9cm、よこ203.5cm、厚さ0.5mmほどの厚い料紙に池袋～飯能間全線の路線平面図が1/2000で手描きされている。料紙は全体的に波打って酸性劣化が進み、水濡れによるシミも生じていた。

そこで全体をクリーニングし、劣化している箇所を和紙で繕い、裏打ちを施したうえ、脱酸処理

を行い、中性紙ボードによる専用の保存容器を作製した。委託先は有限会社東京修復保存センターである。



「東京飯能間実測線路平面図」(部分)

保 存

●新収蔵資料の燻蒸など

当館では、新規に収集した資料を対象としビニールシートで覆う被覆燻蒸を年1回実施している。場所は荷解室である。

平成28年度は、6月28日(火)午前9時から投薬を開始し、30日(木)午前9時までの48時間燻蒸処理をし、その後排気を行った。使用薬剤はエキヒュームSで、有限会社環境技術に委託して行

われた。この間、6月28日(火)から7月2日(土)までを臨時休館とした。

また、名栗民俗資料保管庫（旧名栗村森林組合事務所）では、ブンガノンを用いての殺虫燻蒸を行った。9月22日(木)午前10時30分から噴霧を開始し、4時間充填放置したのち排気を行い、午後4時に終了した。

●当館・名栗村史資料室の環境調査

当館では、収蔵資料に劣化をもたらす虫菌類の有無を調べるための環境調査を年2回実施している。対象となるのは、特別収蔵庫・一般収蔵庫・収蔵庫前室・荷解室・常設展示室・特別展示室・展示ホールで、昆虫生息調査50ヶ所(歩行性昆虫トラップ44・飛翔性昆虫トラップ6)、空中浮遊菌調査8ヶ所、表面付着菌調査が5ヶ所である。また名栗地区行政センター2階にある名栗村史資料保管室では、昆虫生息調査10ヶ所(歩行性昆虫トラップ9・飛翔性昆虫トラップ1)、空

中浮遊菌調査2ヶ所、表面付着菌調査が2ヶ所である。

平成28年度は1回目を6月3日(金)から6月22日(水)まで、2回目を9月9日(金)から9月28日(水)までの期間で実施した。フェロモントラップによるシバンムシの捕獲が、整理室・荷解室・常設展示室・展示ホールで確認され、前年度より増えている傾向が見られた。これらの場所について経過観察を行ったが、資料への被害は確認されなかった。

●歴史公文書の収集と保存

当館では、飯能市文書管理規則第34条及び飯能市教育委員会文書管理規程第2条に基づき、廃棄対象となった公文書のうち、歴史資料として重要と評価した文書の収集を行っている。

当年度は、各所管課で廃棄決定された文書の

選別作業を2月15日(水)から2月24日(金)にかけて実施し、4日間で61箱分を収集した。廃棄文書に対する比率は4.5%であった。選別した文書は、旧図書館の地下書庫へ移動させた。

調査・研究

当館における調査研究活動は、今のところ特別展開催のための資料調査や、研究紀要の刊行に伴う単発的なものにとどまっている。本来なら、中長期的な事業計画の視点、あるいは地域課題の観点から調査・研究のテーマが設定されるべきであり、それを着実に積み重ねていくことが、当館の存在意義を示すことにつながるはずである。

特別展に関する調査

平成28年度の特別展「高麗人集結」開催のため、以下の箇所で調査を実施した。

(平成27年度)

2/16 山梨県韮崎市

3/22 日高市教育委員会

3/25 茨城県かすみがうら市・ひたちなか市

(平成28年度)

4/25 狭山市

4/26 千葉県香取市立佐原中央図書館・木更津市郷土博物館金のすず

5/7 山梨県立図書館

5/12 張摩久保遺跡出土銅鏡サンプリング調査
(当館・国立歴史民俗博物館齋藤努教授ほか)

5/17 専修大学

6/10 日高市立図書館

7/20 東京都国分寺市・群馬県高崎市

7/25 神奈川県大磯町

8/4 埼玉県埋蔵文化財センター

8/12 鳩山町教育委員会・日高市教育委員会

8/15 坂戸市歴史民俗資料館

8/24 川越市教育委員会



高来神社 (神奈川県大磯町)

古文書詳細調査

当館では、平成16年度から21年度にかけて飯能市教育委員会で行われた古文書所在確認調査を引き継ぎ、その補足調査や、当館で所蔵、もしくは受託している史料の翻刻や内容分析、及び特定のテーマを設定して行った関係史料の調査を行ってきた。

いっぽうで山間地では、人口が減少していく中で、地域の歩みをふりかえり次世代に伝えていくことで、誇りや愛着を育み、コミュニティを活性化していきたいという意向が聞かれるようになってきた。平成27年6月には、飯能市自治会連合会吾野支部より旧吾野村の歴史、文化等をまとめた冊子の刊行を求める要望書が市長宛に提出され、これを受け当館では吾野地区の文書調査を優先して行っていくこととした。

既に吾野地区に所在する史料については、地方史料調査会と合同で大字坂元(旧武蔵国秩父郡坂元村・柵平)に所在し、当館に寄託されている采澤菊平家の文書調査に平成26年8月より着手し

ていたが、平成28年度は、8月13日(土)・14日(日)及び3月18日(土)・19日(日)の2回実施した。

また、平成25年度より原市場地区の古文書整理にも重点的に取り組んでいるが、前年度に引き続き池田昇氏(元日の出町史編さん担当職員)にお願いし、武蔵国高麗郡原市場村旧西光寺文書及び受託史料である山川信一家文書(下赤工)の整理及び内容分析を行った。



地方史料調査会による采澤家文書の調査風景

古文書所在確認調査

文書、典籍のほか、地域に関する文献、図、写真などの地域史料は、主に江戸時代以降の地域の移り変わりや先人の営為を詳細に伝えるものである。しかし近年代替わりや家の立て替えなどによって、散逸する危険性が増えており、地域住民や学校、自治会、市役所など地域の機関が所蔵しているこうした史料について、市史編さん終了後所蔵者に返却されたものも含めてその保存手段を講ずる必要がある。本調査はその基礎作業として古文書等を所蔵している家、機関を訪問してその保存状況や内容等を把握することを目的としている。合わせて所蔵者と今後の保存のあり方について協議し、現地保存を原則としつつも、場合によっては寄託や寄贈を提案することも行っている。

平成28年度は、宿谷家(下直竹)、山岸家(阿

須)、鈴木家(唐竹)、宿谷家(下直竹)の4軒の調査を行い、宿谷家史料は当館で受託し、山岸家よりは所蔵史料の寄贈を受けた。



古文書所在確認調査風景

常設展示改装に関わる調査

常設展示改装工事設計のため、以下の調査を実施した。

- 7/6 大通りの模型調査(春日部市郷土資料館)
- 9/16 自然情報調査打ち合わせ(当館)
- 11/14 製炭に関する調査(東吾野・名栗)

- 11/21 絹織物関係調査(八幡町)
- 12/14 大通りの模型調査(仲町)
- 1/12 大通りの模型調査(本町)
- 2/10 絹織物関係調査(下名栗)
- 2/14 大通りの模型調査(本町)
- 3/10～30 植物写真の種同定・確認(依頼)

研究紀要第8号の刊行

研究紀要は地域の歴史・民俗・考古に関する調査・研究の成果等をまとめたもので、当館では隔年の発行となっている。執筆は当館学芸員だけでなく、教育委員会生涯学習課文化財担当職員や当館の収蔵資料の調査を行っている研究者などにも広く依頼している。

平成29年3月に発行された研究紀要第8号の内容は以下のとおりである。本号は、日本民具学会会員の宮本八恵子氏、国学院大学文学部教授千々和到氏の玉稿2編を収録し、これまでにない充実した内容となった。

飯能市郷土館研究紀要第8号の内容

タイトル	著者	ページ
「機屋の挑戦」その後 一小槻織物工場における織物生産の軌跡と機屋経営	宮本 八恵子(日本民具学会会員)	5～29
飯能市郷土館収蔵の「おふだ」に書かれた神代文字	千々和 到(国学院大学文学部教授)	31～35
中藤中郷自治会文書から見てくる高麗(入間)郡中藤村(上) ー中藤を中心とした近世後期～近代へー	池田 昇(当館古文書詳細調査員)	47～59
明治二十年代における大学教員の経歴とその生活 ー山川義太郎を例としてー	宮島 花陽乃(当館学芸員)	61～71
資料紹介 当館収蔵の護符② ー入間・狭山・青梅市域及び越生・毛呂山町域に所在する寺社の護符、飯能市域に所在する寺社の護符(補遺)ー	村上 達哉(当館学芸員)	37～46

刊行図書

- 特別展図録「高麗人集結」
A 4判56頁(平成28年10月9日発行)
- 研究紀要第8号
A 4判72頁(平成29年3月24日発行)
- 飯能市郷土館館報「郷土館のプロフィール」第13号
A 4判74頁(平成29年3月15日発行)

ホームページ・ツイッター・フェイスブック

●ホームページ

平成29年2月22日(水)午後1時をもって、飯能市ホームページがリニューアルされた。これに伴い当館のページも大幅に変わったが、移行作業の影響に加え、これまでのような階層が設定できないことや、当館で変えることのできる部分が少なくなったこともあり、以前のような発信ができなくなっている。アクセス件数は右表の通りであるが、新システム移行に伴い、当館で管理しているページのアクセス件数の算出ができなくなっている。

●ツイッター

昨年度から開始したツイッターであるが、ツイートの全体数を増やすことに努めた昨年度とは趣向を変え、展示・イベントの直前や期間中に特化して、年間30件のツイートを行った。

●フェイスブック

平成29年2月11日から、フェイスブックの更新を開始した。これは、ホームページのリニューアルに伴いページが消滅した「郷土館日誌」に代わるものと位置付けられる。学芸員の仕事を知らせてもらうことや当館をより身近に感じていただくこと、そして館の展示やイベントの広報を目標に、当館の日常を綴っている。

平成28年度
郷土館ホームページアクセス件数

月	トップページ 件数	件数 (管理ページ全体)
4月	727	8,182
5月	954	9,167
6月	786	9,241
7月	983	9,599
8月	1026	9,197
9月	1069	8,817
10月	1204	12,896
11月	1059	19,829
12月	710	10,919
1月	733	13,763
2月	823	
3月	502	
合計	10,576	111,610
1ヶ月平均	881.3	11,161.0

That's 郷土館

「That's! 郷土館」は、地域のケーブルテレビである「飯能日高テレビ」で毎月発行している番組表にスペースをいただき、毎回地域の歴史、文化を紹介しているものである。

この内容は、平成18年4月分より当館のホームページにて閲覧が可能となっている。平成28年度の掲載内容は表のとおりである。

平成28年度「That's! 郷土館」掲載記事一覧

月	内 容	担当 学芸員
4月	幻の名所 -征矢神社の桜-	宮島
5月	防災倉庫と「郷蔵」	尾崎
6月	古代高麗郡と道路	村上
7月	飯能のたからもの	尾崎
8月	高麗人移住を物語る土器たち -堂ノ根遺跡1号住居跡出土資料-	村上
9月	民具から見える地域 -竹箆のお話-	宮島
10月	高麗人の集落跡から見つかった銅鏡 -張摩久保遺跡から出土した3点の銅鏡について-	村上
11月	(休み)	
12月	武蔵野鉄道本社写真みつける!	尾崎
1月	平安時代における山間部開拓のその後 -飯能市大字唐竹・赤沢の場合-	村上
2月	村と鉄砲 ~江戸時代の鉄砲事情~	宮島
3月	御用宿三嶋屋と一橋家の村々	尾崎

平成28年度は、全国路地サミット in 飯能での屋外展示など3件に協力！

平成28年から37年までの飯能市第5次総合振興計画において、まちづくりの基本理念の1つとして「魅力・交流・賑わい創造と経済の好循環」が掲げられ、「古くから培われてきた本市の歴史や伝統、文化などの地域資源を、本市の単なる特性として継承してだけでなく、更に個性を引き出し、新感覚で新たな魅力創造へのステップアップを図る」としている。

こうした理念のもと、市役所内の様々な課所が地域資源を活用し、ブランド化をはかり、シビックプライドを醸成する事業を行っているが、これらの事業には、当館がもっている地域の歴史・文化情報が不可欠である。これらの動きはともすると歴史文化情報資源の「使い捨て」にもつながりかねず注意が必要であるが、一方で歴史博物館の存在意義を庁内で広く認識してもらうまたとない機会とも捉えられる。

以上の視点から、地域の魅力を発信し、ブランドづくりにつながる事業の支援も当館の業務として位置づけ、積極的に取り組んでいる。平成28年度は以下の3件である。

平成28年度「事業支援」実績

	支援先	利用期間	内 容
1	スポーツ課	7/21	飯能市・高萩市スポーツ少年団友好都市交流事業事前学習会で使用する「飯能市と高萩市～歴史でつながる友好都市～」のリーフレット作成
2	地域活動支援課	10/13～17	全国路地サミット in 飯能で、ひだまり公園で開催した屋外古写真展の展示写真の選択、印刷、解説の作成を支援。
3	名栗公民館	11/3	第12回名栗地区文化祭において、来場者に機織り体験の指導。



全国路地サミット in 飯能での屋外古写真展 (10/13～17)



名栗地区文化祭における機織り体験の指導 (11/3)

郷土館協議会

郷土館協議会は、飯能市郷土館条例第10条に基づき、当館の運営に関する事項を調査し、審議するために置かれている。委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

任期：平成26年7月1日～平成28年6月30日

【開催状況】

○視察研修

平成28年6月25日(土)

午前10時～午後2時

(目的)

常設展示改装の設計に際し、自然分野の展示を検討する上での参考とする。

(視察先)

群馬県立自然史博物館

【委員名簿】

職名	氏名	役職	備考
会長	柳澤 陽子	文藝飯能編集・選考委員	
副会長	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	
委員	山下 利明	飯能第一小学校長	平成28年3月31日退任
委員	伊藤 誠	飯能第一小学校長	平成28年4月1日就任
委員	新井 均	吾野中学校長	
委員	杉田 和美	学童保育なぐりっ子クラブ指導員	
委員	井上 淳治	(有)創林 代表取締役	
委員	野村 正弘	駿河台大学教授	
委員	栗原 慶子	東吾野女性林研ときめ木 会長	
委員	小槻 成克	市文化財保護審議委員会委員	
委員	馬場 憲一	法政大学教授	

任期：平成28年7月1日～平成30年6月30日

【開催状況】

第1回 平成28年8月26日(金)

午前10時～正午

(議事)

協議事項

- ・平成27年度事業報告について
- ・平成28年度事業経過と今後の予定について
- ・郷土館の使命策定について
- ・常設展示改装展示構想(案)について

【委員名簿】

職名	氏名	役職	備考
会長	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	
副会長	栗原 慶子	東吾野女性林研ときめ木 会長	
委員	伊藤 誠	飯能第一小学校長	
委員	新井 均	吾野中学校長	
委員	杉田 和美	学童保育なぐりっ子クラブ指導員	
委員	井上 淳治	(有)創林 代表取締役	
委員	野村 正弘	駿河台大学教授	
委員	小槻 成克	市文化財保護審議委員会委員	
委員	馬場 憲一	法政大学教授	
委員	平良 宣子	元毛呂山町歴史民俗資料館学芸員	

第2回 平成28年11月16日(水)

午後1時30分～3時30分

(議事)

協議事項

- ・平成28年度事業経過について
 - ・平成29年度事業計画について
 - ・郷土館の使命(ミッション)策定について
 - ・常設展示改装展示構想(案)について
- ※終了後、特別展「高麗人集結」の展示解説を実施

第3回 平成29年3月28日(火)

午後2時～3時30分

(議事)

協議事項

- ・平成28年度事業経過について
- ・平成29年度事業計画について
- ・常設展示改装設計について

博物館実習は、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において修得すべき博物館に関する科目の1つとされており、登録博物館又は博物館相当施設（大学においてこれに準ずると認められた施設を含む。）における実習により修得されるものとされる。文部科学省では平成21年4月の博物館法施行規則の改正を機に「博物館実習のガイドライン」を作成しているが、登録博物館である当館としては、これを参考にしながら博物館実習を実施している。「ガイドライン」には、博物館が学芸員を始めとする博物館に関する人材を育成する責務を有していること、実習の受け入れが博物館の質の向上につながることを指摘しているが、合わせて実習を通して実習生とその周辺の人々に当館の役割や存在意義に対する理解を深めてもらうことも重要な目的の1つと考えている。



「竹の水鉄砲で遊ぼう」の準備（7/28）

受け入れる学生は原則として、市民とみなされる世帯に属し、博物館学概論の単位を修得していることを応募の条件にしており、実習の前年度末までに申込書を受け付け、4人以内で実習生を決定している。

また当該年度は、実習期間中に5年経験者研修における社会貢献活動研修として、4人の教員を2日間ずつ受け入れた。

実習期間 平成28年7月26日(火)～8月9日(火) 13日間

実習生 黒河まい(大正大学)・内藤大数・増沢みのり(以上駿河台大学)・守田友輔(桜美林大学)

※教員5年経験者研修

8月2日・4日 濱田朝美(飯能第一小学校)・二反田隼(原市場中学校)

8月3日・5日 齋藤直人(南高麗小学校)・植松梢(加治中学校)

○平成28年度博物館実習カリキュラム

	実施日	曜日	午前	午後
1	7月26日	火	オリエンテーション・施設について(尾崎)	当館の現状と運営方針(柳戸)
2	7月27日	水	「竹の水鉄砲で遊ぼう」準備(宮島)	
3	7月28日	木	「竹の水鉄砲で遊ぼう」準備(宮島)	
4	7月29日	金	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営(宮島)	
5	7月30日	土	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営(宮島)	
6	7月31日	日	夏休み子ども歴史教室「飯能市郷土かるたのたび」準備(尾崎)	
7	8月2日	火	夏休み子ども歴史教室「飯能市郷土かるたのたび」準備(尾崎)	
8	8月3日	水	夏休み子ども歴史教室「飯能市郷土かるたのたび」準備(尾崎)	
9	8月4日	木	夏休み子ども歴史教室「飯能市郷土かるたのたび」運営(尾崎)	
10	8月5日	金	夏休み子ども歴史教室「飯能市郷土かるたのたび」運営(尾崎)	
11	8月6日	土	夏休み子ども歴史教室反省(尾崎)	
12	8月7日	日	古文書の整理(尾崎)	
13	8月9日	火	実習のまとめ作成(尾崎)	郷土館の課題について(柳戸)

()は指導者名

博物館実習生の声

○実際に博物館で業務に携わってみてわかったこと

- ・学芸員1人1人が、市民に対して地域のことについてよく知ってほしい、もっと好きになってほしい、という思いをもって仕事をしているということ。
- ・学芸員の仕事は本当に大変だということ。例えば専門知識だけでなく、チラシづくり、館報の内容、歴史教室の企画などを同時並行的に行っていくことです。また地域博物館として、何を市民に還元できるかを常に考えていること、博物館運営の厳しさ、古文書の整理や子ども対象の体験教室など来館者からでは知ることのできない、多くの活動を行っていること。



とにかく暑かった夏休み子ども歴史教室（8/5）

○博物館実習で楽しかったこと

- ・「夏休み子ども歴史教室 飯能市郷土かるたのたび」で飯能市内の子どもたちとたくさん触れあえたことです。普段小さい子と接する機会があまりないため、とても貴重な体験になりました。子どもたちは、私たちが予想しているよりもずっと洞察力、理解力、想像力があり、とても驚かされました。
- ・絹甚、中山信吉墓等の「郷土かるたのたび」イベントに関する場所を回った時に聞いた説明です。飯能市の昔の人々の文化、暮らしが垣間見えてとても面白かったです。自分でも飯能市について勉強したくなりました。

○博物館実習でつらかった(大変だった)こと

- ・「夏休み子ども歴史教室 飯能市郷土かる

たのたび」は楽しかった反面、実習の中で一番つらかったです。見学先の下見、当日併せて5日間とても暑く、屋外での活動は体力のいるものでした。

- ・子どもたちとのコミュニケーション、館外活動（夏の暑さ、子どもの引率、移動）、実習日誌（私の大学が4ページも書かせるため、全て手書きであるため）。

○次年度の実習生に向けてのメッセージ

- ・想像以上に体力を使う作業がとても多いです。しかしだからこそその達成感があります。また、博物館報をよく読み、館の特徴をしっかりと理解し、考えることが大切だと思います。
- ・今まで座学で教わってきたことを体験できる場です。自分でもっている知識だけではできないことや、教わってきたこととは違うこと（例えば収蔵庫の温湿度管理や、資料を積み重ねて置かないなど）もあります。しかし、それが博物館の実態であります。よって大変なことは多いですが、多くのことを学んでいただきたいです。
- ・体力が要るので体調管理に気をつけて下さい。地域の方々や子どもたちと活動ができるので普段学ぶことができないことを学べと思います。また地方の博物館の奮闘や役割について考えさせられ、学ぶことができると思います。
- ・とても特色のある博物館であるため、ここでしか学べない博物館の実態を学び感じ取ってほしい。館外活動が多い可能性があるため、体調管理を意識すること、そして子どもには広い心で接すること。



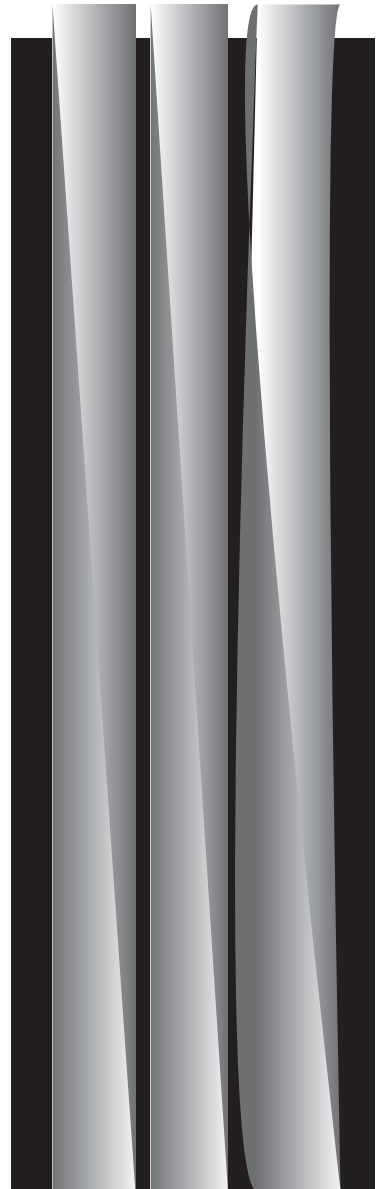
平成28年度実習生



第 3 章

…… Chapter 3 ……

【常設展示改裝】



○常設展示改装に至る経緯

平成2年の開館から25年が経過し、常設展示室の模型の劣化、パネルの褪色などが顕著となり、常設展示の展示替えは10年来当館の課題となっていた。これが実現したのは、第5次総合振興計画実施計画(平成29～31年度)のシンボルプロジェクトの1つである都市回廊空間整備事業に位置づけられたことによる。都市回廊空間は、市街地を取り囲むように点在する飯能河原・天覧山周辺、宮沢湖周辺(小さな発見に満ちた「北欧時間の流れる森と湖」メッツァが開園予定)、あけぼの子ども森公園を結び、訪れる人々を街なかや山間地へ誘導することで全市的な経済波及効果を狙うものである。元々市域の7割が山間地で、都心から50km圏

内であって豊かな自然を身近に体験できることが特長である本市にとって、博物館で自然分野を扱っていないのは問題があるという認識は館内で共有化されていた。当館が所在する天覧山周辺地区には里山の自然が残されており、その魅力を紹介するビジターセンター的な機能を追加することで、常設展示の改装が可能となった。なお、飯能河原・天覧山周辺地区の魅力ある都市回廊空間づくりのためのブラッシュアッププロジェクトは、平成28年度の地方創生推進交付金(内閣府)の対象事業となっている。

今回の展示改装の基本的な方針を定めた「常設展示改装に関する計画」を次ページ以降に掲載した。

常設展示改装展示設計完成までの流れ

月日	できごと
平成27(2015)年度	
7月	第5次総合振興計画実施計画(平成28～30年度)で、自然の展示と飯能河原・天覧山周辺のビジターセンターとしての要素を加えることを検討。
8月5日	郷土館協議会より飯能市郷土館の整備拡充に係る要望書が飯能市教育委員会教育長宛に出される。
9月	第5次総合振興計画実施計画(平成28～30年度)で常設展示改装が認められる。
平成28(2016)年度	
3月	市議会3月定例会で平成28年度予算(常設展示改装展示設計委託)議決
4月	常設展示改装に関する計画案検討開始
6月	新たな歴史展示室のゾーニング案とビジターセンター部分の内容検討
8月	「飯能市郷土館常設展示改装に関する計画」(案)作成
8月	当館常設展示改装展示設計を含む「森林文化都市はんのう 都市回廊空間ブラッシュアッププロジェクト」に対し内閣府の地方創生推進交付金の交付が決定する。
8月26日	「飯能市郷土館常設展示改装に関する計画」が郷土館協議会で承認される。
9月14日	(株)ムラヤマによる常設展示改装展示設計業務を開始する。
9月29日	常設展示改装設計第1回打合わせ(工程、展示計画の考え方、展示品の構成など)
10月14日	常設展示改装設計第2回打合わせ(施工コスト、空間デザイン、展示品の配置など)
11月1日	常設展示改装設計第3回打合わせ(展示品レイアウト、音声ガイダンスなど)、展示基本設計書提出。
11月29日	常設展示改装設計第4回打合わせ(展示品レイアウト、意匠計画、施工費など)
12月12日	常設展示改装設計第5回打合わせ(意匠計画、施工費、大通り模型の範囲など)
12月14日	庁内関係各課へ常設展示改装(案)提示、意見聴取(12月末まで)
12月27日	常設展示改装設計第6回打合わせ(意匠計画、施工費、パースの内容など)
1月12日	常設展示改装設計第7回打合わせ(意匠計画、施工費、パースの内容など)
1月14日	郷土館協議会委員へ常設展示改装(案)送付、意見聴取(1月末まで)
1月18日	常設展示改装設計第8回打合わせ(造作物の詳細確認など)
1月20日	教育委員会1月定例会で常設展示改装設計概要報告
1月25日	常設展示改装設計第9回打合わせ(演示具、解説サイン、大通りの模型のクオリティなど)
2月8日	常設展示改装設計第10回打合わせ(平面図・立面図、造作図の確認など)
2月15日	常設展示改装設計第11回打合わせ(平面図・立面図・照度分布図、造作図、照明の確認など)
2月22日	常設展示改装設計第12回打合わせ(平面図・立面図、大通り模型製作図確認)
2月28日	常設展示改装展示設計図書納品

飯能市郷土館
常設展示改装に関する計画

平成28(2016)年8月

飯能市郷土館

はじめに

飯能市郷土館は、平成2年4月に開館した。昨年度までの26年間で38回の特別展を行ったほか、毎年恒例となっている夏休み子ども歴史教室などの学習活動を展開してきた。資料収集保存活動では、平成28年5月現在の収蔵資料点数は50,000点に達し、資料の整理を進めてこれまでに7冊の収蔵資料目録を刊行した。調査研究活動では、特別展に関わる調査のほか、学芸員の調査研究成果などを研究紀要の1号から7号に掲載し、また史料集1冊も発行することで市民に還元してきた。さらに平成12年3月には博物館法にもとづく登録博物館となり、平成26年5月には開館以来70万人の入館者を迎えた。

ところで、平成28年度から37年度までの10年間の本市の総合的、計画的な行政運営の指針にあたる第5次総合振興計画では、本市の将来都市像を「水と緑の交流拠点森林文化はんのう」とした。「水と緑の交流拠点」とは、宮沢湖畔に建設が予定されている「北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設(メツツァ)」と水と緑に親しむ飯能河原・天覧山、あけぼの子どもの森公園の3つをつなぐ回廊空間を核に、その人の流れを中心市街地や山間地へも誘導し、交流による賑わいの創造をめざすものである。

また、ここに掲げられた「森林文化」には、東京近郊にあって生活基盤に近接する豊かな自然を基盤とし、その環境を保全し活用して、本市ならではの「森林文化都市」を実現する、というメッセージが込められている。飯能河原と天覧山の間に位置する当館は、その立地を活かしてこの交流拠点へ人々を誘うとともに、「森林文化都市」ならではの魅力を創造、発信し、その人の流れを市街地や山間地域へ誘導する役割が求められているといえよう。

さらに当館は、本市の地域特性を明らかにし、発信することを役割の1つとして位置づけてきた。市域の75%を山間地が占めるなかで、豊かな自然環境はまさに「オンリーワン」ともいえるべき重要な地域特性の1つといえるが、本市には総合的に自然情報を集積し提供する機関がない。その現状も考えれば、当館が自然分野を取り扱っていないのは、課題の1つとして指摘してよいだろう。

いっぽうで、人口減少と少子高齢化による消費経済規模の縮小は、地方自治体の財政状況をさらに厳しくしていくことが予想され、本市においても、公共施設の老朽化とそれに伴う維持管理コストの増大は、今後どの施設を存続させていくのか、その選別を余儀なくさせていくことになる。したがって、これまで以上に、地域博物館としての当館の存在意義が厳しく問われることになる。それは、郷土館があることで、市民がどのような恩恵を受けるのか、ということでもあり、何をめざして、何に力点を置いて、どのようにして社会と関わるのか、ということをより明確にしていかなければならない。すなわち、第5次総合振興計画、第2期教育振興計画のなかで、新たに求められる当館の役割を見据えたときに、それに連動した形での、当館の使命(ミッション)とそれに基づく中長期計画、そしてその達成度合いを確認するための評価が求められているのである。

平成20年6月の博物館法改正で、博物館は運営の状況についての評価を行い、それに基づいた改善を図ることが求められるようになった。登録博物館である当館は、常設展示改装を機に、解決しなければならない課題にも向き合う必要がある。

I 当館及び常設展示の現状と課題

1 当館の現状と運営に関わる課題

- ・本市は、市域の75%を山地が占め、恵まれた自然が魅力となって多くの観光客が訪れる地でありながら、自然情報を集積し発信する場所がない。
- ・当館は、天覧山・飯能河原といった景勝地に隣接し、これらの地域には、数多くの歴史的遺産が存在しているが、そこへ誘うための展示、資料や情報の提供がほとんど行われていない。
- ・展示資料が少なく小コーナー展示にメリハリがないため、見た人の印象が残らない。
- ・平成20年6月の博物館法改正により、博物館は運営状況についての評価を行い、それに基づいて改善を図ることが求められるようになったが、当館にはこの評価の前提となる使命や目標が設定されていない。

2 常設展示の課題

ア、展示の老朽化

コーナーパネルや展示台の中には、経年変化により退色したものや、汚れが目立ってきたものが見られる。また、地形模型のスイッチは、故障することが多くその復旧は専門業者でないとできず時間がかかる。また、子どもたちに人気の「縄文人」も近年は手先や顔面での表皮の剥落が顕著になってきており、見た目が良くない。

イ、地域の特性が表現されていない

西川林業とならんで歴史的に地域の主要産業であった絹を中心とする織物業や、埼玉県指定文化財にもなっている智観寺の板碑に関する展示がない。また、本市は、江戸時代に徳川御三家の1つである水戸藩付家老となった中山氏の旧領があった茨城県高萩市と平成17年度に友好都市提携を結び、以来様々なかたちでの交流が行われてきているが、その近世中山氏に関係する展示が全くない。さらに通史展示としての近代・現代史展示がないのも問題である。

ウ、最新の研究成果が反映されていない

現在の常設展示には、開館以後の調査・研究成果や平成16年に合併し平成21年度に完結した名栗村史編さん事業の成果が反映されていない。また、当館の重要な収蔵資料の1つである埼玉県指定有形民俗文化財の「飯能の西川材関係用具」も展示されていない。

エ、シンボル展示「筏」

実物大の迫力をもっているために、特に初めて訪れた人には大きなインパクトを与えることができるものの、存在感が大きい故に、リピーターや市民に対してはいつまでも展示が変わらないイメージを定着させる要因にもなっている。また占有しているスペースの広さが否定的に捉えられ、撤去もしくは移動を求める声が開館間もない頃から少なからず出ている。

Ⅲ 常設展示の展示改装方針

都心や市街地に近く「身近で豊かな自然」があることは、本市の重要な地域資源である。そこで、今回の改装では、天覧山、飯能河原や市街地の近くに立地している地理的条件を活かし、**当館周辺地域の自然に人々を導くビジターセンターとしての機能を加える。**

したがって、新たな常設展示は、歴史展示室(現在の常設展示室)、自然コーナー(現在の展示ホール)及び**森林文化都市表象展示「筏」**(現在の休憩コーナー)の3つから構成する。

1 改装の方向性

- ・第5次総合振興計画基本計画で台地部分に設定された「都市回廊空間」と、そこを拠点に街なか、山間地へと人の流れを作り出すことを意識する。
- ・最新の情報・知見を常に反映させることができるよう展示替えが容易な構造とし、「更新される展示」を目指す。
- ・「地域の情報センター」にふさわしく、ICT技術を利用して来館した人が自ら情報を選び取ることができる機能を備える。ただし、依拠するシステムは汎用性の高いものとし、メンテナンスや技術の発達に伴う更新のコストが過重にならないように留意する。
- ・内装には可能な限り西川材を利用する。

2 歴史展示室の展示方針

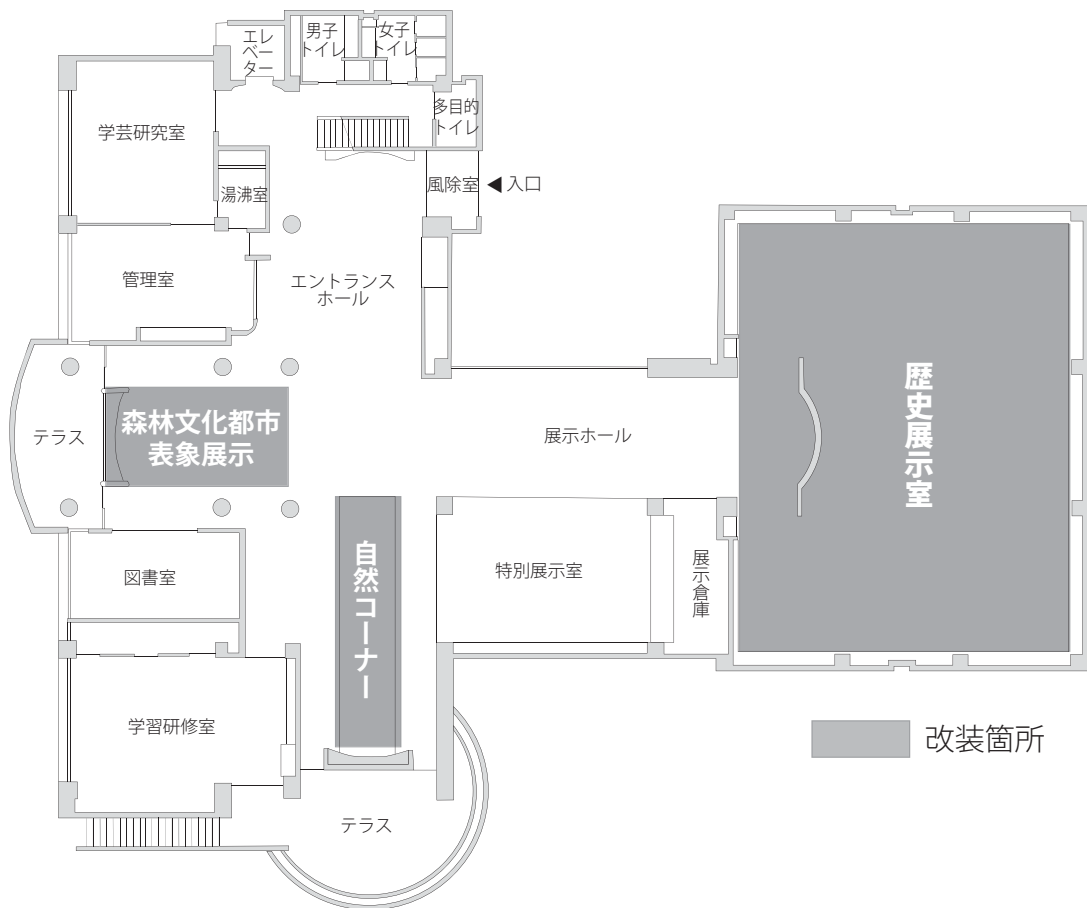
- ・本市の魅力は、江戸時代前期に始まった「縄市」(まち)と、まちを仲立ちとして関わってきた山間地(「やま」と台地の3つの地域によって構成されている多様性にあるので、その交流をメインに展示ストーリーを構成する(課題2-Iに対応)。
- ・過去の災害など現代に活かすことのできる歴史情報や、回遊コースの提示につながる大字単位の歴史の展示、市民の学習成果を展示できるようなスペースを設ける(課題2-Uに対応)。
- ・森林文化都市としての本市の特性を明確にするため、「山地の暮らし」(西川林業のコーナー)のジオラマはそのまま残す(課題2-Iに対応)。

3 自然コーナーの展示方針

- ・当館周辺の天覧山・多峯主山や飯能河原には多種多様な動植物が生息しており、「自然の宝庫」であること、さらにそれが市街地に隣接した場であることを伝える。
- ・来館者を屋外に誘うためのビジターセンター的な機能を果たす。
- ・この貴重な自然が残された経緯とともに、散策のマナーや注意事項を示す。
- ・今見られる動植物を紹介する。
- ・当館周辺の自然の紹介を中心とするが、それ以外の地域での特徴的な自然のあり方も一部紹介し、飯能は自然の宝庫であることを示す。
- ・ハンズオンなど体験型展示を取り入れる。

4 森林文化都市表象展示「筏」

- ・シンボル展示「筏」は、現在の休憩コーナーへ移設することで、「オンリーワンの森林文化都市」を創造、発信する拠点としてのイメージを表象させる。
- ・ただし、休憩コーナーは、見学に疲れた入館者がソファーに座って体を休ませる場所でもあるので、その機能を失わないように配慮するものとする。



V 新たな常設展示の内容

1 歴史展示室

○導入

- ・常設展示の入口にあたる展示ホールには、市外から来た方に当館の概要を理解してもらうため、床面に本市域全域の空撮写真を床貼りする。
- ・展示ホールの常設展示側壁面には、飯能市の歴史の流れが把握できるように年表のパネルを設置する。

ア、台地

(対象地域) 精明地区と加治地区・旧飯能地区の一部

(展示内容)

- ・本市及びその周辺地域に最も多く見られる縄文中期の集落遺跡は、加治地区にある加能里遺跡等の出土遺物を中心に、その前後の時代も併せて展示する。
- ・奈良、平安期は、霊亀2(716)年の高麗郡建郡によって集落が激増する精明地区の張摩久保遺跡出土資料などを取り上げる。
- ・精明地区の歴史は、麦作・杉苗生産及び宮沢湖の開発を小テーマとして表現する。
- ・まちとの境目にあたるところに、初期板碑の代表例である埼玉県指定文化財「智観寺の板石塔婆」(複製)を展示する。

イ、まち

(対象地域) 旧飯能地区

(展示内容)

- ・明治30～40年代頃の大通りを中心にその周辺のまちの様子を再現した模型(縮尺150分の1)を中心に配置する。
- ・大通り周辺に遺る歴史的建造物へ人を誘うため、敷地内の町屋の建物配置の模型(縮尺40分の1)を展示する。
- ・「まち」の近世、近代は、固定ケースなどで通史展示を行う。
- ・そのほか飯能の「まち」の特色として、旧真能寺村原に窯があった市指定文化財「双木本家飯能焼コレクション」の展示スペースを設け、併せて飯能まつりをパネルで紹介する。
- ・高萩市との友好都市交流との関わりで近世中山氏、また「まち」の発展に寄与した領主として黒田氏も取り上げる。

ウ、やま

(対象地域)南高麗・原市場・名栗・東吾野・吾野地区

(展示内容)

- ・「やま」は、信仰と西川林業の2つのテーマで構成する。
- ・信仰のシンボルとなるのは、国指定重要文化財である軍荼利明王立像(高山・常楽院)とする。
- ・そのほか長光寺雲版、山間地に展開する霊場(子ノ権現、八王寺など)の護符などを展示する。

ウ、地形・地質

- ・この周辺の土地の成り立ち、天覧山周辺から加治丘陵まで含めた地質を紹介する。
- ・岩石標本、河原の石などを展示する。

エ、四季の植物

- ・周辺で見られる四季の代表的な植物を写真で紹介する。
- ・引き出し式の標本箱を設置する。

オ、動物

- ・周辺に生息する哺乳類を写真・動画等で紹介する。
- ・食痕や糞などのフィールドサインを展示し、野外での観察ができるようにする。

カ、昆虫、両生類

- ・周辺に生息する昆虫(甲虫、トンボ、蝶など)、両生類(カエル・イモリ)を写真で紹介する。
- ・引き出し式の標本箱を設置する。

キ、鳥類

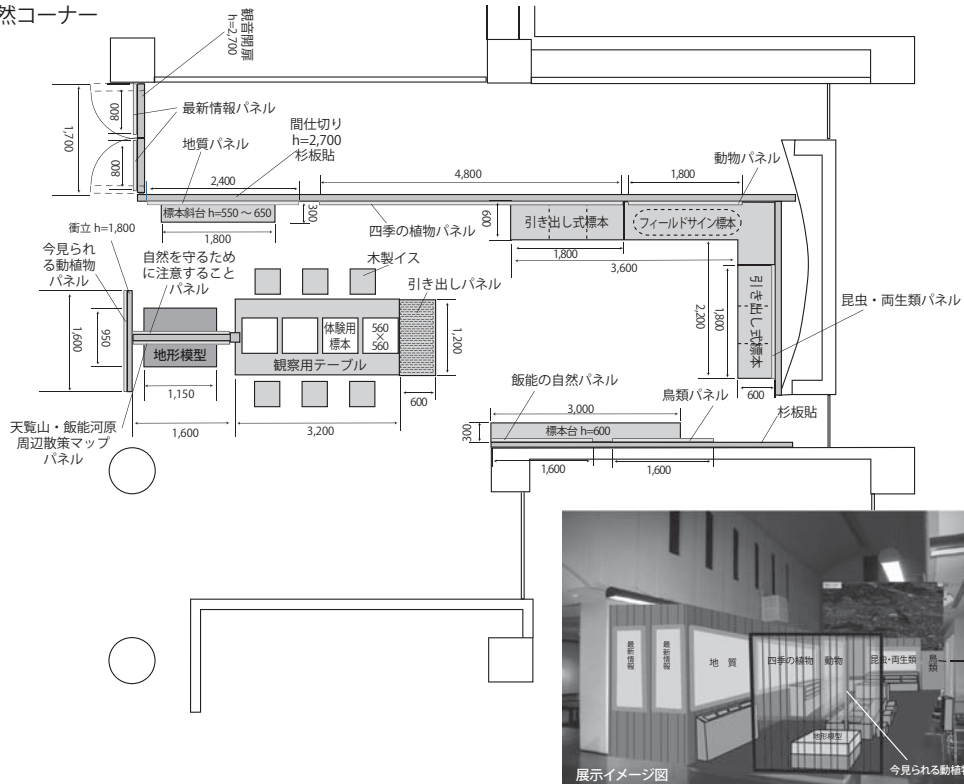
- ・周辺に生息する鳥類を写真で紹介する。
- ・鳥の鳴き声を聞くことができるものを設置する。

ク、飯能の自然・天覧山

- ・多峯主山以外に市内の特徴的な自然について紹介する。

常設展示改装計画案

(2)自然コーナー



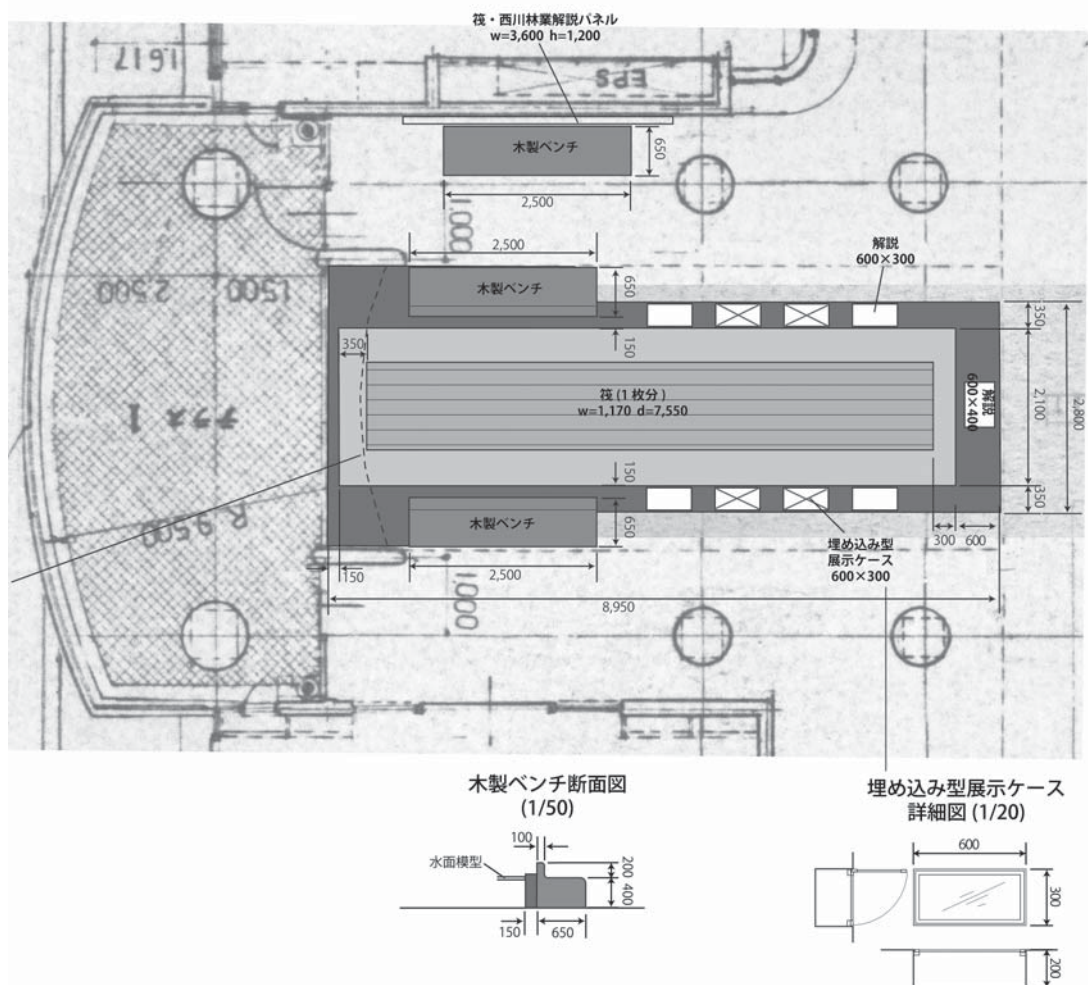
〔体験学習コーナー〕

- ・ハンズオン手法を用い身近に自然を体験できるようにする。
- ・体験できるキットは定期的に変更する。
- ・周辺で見られる動植物の図鑑となるものを用意し、調べられるようにする。

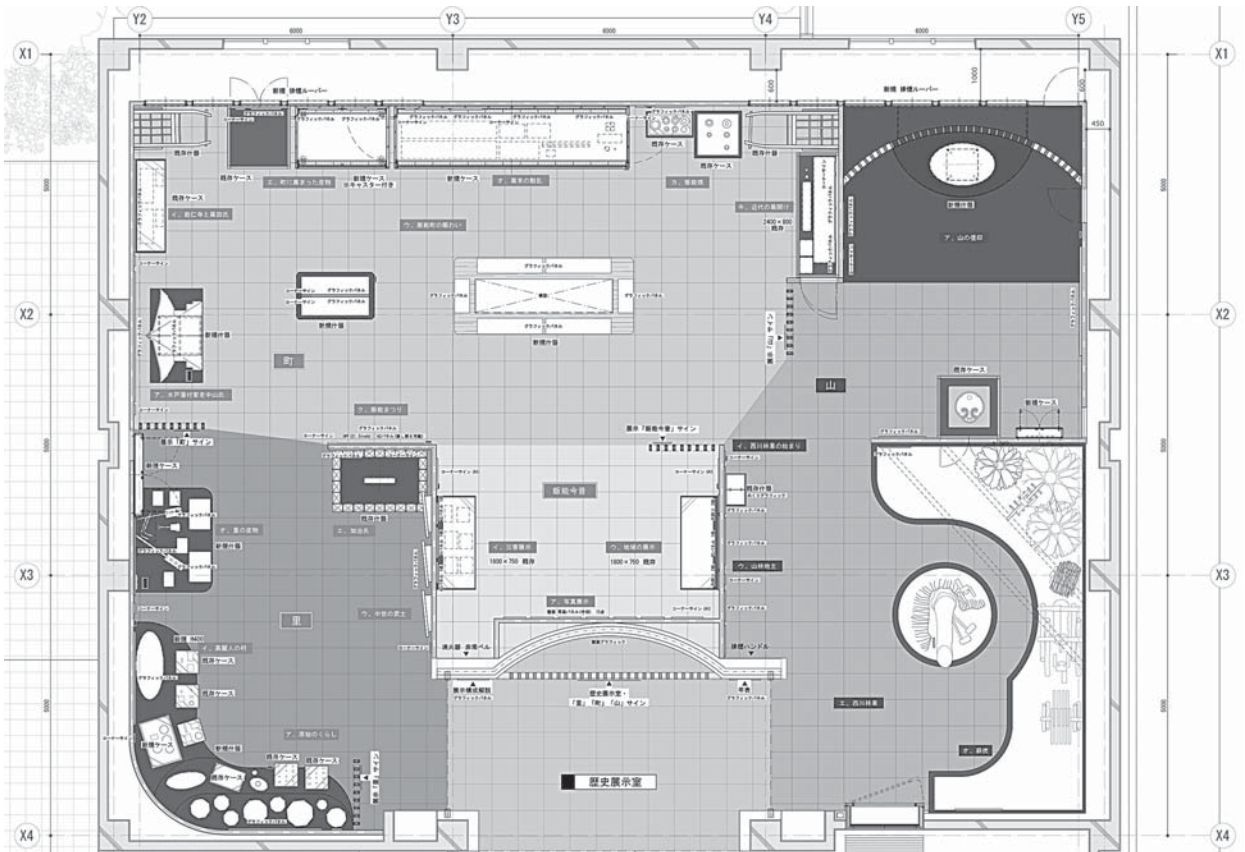
3 森林文化都市表象展示「筏」

- ・休憩コーナーのテラス側にある既設ベンチを撤去し、従来あるシンボル展示「筏」の1枚分のみを移設する。
- ・展示資料は従前のものを使い、周辺に関連資料を展示するケース、解説パネルなどを配置する。
- ・「筏」を囲む木枠に木製ベンチを作り付け、来館者の休憩スペースを確保する。

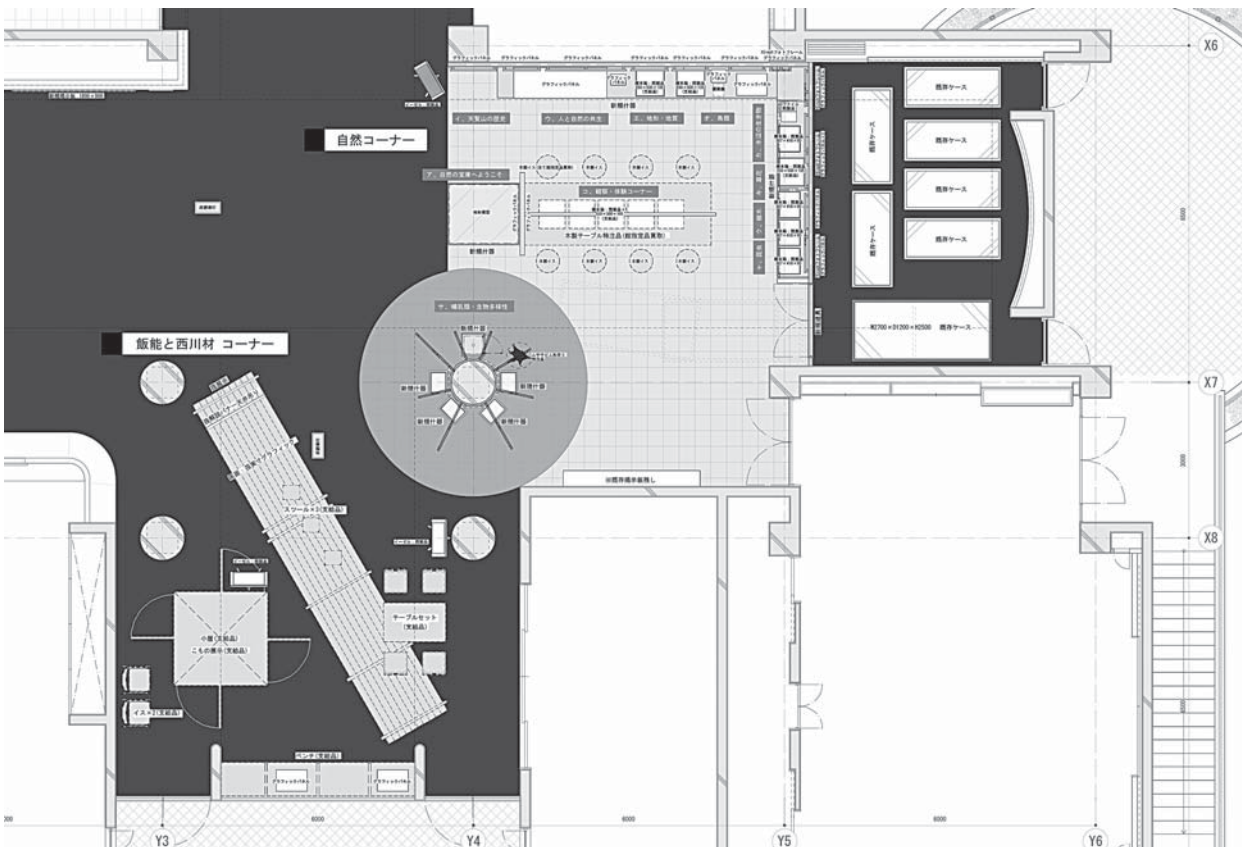
常設展示改装計画案(3) 森林文化都市表象展示



〈常設展示改装設計図書・抜粋〉



歴史展示室平面図



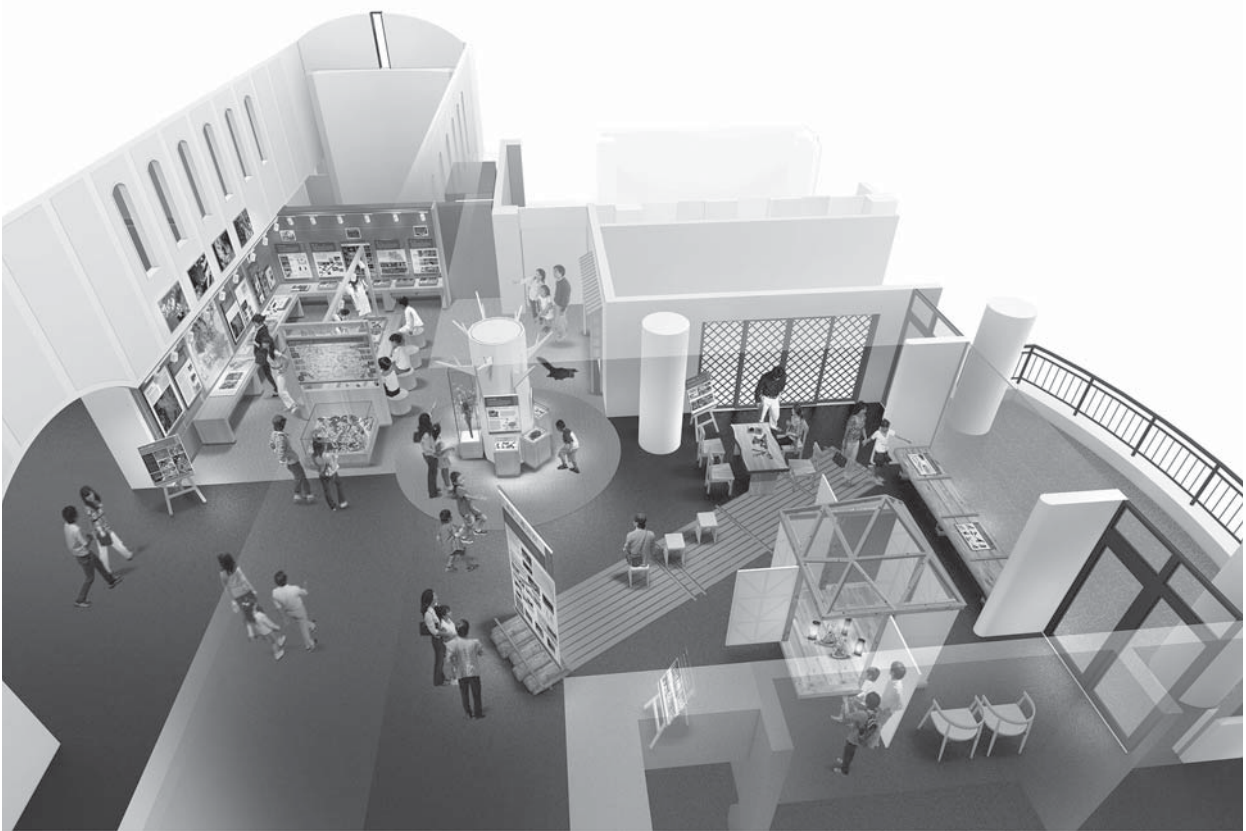
自然コーナー・飯能と西川材コーナー平面図



歴史展示室イメージパース (俯瞰)



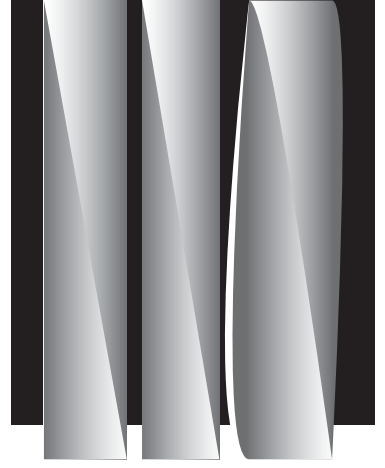
歴史展示室イメージパース (アイライン)



自然コーナー・飯能と西川材コーナーイメージパース（俯瞰）



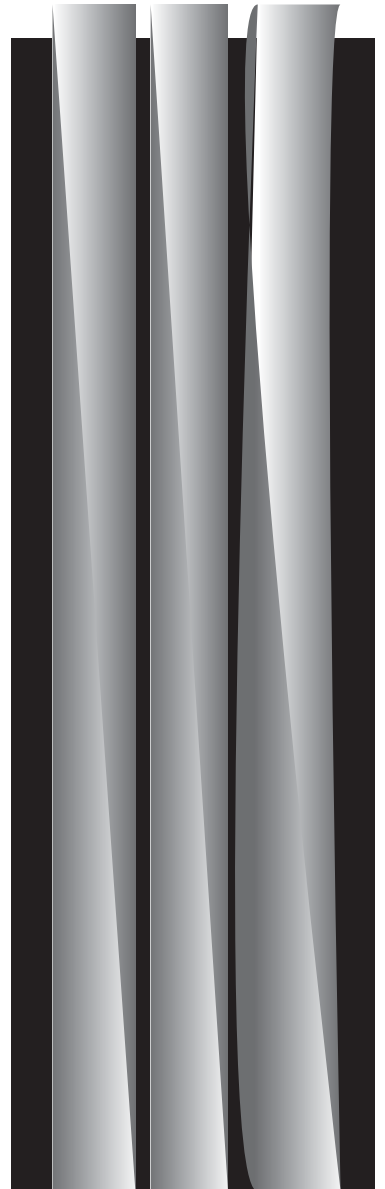
自然コーナーイメージパース（アイライン）



第 4 章

..... Chapter 4

【各種データ】



利用者数

平成28年度利用者数

単位：人（明記したものを除く）

月	開館日数 (日)	入館者数		入館者以外の利用者数						利用者合計 に対する 割合(%)	利用者 合計
		人数	1日平均	出張授業 受講者数	資料利用 者数	レファレン ス件数	講師派遣 受講者数	ホームページ アクセス 件数	合計		
4	25	2,124	85.0		9	14	108	727	858	28.8	2,982
5	25	2,316	92.6		9	28	224	954	1,215	34.4	3,531
6	23	2,249	97.8	74	9	20	47	786	936	29.4	3,185
7	25	2,699	108.0	74	15	34	5	983	1,111	29.2	3,810
8	25	2,499	100.0		8	42	0	1,026	1,076	30.1	3,575
9	25	2,225	89.0		11	10	48	1,069	1,138	33.8	3,363
10	26	3,022	116.2		13	13	46	1,204	1,276	29.7	4,298
11	24	3,097	129.0	135	11	14	64	1,059	1,283	29.3	4,380
12	22	1,818	82.6		9	12	0	710	731	28.7	2,549
1	23	2,482	107.9		7	9	80	733	829	25.0	3,311
2	24	2,752	114.7		10	17	114	823	964	25.9	3,716
3	27	3,383	125.3		23	7	52	502	584	14.7	3,967
合計	294	30,666	104.3	283	134	220	788	10,576	12,001	28.1	42,667

開館(平成2年度)から平成28年度末までの

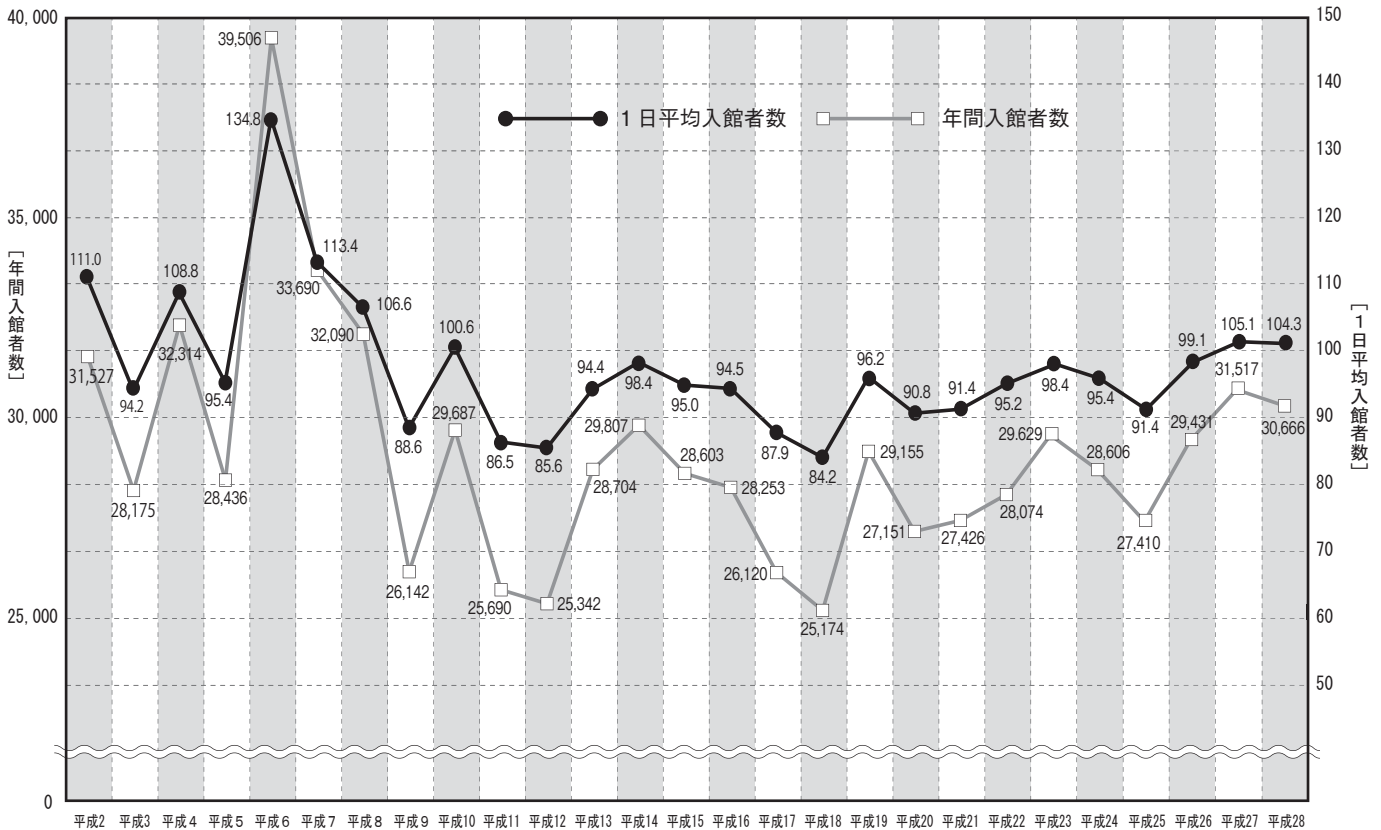
総入館者数 788,325人

開館日数 8,044日

1年平均入館者数 29,197.2人/年

1日平均入館者数 98.0人/日

〈入館者数の推移〉



歳出予算・決算

単位：円（明記したものを除く）

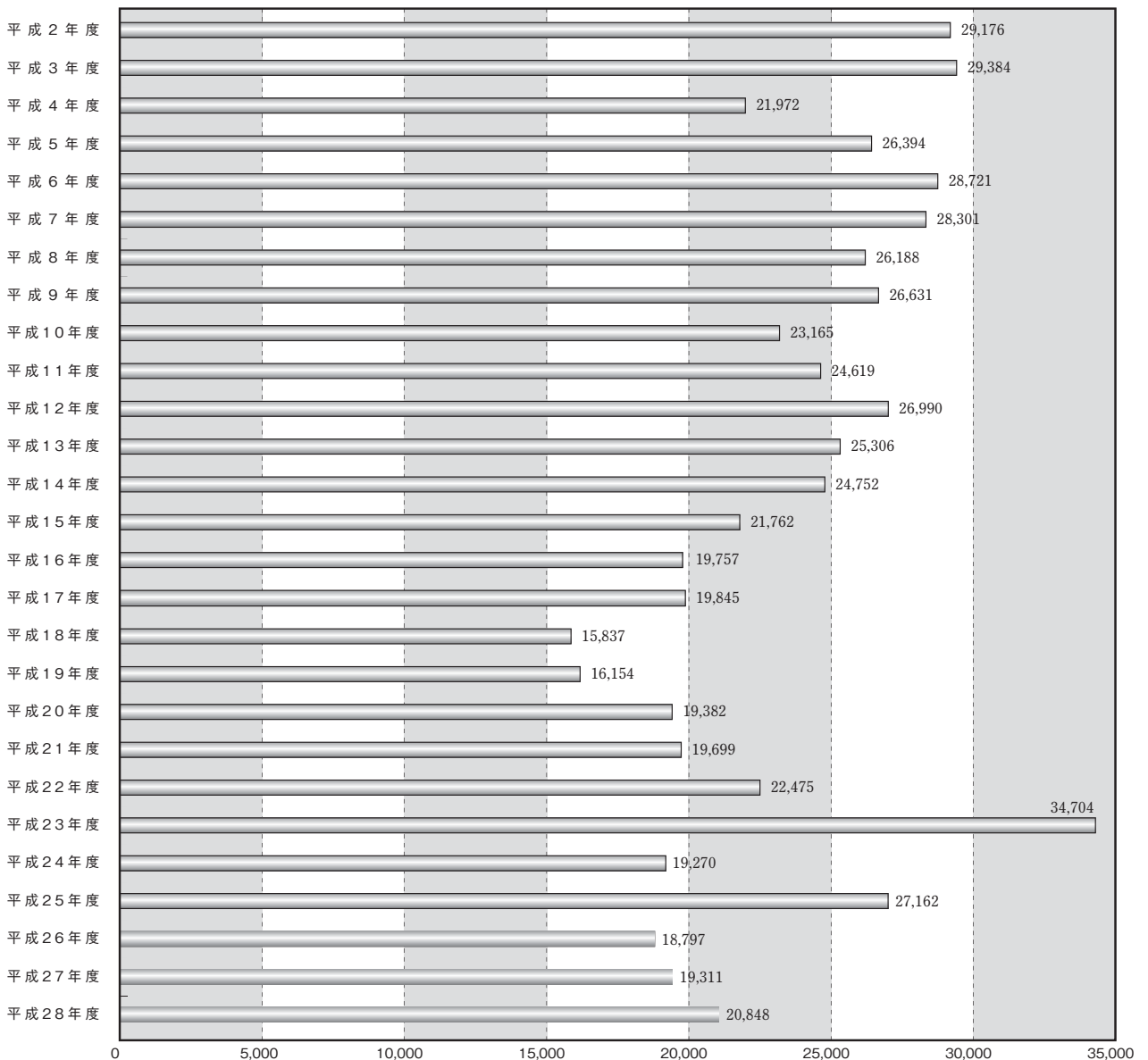
事業名 年度	郷土館事務費	展示・学習会 開催事業	資料収集・保存 事業	調査・研究事業	郷土館施設 管理事業	郷土館事業費 小計	常設展示 改装事業	郷土館費 合計	A(%)	B(円)	C(円)
26	予算額	6,588,000	3,667,000	1,732,000	614,000	6,196,000	0	18,797,000	0.07	231.8	638.7
	割合	35.0%	19.5%	9.2%	3.3%	33.0%					
	決算額	6,057,869	3,168,223	1,357,802	443,267	5,897,629	—	16,924,790	0.06	208.7	575.1
	執行率	92.0%	86.4%	78.4%	72.2%	95.2%	90.0%	—	90.0%		
27	予算額	6,034,000	3,700,000	2,007,000	227,000	7,037,000	0	19,311,000	0.07	239.4	612.7
	割合	32.8%	19.2%	10.4%	1.2%	36.4%					
	決算額	5,900,271	2,982,157	1,569,098	210,355	6,219,238	—	16,881,119	0.06	209.3	535.6
	執行率	93.1%	80.6%	78.2%	92.7%	88.4%	87.4%	—	87.4%		
28	予算額	6,219,000	3,266,000	1,542,000	646,000	6,475,000	2,700,000	20,848,000	0.07	259.4	679.8
	割合	34.37%	18.0%	8.5%	3.6%	35.6%					
	決算額	5,824,218	2,470,895	1,240,184	550,715	5,739,880	2,700,000	18,525,892	0.06	230.5	604.1
	執行率	93.7%	75.7%	80.4%	85.3%	88.6%	100.0%	88.9%			

当館事業費（人件費を除く）の

A：飯能市一般会計・決算支出済額に対する割合 B：市民1人あたり（当該年度の4月1日現在の人口）の金額 C：入館者1人あたりの金額

〈飯能市郷土館当初予算額の推移〉

単位：千円



※平成23年度は、調査研究事業に旧平岡レース建物調査、施設管理事業に名栗史料室の整備と旧名栗村役場解体費用が加えられたため、予算が大幅に増額した。
また平成25年度は、名栗ぐらしの展示室整備事業が加えられたため、やはり予算が大幅に増額した。

図書資料寄贈機関

埼玉県

上尾市教育委員会
朝霞市教育委員会
朝霞市博物館
入間市金堀沢遺跡調査会
入間市教育委員会
入間市西武わが街研究会
入間市博物館
入間市博物館・学校連携事業研究委員会
小鹿野町
小鹿野町教育委員会社会教育課
小川町教育委員会
奥武蔵文芸会
春日部市
春日部市教育委員会
春日部市郷土資料館
川口市立科学館
川越市立博物館
行田市郷土博物館
久喜市教育委員会
久喜市立郷土資料館
熊谷市
熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室
熊谷市立熊谷図書館
熊谷市立図書館
「蔵原伸二郎と飯能」刊行委員会
古代の入間を考える会
高麗川小学校100周年記念事業実施委員会
高麗神社社務所
埼玉県
埼玉県入間地区公民館連絡協議会
埼玉県教育委員会
埼玉県郷土文化会
埼玉県農業試験場
埼玉県平和資料館
埼玉県立川の博物館
埼玉県立さきたま史跡の博物館
埼玉県立自然の博物館
埼玉県立文書館
埼玉県立嵐山史跡の博物館
埼玉県立歴史と民俗の博物館
埼玉考古学会
さいたま市
さいたま市大宮盆栽美術館
さいたま市立博物館
さいたま文学館
坂戸市教育委員会

サトエ記念21世紀美術館
狭山古文書勉強会
首都圏中央連絡道路建設促進期成同盟会
杉戸町教育委員会
駿河台大学
駿河台大学野村ゼミナール(平成28年度)
草加市教育委員会
租税大学校税務情報センター租税史料室
大正大学教務課学芸員課程
秩父市教育委員会
鶴ヶ島市遺跡調査会
東部地区文化財担当者会
ときがわ町教育委員会
所沢市生涯学習推進センター
戸田市立郷土博物館
新座市教育委員会
公益財団法人日本河川協会彩の川研究会
日本工業大学工業技術博物館
飯能市
飯能市企画総務部企画調整課
飯能市教育委員会
飯能市古文書同好会
飯能市租税教育推進協議会
飯能市役所
飯能地方のわらべうた調査委員会
日高市
ふじみ野市立大井郷土資料館
富士見市立水子貝塚資料館
富士見市立難波田城資料館
本庄市教育委員会
三郷市
三郷市立郷土資料館
宮代町郷土資料館
毛呂山町教育委員会
毛呂山町歴史民俗資料館
柳原囃子保存会
吉川市
吉見町教育委員会
立正大学博物館

東京都

荒川区教育委員会
板橋区教育委員会
板橋区立郷土資料館
桜美林大学
大田区立郷土博物館
青梅市教育委員会

青梅市郷土博物館
青梅市文化財保護指導員連絡協議会
学習院大学史料館
葛飾区教育委員会生涯学習課
葛飾区郷土と天文の博物館
北区教育委員会
清瀬市郷土博物館
慶應義塾
独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所
無形文化財遺産部
駒澤大学大学院史学会
財団法人渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
昭和館
真生会館
杉並区立郷土博物館
専修大学考古学会
台東区教育委員会
立川市教育委員会
多摩中央信用金庫
多摩市文化振興財団
たましん地域文化財団
調布市郷土博物館
(株)東京航業研究所
東京都江戸東京博物館
東京都三多摩公立博物館協議会
東京都歴史文化財団事務局総務課
豊島区
虎ノ門・六本木地区市街地再開発組合
西東京郷土史研究会
日本博物館協会
野村不動産
八王子市
八王子市教育委員会
八王子市総合政策部市史編さん室
東大和市教育委員会
公益財団法人東日本鉄道文化財団
東大和市教育委員会
日野市
日野市郷土資料館
府中市郷土の森博物館
福生市教育委員会
文京ふるさと歴史館
町田市教育委員会
三井不動産レジデンシャル(株)
港区教育委員会
港区立港郷土資料館
武蔵村山市教育委員会(武蔵村山市立歴史民俗資料館)
明治大学

明治大学学芸員養成課程
株式会社リーガル不動産
早稲田大学

その他

岩宿博物館
大石原千居遺跡発掘調査団
大村市
小山市立博物館
各務原市歴史民俗資料館
かすみがうら郷土資料館
かすみがうら市歴史博物館
神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議
神奈川大学日本常民文化研究所
公益財団法人元興寺文化財研究所
菊川市教育委員会
近世村落史研究会
群馬県立歴史博物館
国立歴史民俗博物館
財団法人古代学協会
寒川町
滋賀県立琵琶湖博物館
下関市立考古博物館
常陽芸文センター
水中遺跡調査検討委員会
高崎市観音塚考古資料館
高萩市教育委員会生涯学習課
高萩市教育委員会
高萩市市長公室
田原市教育委員会
田原市博物館
千葉県教育振興財団
中世葬送墓制研究会
土浦市立博物館
津山郷土博物館
長久保赤水顕彰会
流山市教育委員会
流山市立博物館
野田市郷土博物館
平塚市博物館
藤沢市
藤沢市文書館
松代文化施設等管理事務所(真田宝物館)
松戸市立博物館
南三陸海岸ジオパーク準備委員会
茂原市立美術館郷土資料館
山梨県立大学
横浜開港資料館
陸前高田市博物館

飯能市郷土館条例

平成元年12月27日 条例第33号

(設置)

第1条 郷土の歴史、民俗及び考古に関する資料(以下「資料」という。)の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、これらの活用を図り、もって市民の郷土愛と文化の向上に寄与するため、飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(業務)

第2条 郷土館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料の調査及び研究に関すること。
- (3) 資料の展示及び利用に関すること。
- (4) 資料についての専門的な知識の啓発及び普及に関すること。
- (5) その他郷土館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(管理)

第3条 郷土館は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 郷土館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第5条 郷土館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)である場合を除く。)
- (2) 休日の翌日(この日が日曜日又は休日である場合を除く。)
- (3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第6条 郷土館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第7条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、郷土館の利用を制限することができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) その他郷土館の管理上支障があると認められるとき。

(使用料)

第8条 郷土館の使用料は、無料とする。

(損害賠償)

第9条 郷土館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、郷土館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は

一部を免除することができる。

(郷土館協議会)

第10条 郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため、飯能市郷土館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(協議会の組織)

第11条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験者

(平24条例17・一部改正)

(委員の任期)

第12条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第13条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第14条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第15条 協議会の庶務は、郷土館において処理する。

(委任)

第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。

(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

2 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。

[次のよう]略

附 則(平成24年条例第7号)

(施行期日)

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に改正前の飯能市郷土館条例の規定により任命されている飯能市郷土館協議会の委員は、その任期満了の日までは、改正後の飯能市郷土館条例の規定により任命された委員とみなす。

飯能市郷土館条例施行規則

平成2年3月31日 教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市郷土館条例(平成元年条例第33号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、郷土館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、郷土館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室(以下「学習室等」という。)は、郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等(図書室を除く。)を利用しようとする者は、飯能市郷土館施設利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(郷土館資料の利用及び許可)

第5条 郷土館の資料(以下「資料」という。)は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市郷土館資料利用許可申請書(様式第3号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館資料利用許可書(様式第4号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、

利用の条件を変更し、又は利用の許可を取り消すことができる。

(1) 利用許可の申請に偽りがあったとき。

(2) 条例又はこの規則に違反したとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第7条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市郷土館資料寄贈申請書(様式第5号)を、資料を寄託しようとする者は、飯能市郷土館資料寄託申請書(様式第6号)を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市郷土館資料受領書(様式第7号)を、資料を寄託した者に対して飯能市郷土館資料受託書(様式第8号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、郷土館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第7号)

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年教委規則第5号)

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

附 則(平成15年教委規則第9号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年教委規則第20号)

この規則は、平成18年1月1日から施行する。

様式第1・3・5・6号(次頁)、様式第2・4・7・8号(省略)

様式第1号 (第4条関係)

担 当 館 長

飯能市郷土館施設利用許可申請書

飯能市郷土館長 殿 平成 年 月 日

団体名 _____

住所 _____

申請者 氏名 _____

電話番号 () _____

下記のとおり施設を利用したいので申請します。

利用責任者	住所			
	氏名		電話番号	()
利用目的				
利用日時	平成 年			
	月 日 時 分 ~ 月 日 時 分			
利用施設	<input type="checkbox"/> 学習研修室	男 人 女 人 計 人		
	<input type="checkbox"/> 特別展示室	展示品 () 点		
利用備品	<input type="checkbox"/> スライド映写機	<input type="checkbox"/> ビデオ機器	<input type="checkbox"/> 展示パネル	
	<input type="checkbox"/> 展示ケース	<input type="checkbox"/> 展示台	<input type="checkbox"/> その他 ()	
その他特記事項				

※ □内は、該当するところに✓印をつけてください。

様式第1号 施設利用許可申請書

様式第5号 (第7条関係)

担 当 館 長

飯能市郷土館資料寄贈申請書

第 号

(あて先) 飯能市郷土館長 平成 年 月 日

住所 _____

申請者 氏名 _____

電話番号 () _____

下記のとおり資料を寄贈したいので申請します。

記

資料名	数量	備考

様式第5号 資料寄贈申請書

様式第3号 (第5条関係)

担 当 館 長

飯能市郷土館資料利用許可申請書

(あて先) 飯能市郷土館長 年 月 日

団体名 _____

住所 _____

申請者 氏名 _____

電話番号 () _____

下記のとおり郷土館資料を利用したいので申請します。

利用目的				
利用期間	年 月 日 から	年 月 日まで		
利用場所	館内・館外 ()			
利用方法				
利用資料	分類番号	資料名	数量	備考
輸送方法	館外利用のみ ()			
利用責任者				
特記事項				

返却日 受取者

様式第3号 資料利用許可申請書

様式第6号 (第7条関係)

担 当 館 長

飯能市郷土館資料寄託申請書

第 号

(あて先) 飯能市郷土館長 年 月 日

住所 _____

申請者 氏名 _____

電話番号 () _____

次のとおり資料を寄託したいので申請します。

記

寄託期間	年 月 日から 年 月 日まで		
寄託資料	資料名	数量	備考

様式第6号 資料寄託申請書

職員

平成28年度

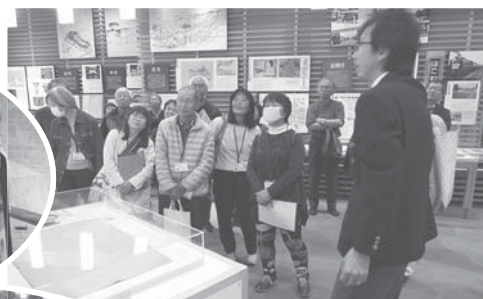
館長 柳戸 信吾
 主幹(学芸員) 尾崎 泰弘
 主査(学芸員) 村上 達哉
 主事(学芸員) 宮島花陽乃

臨時(資料整理・展示準備)

石田 朋子
 入子美佐子
 臨時(事務) 加藤 緑
 臨時(施設管理) 野口 修

● 市民学芸員(敬称略)

浅見敏夫	池田勝造	石原紀子	石森実三	板津沙耶香	伊藤孝文	伊藤美津江
宇津木繁生	大木有子	大野さく子	大野正一	久津輪 社	功力英雄	神津忠雄
小暮 進	小林茂樹	小林豊子	子安修二	子安裕子	坂本利二	佐々木初江
佐藤浩一	篠宮敏次	嶋崎季子	嶋田恭子	清水芙美子	杉山玉子	関根秀俊
遠山光保	富沢武男	永田幸雄	仲舘祐子	中藤栄寿	中野和子	中山 功
双木幸三	西久保治子	根立範子	長谷川志保子	馬場朱美	原田恵子	福嶋信子
別府 愛	松田早苗	村岡裕子	柳戸淳吉	山川貞治	山岸忠義	山崎和永
山田栄子	和島和恵	渡邊栄子	渡邊雅子	渡辺雄一郎	(以上54名)	

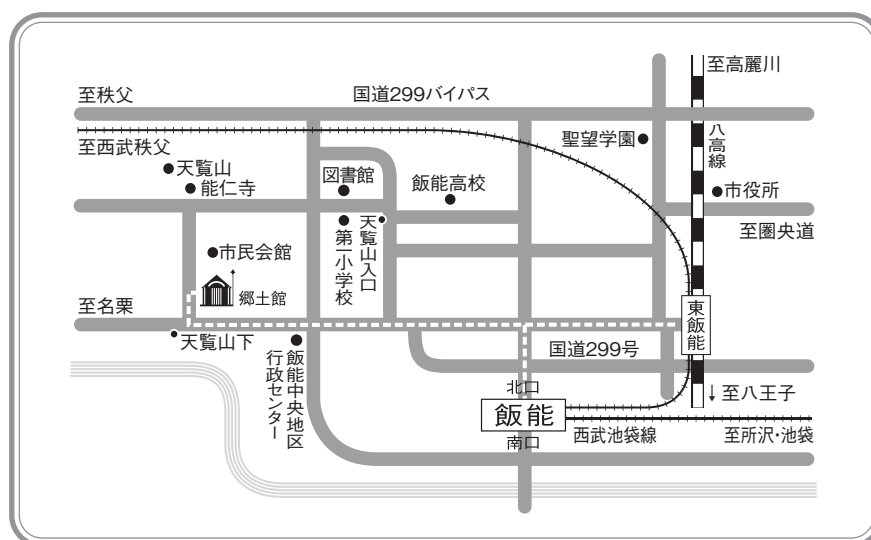


利用案内

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：月曜日、祝日の翌日（ただしこの日が休日の場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）
- 入館料：無料

交通案内

- 最寄インター：圏央道狭山日高ICより約20分
- 最寄駅：西武池袋線飯能駅下車 北口より徒歩約15分
または、国際興業バス 北口ロータリー2番乗り場より名栗車庫行き・
西武飯能日高行き等（名栗方面行き）「天覧山下」下車



飯能市郷土館館報 郷土館のプロフィール

第14号

平成30年3月29日発行

発行 飯能市郷土館
〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431
E-mail: museum@city.hanno.lg.jp
http://www.city.hanno.lg.jp/hall/museum.html

制作 (有)クレバラー・デザインスタジオ
〒357-0044 埼玉県飯能市川寺106-4
TEL (042) 974-5260

〈印刷の仕様〉

- | | | |
|---|---------|----------------------------------------------------|
| 1 | 判 型 | A4判 |
| 2 | 紙 質 | (表紙) マットコート紙 菊判 111 kg
(本文) クリームキンマリ 菊判 62.5 kg |
| 3 | 印刷方法 | オフセット印刷1色刷り (本文) 76 ページ |
| 4 | 印刷内容 | モノクロ写真 61 枚 |
| 5 | スクリーン線数 | 175 線 |
| 6 | 製 本 | 無線綴じ |



小さな発見 新たな出会い 大きな喜び

飯能市郷土館

埼玉県飯能市大字飯能 258-1
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431